

599-500



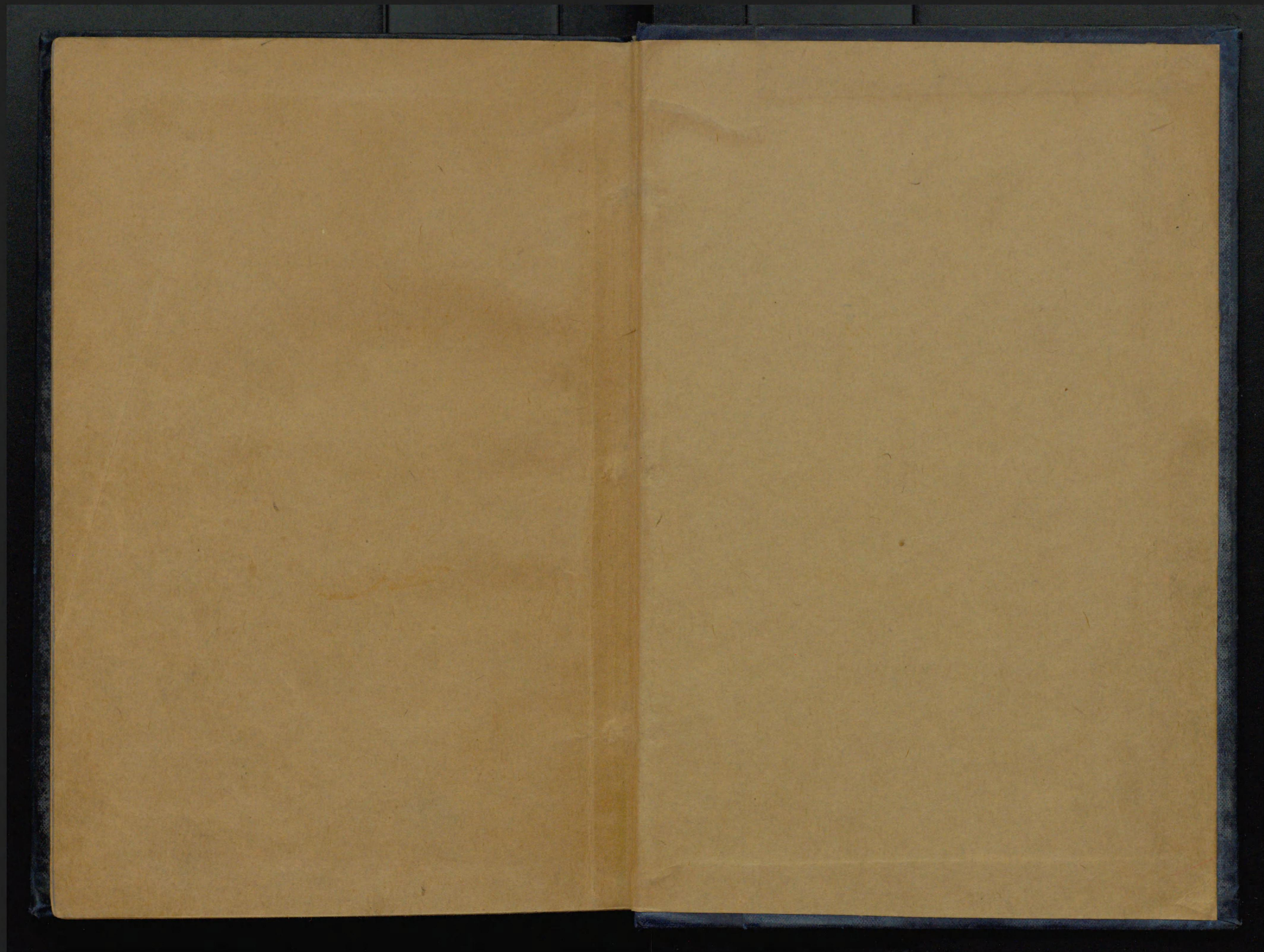
1200501529666



原本を出納する
(複写は別室にて
全冊マイクロフィルムから)

×
複写

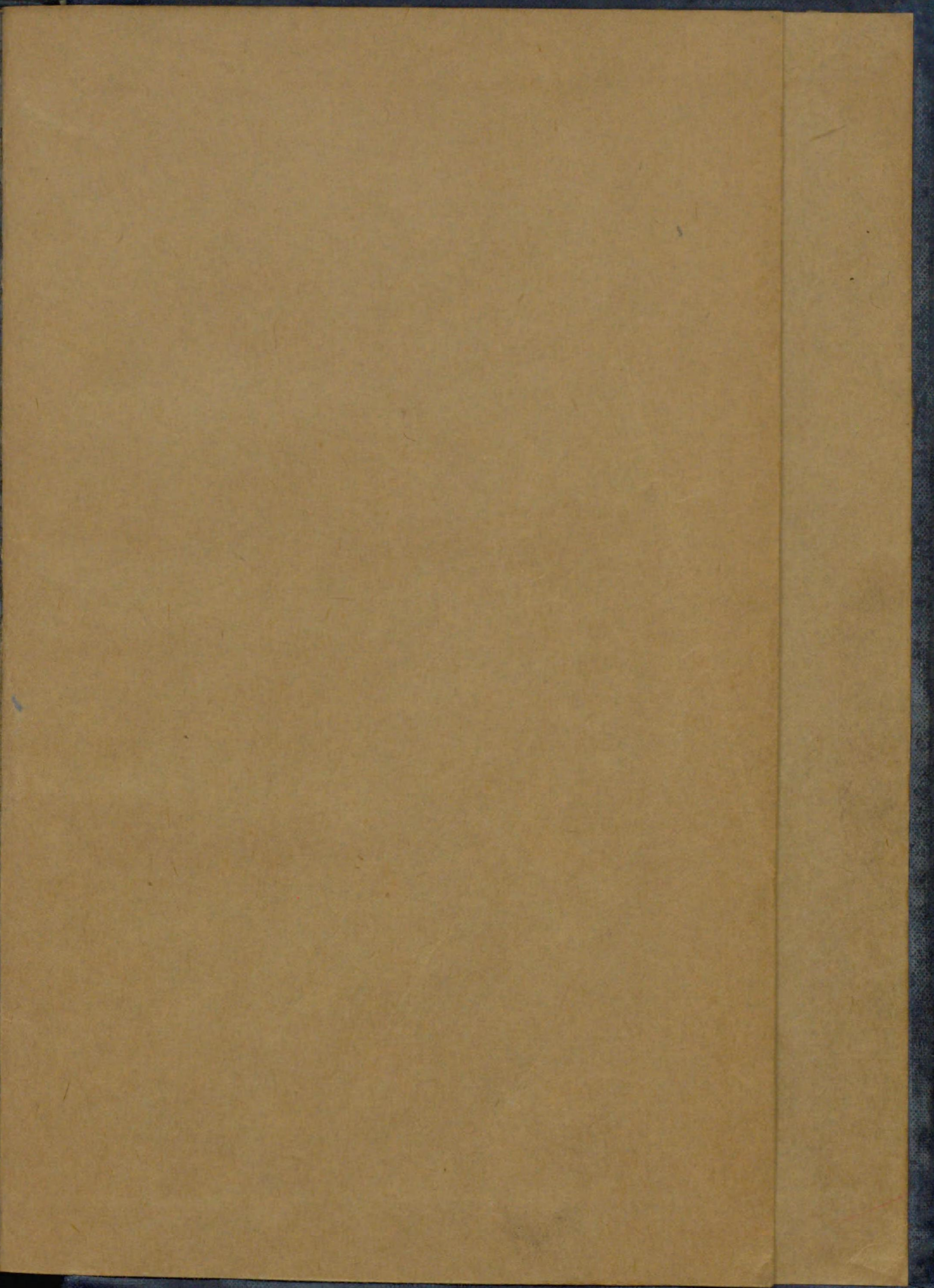


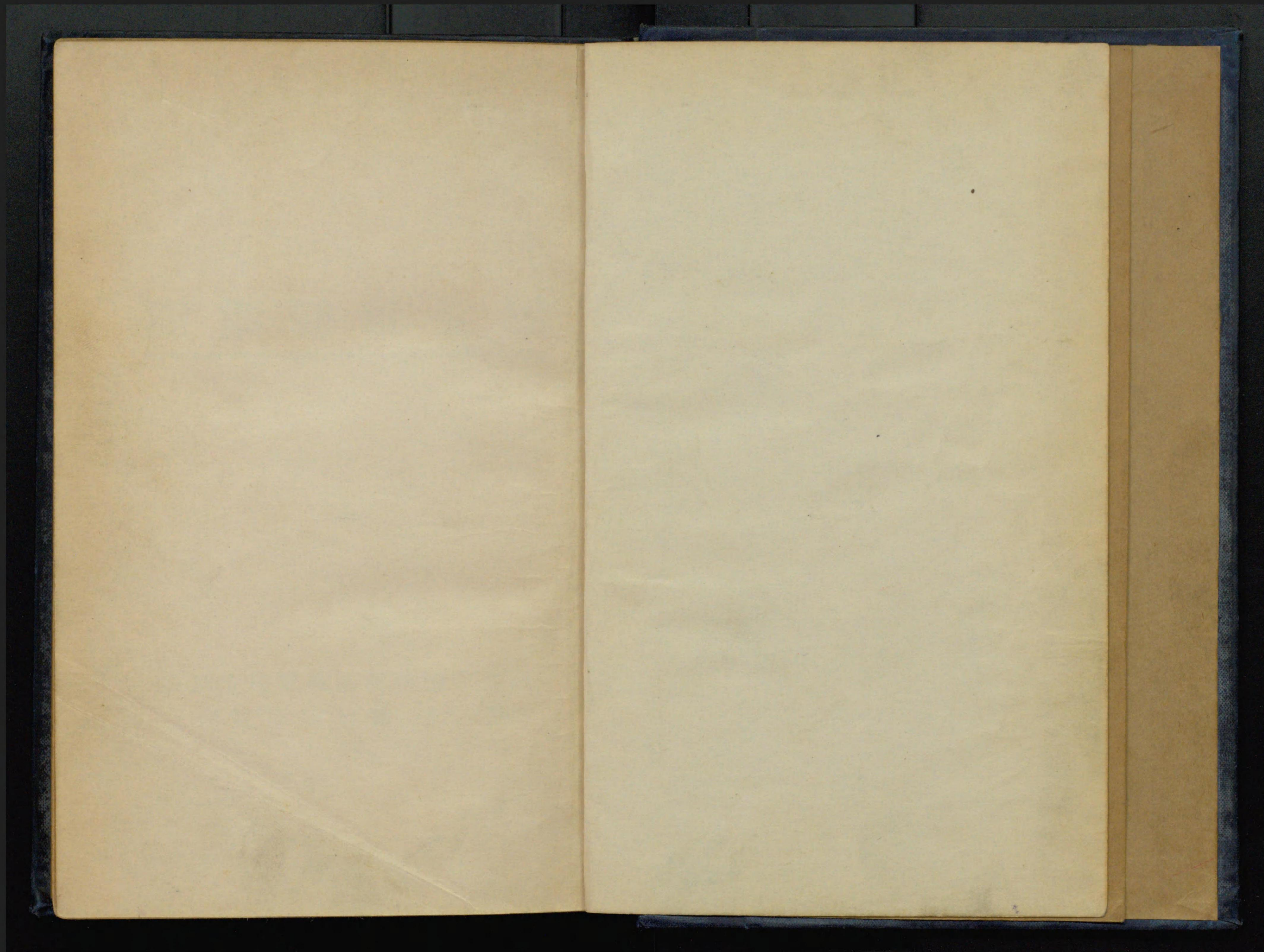


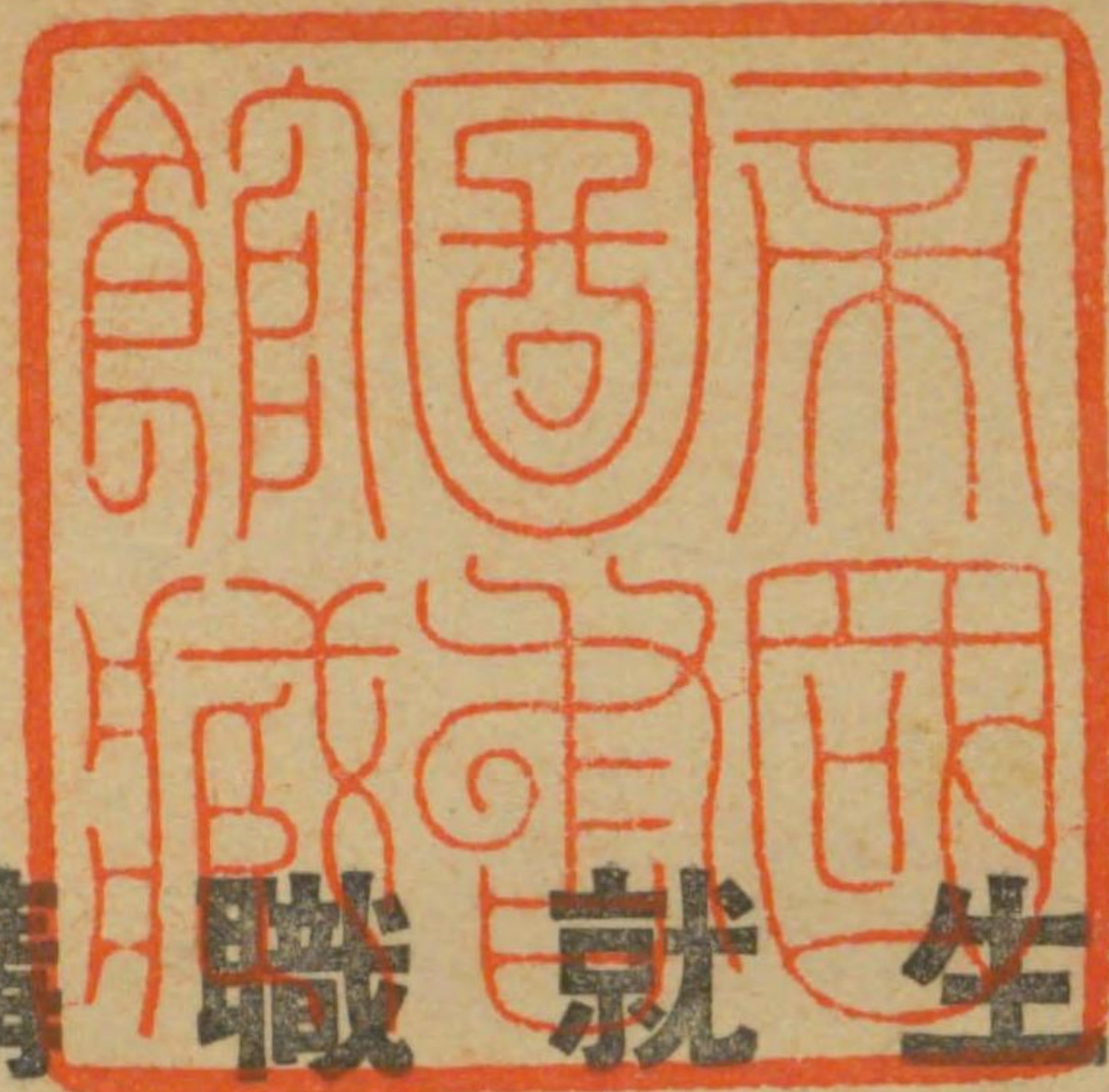
297

學生就職講座

東京市知識階級職業紹介所編
東京・大阪 朝日新聞社發行







學 生 就 職 講 座



東京市職階級介紹所編
東京・大阪 朝日新聞社發行



599-500

凡例

一、本書は、東京市知識階級職業紹介所主催、内務省・文部省・東京朝日新聞社後援の下に、昭和九年十月廿七日より七回に亘つて開催された「知識階級職業指導講座」の速記を編輯収録したものである。

一、本講座は、主として近く卒業の各大學専門學校及び中等學校學生生徒の参考に資せんことを期したものであるが、在校中の學生生徒並に高級學校進學志願者に對しても、亦好指針たるを信ずる。

一、速記は、それぞれ各講師の閱讀を経たる上、便宜講演の順序によつて編輯した。

目次

| | | |
|--------------------------|----------------|-----|
| 序に代へて…………… | 林 清…………… | 一 |
| 就職戦線に立たんとする人へ…………… | 粟 屋 謙…………… | 三 |
| 新聞社員たらんとする人へ…………… | 鈴木文史朗…………… | 一三 |
| 雑誌その他出版社員たらんとする人へ…………… | 山 本 實 彦…………… | 三三 |
| 官公署員たらんとする人へ…………… | 富 田 愛 次 郎…………… | 五一 |
| 法務従事員たらんとする人へ…………… | 鳩 山 秀 夫…………… | 六三 |
| 銀行信託其他金融會社員たらんとする人へ…………… | 佐々木修二郎…………… | 七一 |
| 保險會社員たらんとする人へ…………… | 矢 野 恒 太…………… | 八九 |
| 書記的職業の従事員たらんとする人へ…………… | 木 村 増 太 郎…………… | 一一一 |
| 百貨店及一般商店員たらんとする人へ…………… | 北 田 内 藏 司…………… | 一四一 |
| 瓦斯・電氣・水道従事員たらんとする人へ…………… | 神 谷 啓 三…………… | 一六一 |
| 土木・建築従事員たらんとする人へ…………… | 武 富 英 一…………… | 一八一 |

| | |
|----------------------------|----------------|
| 運輸従事員たらんとする人へ…………… | 新井 堯 爾……………一九九 |
| 學校職員たらんとする人へ…………… | 吉田 熊 次……………二二七 |
| 畫家・彫刻家たらんとする人へ…………… | 石井 柏 亭……………二四五 |
| 音楽・俳優・舞踊家たらんとする人へ…………… | 城戸 四 郎……………二六一 |
| 著述及文藝家たらんとする人へ…………… | 久保田万太郎……………二七五 |
| 附録——俸給生活者職業紹介教育程度別給料調…………… | |

序に代へて

東京市社會局職業課長 林

清

今回東京市知識階級職業紹介所の主催に依りまして、知識階級職業指導講座を設けました所、内務省及文部省の御賛同を得、且つ東京朝日新聞社の非常なる御後援を得まして、こゝに開講の運びに至りましたことは、主催者一同の欣快に存する所であります。

近年就職難が次第に深刻に趨きます中にも、知識階級の就職が殊に困難でありますことは、學生諸君の爲にも洵に御氣の毒に存するのであります。この状況は將來に於きましても俄かに改まるとは考へられぬのでありますけれども、私共職業紹介の事業に携はる者の經驗に依りますると、何時の場合にも一方には人を求むるものが相當にあり、他方には職を求むるものがあり餘る程あるのであるに拘らず、就職する者の數は極めて少いのでありまして、職を求めて居る者の極く一部分にしか當らない状況であります。固よりそれには幾多の原因が存するのでありますけれども、求職者に於てその志望する職業に付て確乎たる自信を持たぬことが、求人者をして雇つた後の結果に就て懸念を懐かしむる爲に、遂に不調に終る場合が相當多いのであります。若し求職者に於てその志望する職業に付て一通りの知識を持ち、且つその職業に關して十分の自信と熱意を持ちますならば、求人者は必ずその自信と熱意に動かされまして、就職の成立を見るに至

るであらうといふことは、私共平素の経験に鑑みまして確信を以て申上げることが出来るのであります。
今回は近く社會に出られる學生諸君の爲に、社會各方面の權威者に御願ひ致しまして、それらの職業部門に於ける實況や職業人としての心掛を御話して戴いて、他日諸君がその行くべき途を決定せられる場合の参考に供したいと存するのであります。幸に諸先輩の御快諾を得まして、講演をして戴くことになりました。

就職戦線に立たんとする人へ

大日本職業指導協會理事長 粟屋謙

社會生活こそ最後の決勝戦——決勝戦に優勝する爲の準備——第一適材適所の選擇——學校教育と職業指導——第二志望の職業を理解せよ——就職してからはスタートが大切——

——差りに轉職するな——最初の方針を變へるな——就職希望者は多いが適材は乏しい——

諸君は、明春大學若くは専門學校を卒業される方でありませう。長年の學校生活を不屈不撓の精神に依て御勉強された結果首尾能く終了さる、その直前に居らるゝ方々であります。洵に前途に大きな希望を持つて居らるゝ事と思ひます。私共も経験がありますが、長らく學校生活をしてさうしてそれを終る。卒業期の前といふものは非常に愉快なものである。人生に於ける最も幸福な時期の一つであると思ふのであります。皆様方はその幸福の時期に際會して居られますから、眞に胸も躍るが如き有様であらうと思ふのであります。唯併し此頃の學生諸君は昔の吾々の時代とは違つて、所謂就職難といふことが前に控へて居る爲めに、或はその樂しき卒業に際しても多少暗い影がさして居る。このことは皆さん方に對して洵に御氣の毒に思ふのであります。併しこの就職難と申すことも、これはやり方に依つては十分突破することの出来ることと思ひます。就職率は今年は前年に比較して一割好くなつて五割近い就職率になつた、といふことであります。世の中もこの就職戦線から見まして多少明るくなつて參つたことは誠に同慶な次第であります。皆さん方は長

就職戦線に立たんとする人へ

年色々の學校を経由して、大學若くは専門學校といふ一番高等な學校まで進まれ、これを終らるゝ方々であります。恰度運動競技に比較致しますれば、最後のゴールに正に入らんとして居られる方々である。洵に極めてたいことであります。唯社會生活の全體から見ますとこれで終るものではない。更に實社會に入つてこゝで活動せなければならぬ。社會の生活から見ますと、本當の決勝線に入るのはいからであります。皆さんのこれまでに御經由になつたことは、先づ第一豫選、第二豫選、第三豫選と濟されて、決勝戦の出場資格を得られたものであると考へるのであります。この決勝戦が中々大切なものであつて、又非常に困難なものであると思ふのであります。この決勝戦に於て優勝な地位を占めてこそ、初めて皆様方のこれまで御勉強になつた眞の目的が達せられるのであります。

この決勝戦に優勝するに付ては色々な準備が要すると思ふのであります。一つは自己の能力を付ける決勝戦に於て必ず優勝するといふ所の能力を自分に養ふといふことが必要であります。これまで皆さんが學校に於て色々修養され勉強されたことは、この能力、資格を作る爲に御努めになつたことと思ふのであります。この決勝戦と申しましても運動競技に付て見ても色々な種目があるのであります。トラツク、フィールド、或は水泳、或は野球、庭球等色々な種類があります。トラツク、フィールドの中にも色々な種目があります。水泳の選手になる資格のあるものが必ずトラツクの優勝者ではない。又砲丸投の名人が短距離の選手になることも出来ない譯であります。それ〴〵所謂適材適所、自己の持つて生れた能力、境遇等に依りまして適當する種目があるのであります。

社會の職業に付ても同様であります。皆それ〴〵適當する部門があるのであります。或る方面に行けば非常に伸びる人でも、その方針を誤りますと必ずしも良い成績は得られない、如何に勉強しても良好なる成績は得られないといふ所があるのであります。それでありますから職業に就く場合に當りましては、最も自己に適する所の所謂適材適所といふ方面を選ぶ必要があると考へるのであります。その顯著なる例を申しますれば、例へば音楽であるとか、美術であるとかいふやうなものは、これは私共のやうなものが如何に勉強して見た所で迎も優秀にはなれない、これは天賦の性質才能に依つて音楽に適し、美術に適する所の人があります。これなどは最も顯著な例であります。その外の職業に付てもこれと同様なことが澤山あると思ふのであります。それでありますから、吾々が職業を選択する場合に於ては、自己に最も適當した方面に進むといふことを先づ第一に考へねばなりません。その適當した方面を選ばなければ、今まで學校教育は唯入つて來る人間の自由に委せて、入つて來た人間を教育するといふだけでありました。又父兄が子弟の職業を選ぶ場合に於きましても、或る仕事が大變都合がよいとか、或は自分の家は先祖傳來商業をやつて居るから商業をやらせる、或は醫者の子供であるからその職業を繼續させるといふやうな、さういふやり方が多かつたのであります。併しこれは間違つたやり方でありまして、その當人の能力を主眼として適當な職業を選ばなければならぬと思ふのであります。

又學校時代に於ても當人に適當する職業教育を授くる様にする事が必要であります。それが爲に近來職業指導といふことを廣く教育方面に於ても唱へるやうになつたのであります。此職業指導と申しますことはアメリカに於て最も早く發達して、「ヴォーカル・ガイダンス」といふ言葉で言つて居りますが、この職業指導といふことを盛んにやつて居るのであります。社會に出て働きますことは、これは先にも申しますや

うに決勝戦であります。この決勝戦に進む場合に先づ第一豫選、第二豫選、或は第三豫選と色々な豫選を経なければならぬ、その豫選に入る場合に於ても、自分に最も適當する方面、水泳に適當するものは水泳の準備をする、短距離に適當する人は短距離、中距離の人は中距離、或は棒高跳、槍投といふやうに自己に最も適當した方面を選ばねばなりません、學校教育ではこれをどういふ所でやるべきかといふと、小學校を卒業する時、専門の教育に入る場合に先づ以てやれば一番完全に行く譯であります。小學校から進んで普通教育では中學校、高等女學校、専門的のものとして農工商等の實業學校があります、境遇能力に依つて何れに進むかといふことは、この小學校卒業の時に適宜に選んでさうして準備する、更に進んで専門學校、大學に進む場合は、自分の將來従事すべき職業を眼中に置いて、一番適當する所は何處かといふ學校の種類を決定しなければならぬと思ふのであります。

私共の關係して居る大日本職業指導協會では、この學校の選擇、或は小學校其他の學校を卒業して職業を選擇するといふ場合に、その能力境遇に應じて如何なる方面に行くがよいかといふことを指導する仕事をし居るのであります。又職業指導に關する各種の實際問題の研究を續けて居るのであります。只今全國に十五の支部を有つて居りまして、相當多數の會員もあり、相當の成績を擧げて居ります、併し尙ほ現在に於ては一般社會にこの職業指導の重要性が理解されて居りませぬ爲に、未だ日本全般に對して非常なる貢獻をするといふ程度に達して居らないことは甚だ遺憾なことであると思ひます。併し將來に於てはこの職業指導といふことを徹底的にやる必要がある、又學校教育のやり方もこの職業指導といふことを眼中に置きまして、さうして今までのやり方を餘程變へて行かなければならぬといふやうに私共は考へて居るのであります。

皆様方は既に大學若くは専門學校を終らんとせられる方でありませぬ。今更小學時代から立戻つてその準備をするといふことは出来ないものであります。併し皆さん方は自己の向ふべき方面に付ては十分に御考究になり、専門の學校、學科を御決定になつたものと考へます。皆さん方の選擇された學校、學科は極めて適當であつたものと前提をして私は御話申上げたいと思ひます。皆さん方が今まで御研究になつたものは或は法律學もありませう、或は文學の方もありませう、或は科學、理學の方面、農業、商業、工業と色々分れて居りませうが、その方面に付てはそれ々々特殊の才能、技術を持つて居られる方に相違ないと思ひますが、併しそれらの方面に付ても更にこれを分析致しますと、色々な細別した職業の種類があります。此等の各職業に於てその職業は如何なる内容を持つものであるか又如何なる態度心組を以て其職業に當らねばならぬか豫め十分に研究調査を遂げておかるゝ必要があると思ふのであります。決勝戦に進んだ場合に於きまして、その決勝戦の優勝者たるにはその決勝戦の行はれる場所のコンディションがどうであるかといふことを十分に研究する必要があります、漫然とそこに出掛けたのでは決して優勝者たることは出来ないであります。その場所のコンディションを十分に研究され、さうしてこれを能く理解して、その方面に進んで行くについてはこの策戦方法を取れば大丈夫といふ心組を以て進まれることが必要であると思ふのであります。

職に就きました場合に於て何が一番必要であるかと申しますと、先にも申しました通りに、それに適當する能力を養つて置くことが何よりも必要であります、皆様方はこれまでその準備をされて居り、その準備は相當出來たものであると思ひます。第二には決勝戦の場所、即ち自己の向はんとする職業の如何なるものであるかといふことを十分に諒解を致しまして、さうしてそれに對する準備をする必要が、あります。

就職してからはスタートが大切

就職戦線に立たんとする人へ

就職した場合その人が将来成功するか否かといふ事に一番大切なことはそのスタートの時期にあります。上役の人、重役の人がこの人間がどれだけの能力があるかを判定するのは、就職の最初に一番能く著目するのであります。最初に於て成績が悪かつたならば、この人は案外詰らない人間である、役に立たない人間であるといふやうに考へられまして、その後自己の態度を改めましても中々前の悪い評判は直らないものであります。このスタートの時期に於て自己の全能力を發揮し、最も良き評判を得るやうに努力をすることが非常に大切であります。善き成績を挙げるといふことはどうしたならば出来るかといふと、あらかじめその職に付て十分なる理解を持ち、さうして仕事をする場合には熱と力を以て勉強をするといふことが何よりも大切であります。さうして自己を使つて居る人の頭に、これは中々有用な人物である、大變仕事の出来る人である、又非常に眞面目に努力をする人物である、といふやうな印象を興へることが是非必要であります。さうするには豫めその職がどういふものであるか、又如何なることを如何様に努めれば宜しいかといふことを承知して置くことが大變必要であると思ふのであります。

蓋りに轉職するな

第二の注意は、一つの職業に就いたならばその職業を變更しないといふことでもあります。往々にして色々職業を變へる人があります。斯かる人は決して成功を致しませぬ。私の友人の中にも名は申されませぬが職業を度々變へた人があります。一番最初は會社に入つてその仕事をして居りましたが、その會社が思はずしくないといふ理由に依りましてそこをよして、その次は或る市の市役所に勤めたのであります。所がそこでもどうも面白くないといふやうな不平を持ちまして、更にこゝをよしまして、その後學校方面に進んで教員になりました。併しながら何れの所に參りましても常に失意の地位に立ちまして、今日に於ても尙ほ碌々として非常に窮境に居るのであります。學校時代に於ては中等程度の成績で非常に眞面目な人でありましたが初の職業の選擇を誤り、これに全能力を擧げて熱を以て努めることが出来なかつた結果、斯様なことになつたものであると思ふのであります。皆様方が職を選ばれてこれに従事される場合には、終始一貫その職に熟達するやう努めて、途中で變更しないといふ覺悟を持たれることが必要であると思ひます。その職を變更しないといふ覺悟を持つに付きましては、豫めその職業がどういふものであるか、又自分の爲す仕事はどういふものであるかを能く理解して、さうして實際の場合に當つて失望しないといふことが必要であると思ふのであります。徒らに大きな希望だけ持つて一つの仕事に當り、案外やつて見たら詰らなかつたといふので非常に失望を起す、從てその職業に對する熱を失ひ努力する氣もなくなる、これが失敗の基になると思ふのであります。このスタートに於て適當な場所を得、又これに熱中をして自己の全身全力を注いで努力をするといふことが、この社會生活に於て優勝者となる秘訣であると思はれます。運動競技の決勝戦に於て優勝者となるのもやはりこれと同じではないかと思ふのであります。この人生に於ける決勝戦に於ても全く十分なる準備、さうしてその事柄に對して全身全力を傾注して最後の勝利を得るといふことにならなければならぬと思ふのであります。

最初の方針を變へるな

皆さん方は學窓に於て自己の能力の修養に付ては十分に努められたと思ひますが、社會生活に於ける色の職業の内情といふことを餘り能く知つて居られぬであらうと思ふ、愈々その仕事に當つた場合に案外詰らないものである、もつと自分は重要な役割が出来る、今まで高等教育を受けて色々の秀れた識見を持つて居る、その識見抱負が直ちに實現が出来るものであり、自分の學んだ所のものを直ちにこの社會に用ひて、

就職戦線に立たんとする人へ

大いなる仕事をする事が出来るといふやうに考へて居られて、さうしてこの社會に入ると案外さうでなかつた、或は自分の向いた方面はこれは誤つたのではないか、もつと他によい方法はないかといふ心の迷ひが起るのですが、このこと自身が既に實戦に於ける敗者となる素因であると思ふのであります。一度決勝戦に入つた以上は何處までもこれを貫徹し、何處までも最初の方針を曲げないやうにして進むといふことが何よりも必要である。それには、豫めその實戦場裡の實際の状況を詳しく調べられるといふことが、非常に必要であると考へます。

就職希望者は多いが適材は乏しい

世話する側から言へば重荷であります。採用される側から言へば甚だ憂鬱なことが屢々あると思ひます。容易に望む方面に行けない、容易に就職が出来ない。洵に憂鬱な事柄であります。併し又繚つて或る一つの仕事に就て人を採用する場合を考へますと、これはかう澤山に就職希望者があるのであるから、人材はあり餘つて居る、人材が何處にも澤山あつて、選擇に困るだらう、斯う申しますと決してさうではないのであります。適材に乏しいことを常に感ずるのであります。或る一つの位置に人を求めるといふ場合に於て常に吾々が感じますことは、餘り望ましくない人に澤山の希望者があるが、こちらの望ましい人は餘りない、人を得ることに常に困却を致して居るのである、適材を探さうしてこれを羅致するには非常な努力を致して居るのであります。こちらで宜しいと思ふ人は外の方でもよろしいと思ひますから中々離しませぬ、採用しようと思つても向ふで反對を唱へて、呉れないのであります。それで實に人材缺乏を常に嘆じて居るのであります。この状況を皆さん能く御考意になつて置く必要があると思ふ、今の世の中では平凡或は平凡以下の人は幾らでもあります。有用なる立派な人は極めて少いといふ現象があるのであります。立派な適材は寧ろ缺乏して居る、人材は缺乏して居る、この事實は非常に注意を要する事柄であります。これは皆様方のやうにこれから伸びて行かれる所の方々に取つては一つの福音であると言つても宜しい。平凡なる競争者は澤山あるが、優秀なる競争者は餘りないといふ事實を示すものであります。皆さんが今後社會生活に於て十分にこの上とも修養を積まれて人材になられるならば、その前途は光明に輝いて居ると言つても宜しいと思ひます。秀れた所の人材は洵に少いのでありますから、諸君がその秀れた人材になられさへすれば、四方八方から諸君を招かんとする手が伸びるのであります。寧ろこれを謝絶するに困るといふことになると思ひます。一番大切なことはこの上とも社會生活に於て修養を積み、眞正なる意味に於ける人材になるといふことが一番肝腎であると思ふのであります。これは私が氣休めを言ふ譯ではなくて、これ迄私の關係して居た方面でも又その他の各方面に於ても皆同様の事情であります。何れの方面に於ても秀れた人物は極めて乏しい、平凡なるものは餘り多くて困る、斯ういふ状況になつて居ります。

私は皆さんがこの上とも御勉強になり修養を積まれて眞の國家有用の材となつて、日本の將來を負擔し、日本の國運發展に貢獻せられんことを切望して已まないであります。

(昭和九年十月二十七日)

朝日講堂に於て)

新聞社員たらんとする人へ

東京朝日新聞社編輯總務 鈴木文 史 朗

新聞社への認識を明かにせよ——新聞の企業としての特徴——新聞社の組織——編輯局各部とその機能——營業局各部とその機能——印刷局——營業として經濟的基礎がなければ報道言論機關としての任務を盡し得ない——記者の仕事は専門化されてゐる——内勤記者と外勤記者——漠然と新聞記者を志望することは無意味——記者としての共通の條件は何か——常識が第一條件——何處を目安とした常識が必要か——専門學校以上の學歷を要求する——労働者の次に身體を資本とする——マラソン・リレー競争をした話——面白いユースも健康體と頑張りから——文才がないのは記者たる資格の最も重要な一つを缺くことである——ニュース・センスを要す——少くとも一つの外國語に通ずることが必要——職業としては領域が極限されてゐる——記者としての生命が短い——家庭的には恵まれない——比較的収入が少く支出が多い——記者としての魅惑——廣告収入と販賣収入の比率——販賣部の仕事——外國の新聞と違ふところ——廣告に於ても激しい競争をする——明るい朗かな人を求める

近頃新聞社員にならうとする人が非常に多い。殊に新聞記者志望の方が多く、絶えず私はさういふ諸君に會ふのであります。先日同郷の青年が參りまして「是非新聞社に入りたい。貴方は同郷の先輩でもあり、

新聞社員たらんとする人へ

新聞社への
認識を明か
にせよ

斯ういふ大きな社でもあるから私一人位は何とかなるだらう——これはよく聞く文句であります。そこで「一體君は新聞社へ入りたいと言ふけれども、新聞社の中にも色々異なつた仕事があるのだが、新聞社へ入つてどういふことをしたいのか」と聞いて見ますと、「兎に角新聞社へ入れば宜い」「編輯の方か、営業の方か」「出来ることなら編輯の方が面白さうだから編輯の方を御願ひしたいですな。」「今の所どうも空気が無い」「それぢや営業の方でも結構です」「それだけで君はもう新聞社に入る資格がない」「どういふ譯です。斯んなに私は熱心で……」「いや、熱心とか好きとかいふことだけでその職業に適するならば、天下の小説好きは皆小説家になるだらうし、野球ファンは皆野球選手になれなければならぬ。而も新聞社員の仕事は他の會社員或は官吏などは違つて極めて特殊なものである。君が今言ふ通り何んでもいゝから新聞社員になりたいといふのは如何にも覺束ない。さういふ幼稚な考へでは誰に話した所で聴き容れられるものぢやないと思ふ」と私は言つたことがあります。かういふ考へ方の人が一般的に新聞社の社員にならうとする人に多過ぎると思ふ。」「どうも新聞社の仕事は面白さうだ。殊に新聞記者は面白さうだ。一つやらう。」「これだけでは私は非常に危険なものだと思ふ。これは、今の新聞社といふものがどういふ風に出て居るか、又中へ入つて見ればどういふ苦しみがあるか、どういふ生活を送らなければならぬものであるか——といふやうなことに就いて殆ど考へない結果だと思ひます。

現代の新聞には一つの大きな特徴があります。それは、新聞は一つの企業であること、——有ゆる企業の中で最も競争の劇しい企業であることであります。新聞は一つの報道言論の機關であると同時に、一面に於て立派な營業的の反面を備へなければならぬ。この二つは他の如何なる企業と較べても最も違つて居る點

新聞の企業
としての特
徴

であります。「如何なる商賣でも競争の劇しくない所はないぢやないか」と皆さんは仰しやるかも知れませぬ。それはさうであります。併しながら新聞社程他の競争相手と較べて競争の劇しいものはない。それは編輯の方に於てさうであり、又營業方面に於ても亦同時にさうであります。これは追々後で話して行きますが先づこの二つのことをよく記憶して置いて置きたいと思ふ。それは新聞社に入らうとする諸君に對して要求する所の條件の問題になつて来るからであります。大體新聞社員になりたいと希望する人達が、大雜束にでも新聞社といふものはどういふ風に出て居るかといふことに付て知らないことが、先づ第一私共から見れば不満なんです。

新聞社の組織は——日本でも東京と地方とは必ずしも一緒ではありませんが——どういふものか、先づ大體それから御話して見たいと思ふ。今もいつたやうに、新聞社の仕事は編輯と營業の兩翼から出来てゐる。編輯の方からいふと、新聞を作製する部——編輯局と多くの新聞社では稱して居ますが——は幾つかの部に分けてあります。多くの東京の大新聞社——或は大阪の新聞社も——先づ主筆といふものがあります。次に編輯局長、その次に新聞社により編輯總務といふものがある。これは新聞作製の首脳部であります。次に編輯局内の各々は、整理部(或は編輯部)、政治部、經濟部、社會部、地方通信部、外報部、運動部、學藝部、校閲部、寫眞部、調査部等——大新聞社では大體以上のやうな部に分たれますが、是等各部の仕事を極く一口宛で説明すれば、編輯部(整理部)は新聞を作る材料である色々の原稿を編輯して新聞紙面を編輯作製する。政治部は政治關係のニュース、經濟部は經濟關係のニュースをそれ々々集める。社會部は一寸一口には説明し兼ねます……東京の新聞でいふと朝刊第七面、夕刊の第二面が主として社會部のニュースであります

新聞社員たらんとする人へ

新聞社の組
織
編輯局各部
とその機能

す。強ひて一口にいへば政治經濟、外交等の専門的のもの以外、一般社會のニュースを集めるのを本務とするのであります。外報部は重に外國關係のニュースで、外國電報の翻譯、或は外交に關するニュースを集める。學藝部は諸君の見られる學藝面を作る方の仕事をする。地方通信部は地方のニュースを集め、地方版をつくる。その他運動部、寫眞部、校閲部、調査部等讀んで字の通りであります。大きな新聞は斯ういふ風に「部」が分れて居りますが、部はなくとも仕事は大體斯ういふ仕事は、どういふ新聞の編輯にもあるのであります。

營業の方で申しますと先づ販賣部があります。これは新聞の販賣に従事する。その次には廣告部があり廣告を蒐める。その他會計部であるとか、庶務であるとか、出版の係とか、附随したものがありますが、新聞社の營業としましては販賣と廣告とが中心になつて居ります。

この他新聞を編輯で作つて販賣部がこれを販賣する前の経過である所の印刷といふ部門もあります。大きな新聞社ではこれが又印刷局といつて編輯、營業の方と鼎立する大きな部門になつて居ります。これは全然技術的な部門であります。

次に一寸一言此處で申上げたいことは、これはよく新聞に關する論議の中に出て來る問題であります。」「一體新聞は民衆の指導機關であるなどと言ふけれども、結局は營業ぢやないか、商品ぢやないか」と、如何にも新聞に營業的の一面のあることを侮蔑するやうに考へたり言つたりする人がありますが、これは大きな間違であります。新聞といふものが例へばソビエツト露西亞に於ける如く國營にならない限り、現在吾々の考へて居るやうな新聞として、正しい意味のジャーナリズムとして現在發達して居り、將來も更に發達し

營業局各部とその機能

印刷局

營業として
經濟的基礎
がなければ
報道言論機
關としての
任務を盡し
得ない

ようとするならば、新聞にはどうしても營業的の一面がなければ新聞の獨立性といふものは保てるものではないとあります。何處の國でも、御用新聞——それが政黨の機關紙であらうと、財閥の機關紙であらうと、政府の機關紙であらうと——といふものが本當に權威ある新聞にならず、又獨立した言論機關として、發達しないのは、多くの場合、御用新聞なるものは補助金を受けて、營業の方は何時もそれに頼つて、獨立的營業機關としての一面を發揮し得ないからである。だから新聞が他の勢力の掣肘を受けないで、獨立した言論機關として發達して行く爲には先づ第一に財的に獨立して行かなくてはならぬ。つまり獨立した新聞は儲かるだけの組織がなければならぬ。營業に於て新聞が一定の利益を擧げ得ればこそ天下の人材も集め得るし、日進月歩の色々の莫大な費用を要する所の新設備をも爲し得る。さうして始めて新聞はその本來の使命である所の報道言論の機關としての任務を盡し得るのであります。

次には新聞記者の仕事に付て御話しようと思ひます。私達が約二十年前に新聞社に入つた時には今程新聞社内の仕事は専門化されて居りませんでした。例へば政治部、社會部、經濟部、外報部位はありましたが、學藝部であるとか、寫眞部であるとかいふやうなものは獨立した部として存在して居らず、又政治部、經濟部、社會部などの仕事にしましても、今程中の仕事は専門化されて居りませんでした。ところが現在では専門化され、政治部の記者にしても、ある者は政黨専門、而もそれが政友會とか民政黨とか内閣とか皆受持ちを持つてゐる。官廳にしても皆別々に専門の記者が擔當する。外務省へ行つて居る記者は外交専門であり、海軍省へ行つて居る記者は海軍専門である。經濟部の記者にしてもさうで、金融専門の記者、農村問題専門の記者、財政専門の記者等、殆ど經濟界を十位に分類した位の分類を以て専門記者は出來て居るのであります。

記者の仕事
は専門化さ
れてゐる

す。

社會部の記者は突發事件を多く扱ふので専門的なことは少いと申しませんが、それでも宮内省専門の記者警視廳へ行つて犯罪の方を主として扱ふ記者、或は司法省へ詰め掛ける記者といふ風に矢張り専門的な部門を持つて居ります。その他外報部の記者は海外の外交關係その他のニュースを主として扱ひ、學藝部の記者は學藝面の記事を専門に扱ふ。

内勤記者と
外勤記者

以上は新聞記者の仕事の内容の方面からの分類であります。更に異なつた區別をすることが出来ます。新聞記者を内勤記者、外勤記者に別けられます。ニュースをとる爲めに外に出て主として働くのが外勤記者で、集つたニュースを内に在つて主として編輯する方の仕事の内勤記者であります。さつき申しました分類から言へば、整理部員は内勤記者である。外報部員も主としてさうであります。その他校閲とか調査とかいふやうな仕事は、全然内部の仕事であります。政治部、經濟部、社會部などは、その中の少數を除いては外勤記者であります。

漠然と新聞
記者を志望
することは
無意味

かういふ風に仕事いろいろ別れてゐますから、新聞記者を志望するとしても、運動部の記者を志望するのと、經濟部の記者を志望するのでは、同じ軍人を志望するとしても、海軍を志望するのと陸軍を志望する以上の相違がありはしないかと思ふ。又社會部の記者にならうといふことゝ經濟部の記者にならうといふことゝも亦可なりな開きがある。だから漠然と新聞記者を志望するといふことは殆ど意味を爲さない。さういふ考へ方は新聞といふものに對する認識が全く足りない爲めである。今言ふのは要するに各専門があるとするればその中のどれかに適する者でなければ新聞記者には向かないといふことになります。昔は新聞記者の仕事は随分大まかなやり方であつたもので、例へば現在の社會部記者は三面記者と稱して、皆ぞろつとした着流して、戯作者氣取りで花柳界邊りの種を艶種と稱して面白おかしく書流してゐたこともあつたものだからです。今はそんなべら棒な仕事をする社會部記者など、どこを探しても存在しないのでせう。

記者として
の共通の條
件は何か
常識が第一
條件

かういふ風に新聞記者の仕事が専門化されてゐるといふなら、一般的に新聞記者になる者の資格は要らないかと言ふと、記者として共通の資格とか條件とかいふものがあると思ひます。何が一番共通的な資格として必要であるかといへば常識であります。常識が必要であるといふ事は平凡過ぎることで、分り切つたことぢやないか」と言はれるかも知れませんが、併し新聞記者たる最初の條件としてこれを挙げねばならぬと思ひます。一體新聞といふものはその紙面に於て社會の有ゆる——とまでは申しませぬが、少くとも有ゆるものに近い諸般のニュースを報道し或は論評する。それは讀者が理解し得る範圍に於てなければならぬのですから、無數に澤山あるニュースの中でどれが必要なるニュースであるかを判別し、どういふ風にそれを報道すべきかを考へ、又特殊な問題に付ていつも指導的な立場に立つといふことは、結局常識に基いてやるより外に道はない。新聞記者の仕事がいかに専門化されてゐても、決してそれは一流の専門家の足下にも及ぶ程の専門化ではない。唯それを素人として理解し得るといふ意味に於ての専門です。素人として有ゆる部門のことに付て理解し得る専門といふことは言葉を詰めて言へば矢張り常識といふことでもあります。一體常識とは何ぞやといふことになると、随分むづかしい問題だらうと思ふ。田舎に於ての人々の常識と都會に於ての人々の常識も違ふし、女と男の常識も必ずしも一緒ではない。何處に一體目安を置いての常識が必要であるのかと言はれると確答はむづかしくなるのでありますが、結局は有ゆる階級の人々の間に於ける常識を

何處を目安
とした常識
が必要か

綜合して、その一番上の方のものといふより他はないでせう。何れにもせよ、さうした常識を持つて居るといふことが新聞記者に取つては第一に大事なことでありと私は思ふ。諸君の中に於て人から「どうも君は非常識だね」と言はれる人は、何か他に良い特質があるに違ひない。學者専門家と言はれる人は、えて非常識と言はれるのでありますが、これは、さういふ人達は他の方面に没頭して居る結果で、決してこれは不名譽なことではありません。併し新聞記者を志望する人は他から「あれは非常識だ」と言はれるやうなことが度度あつては、それだけで新聞記者といふ職業は選ばぬ方が宜いと思ふ。常識家と言はれることは必ずしも人間としては光榮でないかも知れませぬが、新聞記者に於ては少くとも非常識家と言はれないことが必要であります。常識が圓滿に發達して居り、總ての物に興味を持ち、總ての物をよく理解して居るといふことが先づ第一必要なことであると私は思ふ。

近年各新聞社で社員を採用するのに試験の形式を執ることが多く、少くとも専門學校以上の卒業生から公平に試験をして採るといふ風になつて來ました。どうして斯ういふことを始めたかと言ふに、矢張りこの理由も豊富な常識を持つ者は少くとも専門教育或は大學教育を受けた人の間に最も多く見られるといふ考へからだらうと私は思ふ。専門學校或は大學でやつた學課は新聞の方に來て直接役に立つことは極めて少い。尤もこれは各會社官廳に於ても同様でありませうけれども、併し最も常識を必要とする新聞社に於きましては少くともその位の學歴を持つた者を要求するのであります。諸君はそれ／＼或る部門の専門的學課をやらされた。それに追加して色々の知識を得られるといふことは豊富な常識を持つ上になつて最も必要であるといふ風に新聞社は考へるから、そこで専門學校以上の卒業生から採るといふことになつて居る。併し實際から言

専門學校以上の學歴を要求する

へば學校を出た人必ずしも常識があるとは言へないので、常識のない場合も随分多く、それに付ては色々御愛嬌の話もあります。兎にも角にも常識が必要であるといふことを重點に置いて専門學校以上の人を新聞社は採用するのであります。

次によく「自分は身體が悪くて軍人を志望したけれども試験に通らない。さうかと言つて會社員もどうも詰らない、身體が悪いのだが一つ新聞記者にでもならうか」と言ふ人があります。さういふ考へ方は全く反對で、勞働者の次に身體を資本とする者は先づ新聞記者だらうと思ふのです。身體を資本とする者は勞働者それから新聞記者、その次が軍人も知れません。これは殊に日本の新聞社内になつての特殊な現象であると思ひます。最近亞米利加の新聞記者團がこちらへやつて來まして、「一體君は何時間位社に居るか」と言ふから「さうですな、朝の十時から十時半頃やつて來て大抵夜の九時、十時、時には十二時過ぎまで居ります」と言ひますと眼を皿のやうにしてびつくりして、「皆さうか」と言ふから、「皆さうぢやないけれども、さういふのが大部分だ」と言つた所が「信じられない」と言ふのです。東京、大阪、その他の都市に於きまして日本の新聞が外國の新聞と違つて居る一つの大きなことは夕刊と朝刊とを一緒に出す。實際は夕刊、朝刊、その一つだけでも十分な仕事である。無論夕刊一つ、或は朝刊一つやるよりは比較的人數は殖えて居るけれども、要するに同一の人員で以て二つの仕事をやつて居る。これがよいか悪いかは別問題で、これが日本の新聞界の現状であります。これは恐らく變らないだらうと思ふ。さうしますと、日本で朝刊と一緒に夕刊を出すやうになつた前の時代の新聞記者と較べますと、今の新聞記者の勤務時間は非常に過重なものになつて居る。先づ大雜束に言つて十時間勞働といふのは新聞社に入つたら免れられない運命と諸君は思はな

勞働者の次に身體を資本とする

ればならぬのであります。時に依れば十二時間もあるでせうし、實際時には二十四時間労働もあるのです。斯ういふ長い勤務時間、而も官廳や大會社のやうに悠やかな仕事ではなく、激烈な競争を眼目としての仕事をするので、体力がなくては續けられません。

マラソンリ
レー競争を
した話

新聞社の仕事がいかに競争を主としたものであるかについて一つのエピソードがあります。大正天皇崩御の前後に於きまして、その御容態の報道につき新聞社間に非常な競争が起きたことがありました。私はその時さういふニュースを扱ふ社會部長をして居つたのですから、まだ記憶は生々し過ぎる程生々しいのであります。大正天皇の御容態が御險惡にならされた頃から、宮内省では殆ど刻々にニュースを發表しました。これは當り前に考へれば發表になつた時一人の記者がこれを聴いて本社へ電話を掛けて、本社ではそれにより新聞記事をつくるなり、號外を出すなりすれば宜いのであります。所がそれだけでは濟まない。先づ二十行位の發表があるとし、其處へ各社から五六人の記者が行く譯ですから約五六人の記者が集る、何故二十行位のを一社から五六人も行つて聴くかと言ふと、最初Aが一行聴くと廊下をどん／＼走つて行く、Bが二行目を聴くとそれを又鉛筆で走り書きして又廊下を走つて行く、かうして廊下にマラソンのリレー競走が始まる。何處へ駈付けるかと言ふと、各新聞社では宮内省内の電話をめぐ／＼一つづつ借り切つてそれを本社と繋ぎつばなしにしてあつたのですが、其處へ前記のマラソン・リレーの記者が順次に駈付ける電話を受持つて居る記者はそれを讀む——といふ順序です。かうして二十行位の發表を數人が競走しながら電話で送るので、この時は各社とも運動部の記者も出掛けて行きました。皆シャツまで脱いで、後鉢巻だけは流石にしなかつたが、下着ばかりになつて居て、數十人の記者が宮内省の廊下を駈け比らをしたものです。

面白いニユ
ースも健康
體と頑張り
から

です。

斯ういふ劇烈な競争はさう度々はありませぬが、斯ういふ意氣込の競争は常に演ぜられて居るのであります。これに堪へるのは何であるかと言へば矢張り頑健な身體である。頑健な身體に加ふるに頑張りの利く者でなければ到底出来ないことでもあります。新聞記者の仕事は新聞の紙面で見ると、大臣政治家や映畫の花形等と談笑したり、飛行機に飛乗つて見たり、或は探偵物語のやうな事件の渦中に入つて見たり、如何にも面白さうだから、それで新聞記者になりたいといふ考へを起す者も可なり多いだらうと私は推察するのであります。入つて見れば、見ると聞くとは大違ひといふことを私は諸君に言ひたい。西洋の言葉に、これは文章の上の言葉でありますけれども「讀者に面白くやさしく讀ましめる爲には如何に苦勞し苦難して書かねばならぬか」といふことがあります。「Easy reading is a result of hard writing.」新聞の仕事が丁度それです。政治家と會ふ、有名な外國の名士が來たから會ふ、それと話をするといふ記事が出る。讀んで見れば何でもないことであるけれども、第一これに會ふといふことだけでも大變なことであります。會ふ手數が大變である。新聞記者の來るのを待受けて、「何處から來ないかな」と思つて居るやうな人は一人もありません。こちらが追駈ける連中に限つて忙しい人である。それが具合悪く夜中の十二時であらうが、又は朝飯前であらうが、何時でも新聞記者が必要な事件に早く駈付けなければならぬ。電話を掛けて見る、外出先が分らない、それぢや明日にしようでは駄目であります。電話を掛けて見てどこの俱樂部かどこの官廳に居るだらうといふのはまだ宜いとして、それでも判らなければ自動車で飛出して行つて探し廻らなければならぬ。これだけでも大變な根氣が必要です。ですから大事件の記事は讀んでは面白くけれどもこれを書く爲

めには他の色々な條件は別としても、先づ新聞記者としては身體が頑健でさうして頑張りの利く者でなければ到底やつて行けるものではないのであります。全く労働者以上の筋肉労働であるといふ一面を持つて居る。ですから今まで私の知つてゐる同僚や新聞記者の中で幾多の秀才が可惜身體が弱い爲めに途中で挫折し、或は死んで居ります。

その次——或はこれは眞先きに言ふ可き條件かとも思ひますが——に必要な條件は文章をよく書き得る才能であります。「昔は文章家が新聞記者になつたが近頃はさう文章は必要でない。新聞記者は筆で書くのではなくて足で書くのだ。」などともいはれてゐますが、私は實際足で以て文章を書いたためしが無い。矢張り手で書く、頭で書く。足で書くといふ意味は曩に私が申上げましたやうに、出歩いて、勉強して、駈けづり廻つて頑張つてニュースを掴むといふことを強調したのであります。併し折角いゝニュースを掴んでも、これを新聞記事に書きこなす——文章の力がなくてはなりません。いゝ文章を書く能力を缺いて居る者は新聞記者になる資格の中の最も重要な一つを缺いて居るものであります。それでは新聞記者は皆名文家か文章家かと言ふに必しもさうではない。併し皆一通りは文章の書ける人であり、いゝ文章の書ける人は非常に好い條件を持つてゐるのであります。折角好いニュースを持つて來ても文章力のない人は、何處に重點があるのか、何處に要點があるのか、ごちゃ／＼と判らない記事を書く爲に折角の努力が役に立たぬ場合が多いことがあります。この際は老婆心に附加へて置きたいことは、曩に申しますやうに、新聞記者の第一の仕事は身體を使ひ、頑張りを以てニュースを集めるといふ點に中心があるのであります。併し人間は年齢と共に體力は衰へることは當然で、先づ一般新聞記者の盛りは普通では四十五六位と思はなければならぬ。その後

文才がないのは記者たる資格の最も重要な一つを缺くことである

で役に立つものは文章を書く力である。さういふ意味からいつても新聞記者にとり文章が人並以上に書けるといふことはその人の一生の上にも非常に必要な事になつて來るのであります。

その次には、これも新聞社の第一線の記者の資格として必要なことはニュース・センスを持つてゐるといふ事かであります。ニュース・センスとはどんなものか。四五十年昔の新聞と現代の新聞の大きな違ひは、新聞は初期の時代には報道機關と言ふよりも、指導機關であり言論機關であつた。その時代に於きましては新聞は論説とか意見とかいふものに重きを置き、「大英帝國の宰相にならなければロンドン・タイムスの主筆になりたぬ」といふやうな事がいはれてゐたものであります。日本でも明治の初年期には大體新聞は言論に重點を置いたものであります。現在の新聞でも論説は最も必要な一面であります。併し全體として見ますれば、今では矢張り新聞は報道機關である。報道機關であるといふことはニュースを一刻も早く、正確に報道するといふことである。ニュース報道が新聞にとりかやうに重大な中心使命である以上、何がニュースであるかといふことを知る事が新聞記者にとり重大な仕事になつて來ます。ところがこの何がニュースであるかといふことを感知するの、學問、常識、専門的知識等以外の一つのセンスであるとされて來て居るのであります。實際吾々の經驗から見ればさうなんです。新聞社の試験に優秀な成績を以てパスする。その人の學歴を見ると中學校も高等學校も大學も素晴らしい成績である。所でその人のニュースを嗅ぎ分ける力はどうかとなると、以上の經歷とは必ずしも並行しないのであります。ニュース・センスがあるかないかといふことは新聞記者としては最も大事なことであります。これは試験では分らない。實際に當つてやつて見なければ分らぬことです。諸君自身にも自分にニュース・センスがあるかないかは、ほんとうには分らない

ニュース・センスを要す

と思ひます。これは新聞社に入つて仕事をして見て始めて分ることです。

その他新聞記者になるには出来ることならば少くとも一つの外國語の知識が必要です。ノースクリフは新聞經營の晩年には現在日本の大新聞がやつて居るやうに、大學の卒業生から記者を採用しましたが、その資格として佛蘭西語であるか、獨逸語であるか、伊太利語であるか、少くとも一つ或は二つの外國語を十分知つて居ることを條件とした位であります。何故かと言ふと、吾々は最も豊富な常識を必要とすると言ひましたが、それが爲には矢張り自國語を以て知り得る範圍外に、日本より進んで居る國の國語を知つて、その方面からも色々知識を得るといふことが非常に必要なことであります。のみならず近頃のやうに實際の人間の往復が非常に煩繁になつて来て、有ゆる知名の士が来るやうになつては、その場合新聞記者としてはさういふ人間と直接交渉が出来ないといふことは非常に損なハンディキャップが付く譯であります。

大體新聞記者の仕事の内容や、記者になる必要な資格は以上述べたやうなものであります。では私自身の體験から諸君に新聞記者になることを奨めるかどうか。實は私は自分の許へ来る人には大抵の場合は奨めないであります。その理由は、第一に、新聞記者の仕事は非常に特殊なものであつて、特殊な色々な條件が必要とされるのであります。それに當嵌つて居ないと後になつて伸びない。そして新聞記者になつて中途から他に轉向することははむづかしく且つ損な場合が多い。會社員ならば一つの會社で旨く行かなければ他の會社へ行かうと思へば少くとも會社の口は無數と言つて宜い程ある。又官吏にしても同様であり、公吏にしても同様であります。アメリカ邊りでありますと各州に大きな新聞社が澤山あるのでありますから、ニューヨークで自分の思ふ地位が得られなければ直ぐにシカゴへ行く、或はサンフランシスコへ行く。到る所

職業として
は領域が極
限されてあ
る

少くとも一
つの外國語
に通ずるこ
とが必要

に企業としても成功して居る新聞が多いから新聞社としての領域が非常に廣い。所が日本では一生を托するだけの基礎に置かれて居る新聞の数は極めて限られて居り、而もそれがだん／＼少くなりつゝあると觀なければならぬ。ですから職業として生活の上から私は可なりの不安があると思ふ。私が自分のことを考へて見ても、假りに現在自分の居る新聞社を罷めてしまつたら直ぐに東京でも大阪でも適當な新聞の仕事があるといふ譯には行かないと思ふ。これがアメリカか或はイギリス邊りならば私は必ずどこか他にあると思ふのです。況や諸君が新聞記者を志望されて地方の新聞へ入られる、或は東京に於ても比較的小さい新聞社へ入つた場合、それから更に好い條件の所に入るといふことは非常にむづかしい。これが一口に言へば現在の状況であります。結局新聞社の領域といふものが非常に狭く小さいが爲に、生活を考へた職業として可なりな冒險的な點があると思はねばなりません。

次には新聞記者は生命が短い。朝日新聞社では五十五歳限度の停年制が設けてある。五十五歳は、一般人にとつては働き盛りであります。新聞記者としては前に申したやうに事前にエネルギーを使ひ出してしまふやうなことが多いので、先づこの年頃には記者としては終りでせう。ところでこの年頃になつて、新聞記者として餘生を送るだけの金など蓄まる筈はないし、他の職業に轉するのは至難だし……といふ事になります。かういふ點も新聞記者にならうとする前に考慮されていゝでせう。

次は新聞記者の家庭生活。如何に新聞記者の生活が家庭生活に恵まれて居ないかといふに、先づ第一線に立つてほんとに新聞記者として働く者は一週間の中で一家團樂して夕飯を食ふことは多くも一回か二回しかないだらうと思ふ。私なども日曜の夕方食べるのが精々であつて、子供の顔は日曜以外には見ないことが多

記者として
の生命が短
い

家庭的には
恵まれな

い。何故さうなるかと言ふと、先づ子供は朝早く學校へ行つてしまひますからその時は私は寢て居ります。朝飯は精々女房がつき合つて呉れて食べる位のものであります。日曜以外の日は夜は十時前に歸る事は稀でありますから子供は寢て居ります。だから第一線に立つて働く記者には殆ど家庭生活はないと言つて宜い位のものであります。これが普通一般の勤人であれば先づ夕方の五時か六時には遅くも歸つて来て、さうして夕飯を食べて子供等と散歩に出掛るとかいふ譯でせうが、新聞記者はその頃から朝刊の仕事が始まるのであります。だから家庭生活は全然初めから犠牲にして掛らなければならぬ。これは一つの人道問題であるかも知れませぬけれども、實際に於てはさうなので、諸君が新聞社に入られても先づ十年や二十年はこの調子が續くと觀念して置いた方が安全であります。

では家庭生活にそれ程恵まれないならば、物質的には餘程恵まれて収入なぞ一般の者と較べて二倍三倍位あるなら大變結構ですが、決してさうではない。限られた少數の新聞社に於きましてこそ記者の給與も恐らく一流の銀行會社などと匹敵するかと思ふのでありますが、併し日本の新聞社全體から見ますればむしろ給與も甚だ悪い。而も新聞記者の生活は可なり金が掛るのであります。早い話が普通一般の官廳などでは判任官以下の食堂などで見ますと一食十錢か十五錢位で賄つて居る所が多いのであります。新聞社では昨日今日入つたやうな若い記者でもどういふものか官廳の高等官食堂で食べる位の物を食べる。服装なども中々好い。これは何も伊達ばかりでやつて居るのではなく、一面に於て新聞記者それ自身の氣風であります。どこかスポーツといったやうな職業であるだけに生活も收支許りを考へてはやつて行けないところがあります。ではそんなに悪いところだらけなら、何で新聞記者になるかといふことになる。私は諸君に何でなりた

比較的収入が少くて支出が多い

記者としての魅惑

かと御聞きしたい。唯こゝに、それにも拘らず何か好い所があるだらうと言はれれば、それは御説の通りで新聞記者といふ職業には恐らく何處にも見られない所の自由潤達性、打てば響くやうな自分の仕事の一つ一つに對する反響、特種をとつた其時の快味、競争が持つ魅力等確に他の職業に較べて愉快な尊ぶべき一面であると思ひます。併し一面に於きまして今申しましたやうに、随分それが爲には忍ばねばならぬ所の犠牲が非常に多いといふことも御記憶願ひたいと思ひます。

次に、營業方面につき簡略乍ら附加へます。曩に申したやうに、新聞社の營業の仕事は編輯を後から援護する所の重大な責務を持つて居るのであります。外國の新聞經營の本を讀んだり聞いたりしますと、外國殊にアメリカ邊りでは廣告に依つて入る収入が新聞社の全収入の大抵七割から八割、新聞を賣つて入る収入は後の二三割に過ぎない。この間もニューヨークの有名な經濟新聞のジャーナル・オブ・コンマースといふ新聞の専務が來たので「貴方の所ではどの位廣告料を取るか」と訊ねて見たところ「百二十パーセントである」と、笑つて答へました。これは百パーセントといふことを強調したのであります。新聞を賣つて得る収入は殆ど眼中に置いて居ない。皆廣告に依つて得る、それだけの廣告があればこそアメリカでは二十頁三十頁といふ新聞を出し得る。日本では大體大雜東に申しますと販賣と廣告に依つて入る収入は五十、五十である。しかし新聞經營にはこれは非常に好いバランスであります。若し廣告の収入にばかり頼らばどうしても廣告主といふ者が新聞に働き掛けて來るのであります。ですから廣告と販賣の収入が半分宛といふことは日本の新聞としては、一面に於て非常に幸なことであるといへます。

販賣の仕事は何んなものであるかと言へば、新聞を擴張するといふことゝ、新聞の賣上代金を間違なく能

廣告収入と販賣収入の比率

販賣部の仕事

外國の新聞
と違ふところ

新聞社員たらしむる人へ

三〇

率的に集めるといふことであります。これも外國の新聞と違ふ所は、日本の大きな新聞はその發行して居る都市、東京なら東京だけを中心として賣るのではなくて、關東の新聞であれば少くとも東日本全部に向つて賣る。大阪の新聞であれば西日本から滿鮮に向つて賣廣めるのでありますから、これはアメリカあたりの新聞社が一つの大都市を中心にして新聞を賣るよりむづかしいのであります。それが爲には絶えず擴張員が地方へ出掛けて、さうして販賣店との交渉を保つて、丁度ニュースの上で競争するやうに、各社の販賣店同志、擴張員同志の競争は非常に繁雜で劇烈なものであります。ニューヨークの新聞ならニューヨークの中心を半徑として數十哩の範圍にしか新聞は行つて居ない。所が國が小さくなるに従つて大きな新聞はその國全體に賣るのであります。イギリスもさうであります。ですから日本に於きましては新聞を賣るといふこと、賣上代金を擧げるといふこと、これは新聞社の編輯の方の仕事が非常な競争であるが如く一つの立派な大きな仕事になる。専門的な仕事になるのであります。

廣告の方で申しましてもさうであります。日本の廣告料は歐米の一流國に較べると安い。好い廣告主から或は多くの良い廣告を集めるのが廣告部員の仕事であります。廣告の値段は發行部數が上るに従つて上げて行くのが原則であります。そしてこの廣告部の仕事も亦他社と劇烈な競争をする點では編輯や販賣部と同様であります。

次に記者としましても營業の方の社員としましても必要なことは、外に出て行く場合に名刺を出すといふことはその社を代表するといふことでありますから、見た感じの好い人でなければならぬ。話して居る中に相手に悪い感じを與へない人、言ひ換へれば明るく朗かな人であります。さういふ條件は無論言ふまでもあ

廣告に於て
も激しい競
争をする

明るい朗か
な人を求め
る

りません。これは他の職業のどこの部面に行つても必要なことでありますが、殊に新聞社に於きましてさういふことが特に考へられるのであります。よく人物試験をやる場合に會つた感じが悪い爲に落第させたといふことを聞きますが、これは私は尤もだと思ふ。どんなに下級の社員であつてもその人が廣告主の所へ行くか或は記者として會見を申出る場合はその人がその社を代表して居るのですから、その人が陰鬱な顔をして居つたりして不快な感じを與へる人であつたならば矢張りその新聞社は損になる。その仕事の能率が擧げられない。斯ういふ風に殊に新聞のやうに外部との接觸が仕事の半分以上である所に於ては、その人の外貌と性格が重大な條件であるといへます。

(昭和九年十月二十七日 朝日講堂に於て)

雑誌その他出版社員たらんとする人へ

改造社々長 山 本 實 彦

雑誌社出版社も資本主義化して来たが内部はまだ餘り組織立つてゐない——社としては大
學出や資本を擁する入社希望者を警戒する立場にある——出版界に英雄の出現を歓迎す
る——小説家志望又は見學の意味での入社希望者は採用し難い——試験又は銓衡による採
用——論文提出——見識と信念の如何が採點の中心になる——モダン語や速成處世術は重
視しない——社會情勢に對應する批判力を養成せよ——雑誌發賣までの苦心——雑誌記者
は新聞記者以上に機敏を要す——新聞の發禁は當日だけ、雑誌ではその月全體に影響する
——一分の差が雑誌の賣行の大勢を決する——出版界の英雄兒たらんと欲する者は小出版
社に入れ——生活の豊かな人よりも乏しい學資で卒業した者を探る——應用力のない者は
困る——天才の刻苦精勵に待つ——出世の捷徑は出版社から——出版業は日本の文化を伸
暢せしむる重大意義がある——せめて生涯死守すべき城砦を獲得せよ

私の御話しようと思ひますことは、新聞事業と非常に似通つた商賣でありますからして、その方と随
分共通的のことが多いだらうと思はれるのでありますけれども、併し斯うした出版及雑誌といふことになつ
ては居ますものゝ時間の關係上今回は其内部の機構といふやうなことは抜きに——全然省きはしませぬが——
—しまして、新しく職を求められる方々に對しまして、現在の社會相から考へて見ても、今迄の職を求めら

雑誌その他出版社員たらんとする人へ

れる方々とは、随分覺悟の變つた、自分の肚の力の入れ所の違つた考で以て、此場合當面ならなければならぬのぢやないかといふことに付て、御話申上げたいと思ふのであります。

そこで雑誌の方から御話させて戴きますと、鈴木さんの御話(新聞社員たらんとする人へ)の中にもありますやうに、日本の新聞は、既に人の問題ぢやなくして、組織の問題になつて居る、組織と組織との對抗になつて居るのでありますが、出版や雑誌に於きましても、段々組織的になつて、殆どすべてが資本主義的に統制せられるといふやうな風潮が濃くなつて來て居る、といふ風に私は思ふのであります。併しながら、其内部は、新聞社のやうに、非常に組織的にはまだなつて居ないのであります。出版も其通りであります。矢張雑誌で見ると同じやうに、非常に組織的に内部の構成がなつては居りませぬ——いくらかの例外もありませうが——。そこで世の中に出ようと思ふ人は、可なり私は出易いのぢやないか、斯う思ふのであります。又雑誌に致しましても、御承知の通り、専門學校だとか、大學以上の知識階級の方々を對象として作ります所の雑誌と、それから又、一般の大衆を目標にされて作られる所の「キング」とか、「日の出」とかいふやうなものと、それから婦人を對象として作られる雑誌と、子供を對手にしてつくるものと、だいたいこの四つを擧げることが出来ると思ふのであります。尤も其外に、一つのイデオロギーを以て立つ所の小さい雑誌は幾つもあります。此事に付きましては、幾らか申上げて見たいと思ひますけれども、併しあなた方の就職と別に關係はない——よしあつても非常に薄いと思ひますから、此方面のことはこゝでは申上げない方がよいかとも思ひます。

社としては

それで日本の出版に致しましても、雑誌に致しましても、兎に角五十萬の大衆を把握するとか、百萬の大

大學出や資本を擁する入社希望者を警戒する立場にある

衆を擧へるといふやうなことは、僅かこゝ十年來の現象でありまして、それ迄は例へば文藝物に致しまして、僅か二萬か三萬といふ數しか獲得出来なかつたのであります。それが七八年前に四五萬といふ廣汎な層を捉へた。随つて又出版の資本に於きましても、今迄は三萬か四萬の小資本で出來て居たが、今日では一つの大きな全集をやるにしても、三十萬とか四十萬とかの資本を要するといふやうな状態に、此日本の出版界が變つてきたのであります。これは僅かこゝ八、九年來の日本の出版界の特殊の現象であるのであります。そこで此頃此出版を志望する人が非常に多くなつて來たのであります。——雑誌の記者を望まれる方には私は後でまた申上げたいと思ひますが——例へば一流の出版社に入社を希望せられる人々は、初め普通の入社試験をする時には、あなたの會社で一生を通じて働かして戴きたいといふことを申入れられるのであります。すけれども、それが三年経ち、四年経つといふと、矢張獨立して行かれる方が非常に多いのであります。それで私などのやうに、出版とか雑誌に關係致します者は、大學を出たり、或は地方の小金持であつたりする人が、雑誌社なり、出版社を志望せられる時は、餘程注意をするやうになつて來たのであります。即ち多くの高等教育を受けた方が入社されますからして、さう一々今迄通りの丁稚さんに對するやうに手を取つて教へるといふことではないのでありますけれども、大體高等教育を受けられなくても、一年や、二年の間といふものはなか／＼實務の役に立たないのであります。それが折角役に立つやうになられるといふと、獨立される人が非常に多いのであります。そこで大きな出版社としましては、非常にそれは困るのであります。例へば廣告料にしましても、大きな出版社の廣告料の單價と、それから小さい出版社の單價とは一行の料金の單價といふやうなものは、非常に違ふのであります。所が二年なり、三年なり大出版社に居られると、其内部

雑誌その他出版社員たらんとする人へ



のことが一通り分つてしまふ。であるからして、さういふやうな分つた頭で以て廣告主に向つて、お前はあの方面にはこれだけの料金を以て廣告させて居るのではないかといふやうなことを言つて、それが爲に新聞社の廣告部が、非常に困る場合が随分あるのであります。それは一例であります。其他紙を仕入れるに致しまして、若くは印刷を頼むに致しましても、普通の人が、印刷會社なり、製紙會社なりと取引する、唯一冊二冊の紙代とか、或は印刷代といふものは非常に高いけれども、吾々見たやうに定期的に幾十種も出して居るといふ所は、非常に安いのであります。であるからして、其内部のからくりといふものが非常に能く分つてしまふ。であるからして、資本を有つて入社を希望せられる人に對しては、非常にやりにくい、さうして警戒しなければならぬといふ立場になるのであります。

併しながら、吾々と致しましては、出版といふものは、兎に角一國の文化、文明といふものを高めて、さうして國民全體の知識を向上せしめるのが目的であるからして、假令自分の社には、さういふやうな不利益とか、不都合とか、非常に便利の悪いことが多々あらうが、それは仕方がないといふ大きな考で居らなくてはならぬと思ふのであります。それで餘りに其人の身許を詮索するといふやうなことは、吾々としては致して居りませぬ。其人が獨立する時にはいろ／＼の事務的のことは一時は非常に困るけれども、併しながら助けられるだけは矢張助けて行つて、さうして協同して自國の文化の向上に努力する、さういふ大きな高い所から見ると、別に金持の人が出版を希望せられて、入社されても、特に警戒するといふやうなことは致さないであります。併しながら、それも出版社に依りましたは、矢張これを丁稚奉公のやうにして、何年も居らなくちやならぬといふやうな義務のある所が、十年位前迄は随分多かつたのでありますけれども、現在ではさういふ傾向が段々少くなりつゝあるのであります。それで此出版を希望せられるといふ方は、非常に特殊な方でありまして、斯ういふ方面に偉い人が出るといふことは、日本の爲には非常にいゝことだと私は思ふ。であるからして、あなたの社で、月給を貰はぬでもいゝからして勤めさせてくれとか、見學させて呉れといふ人に對しては、まだ吾々として、若くは日本現在の出版社として、あまり門戸を開放してありませぬけれども、一般の入社したものに對しましては、矢張出来るだけ、綜合的の社の總ての經驗知識といふやうなものを與へたいと思ふのであります。さうして教育のある方々が、日本の出版界に雄飛するといふこと——出版界に英雄が現はれるといふことは、只今のやうに、日本の政治の上でも極めて不健全な傾向が非常に濃厚に、さうして重苦しく働き掛けて居る時に於て、私は最も歓迎し、又總ての方面で獎勵されなくちやならぬことだと確信する一人であるのであります。

それで今迄は出版社員を志望せられる方、雑誌を志望せられる方と言つて、特殊な採用の仕方は吾々の社では致しませぬけれども、併しながら大體に於きまして、例へば改造社ならどの部門を志望せられるかといふ場合、大抵雑誌「改造」の方を志望したいと言ふ。雑誌「改造」は今迄試験採用以外の特別の任用といふことを避けて居ました。尤も社の内部にあるものが志望したときには補充して行きましたことでもありますけれども、これは全體としては非常に僅かの人數であります。どうして「改造」を志望せられるかといふことを聞いて見ますといふと、其處に居て色々な修養をしたい。それからチャーナリストを志望する人が二三年間もあなたの社に置いて貰つて、小説を其間にウンと勉強して見たいといふやうな人が随分あるのではありません。斯ういふ點に付きまして、私なんかは非常に困るのであります。それはあなたの考へ違ひぢやな

か、小説家を志望する人がジャーナリストになるといふのは、非常に採用しにくい。であるからして、初からあなたは小説家に御成りになつた方がいふぢやありませんか、斯ういふことを返事するのであります。併しながらさういふやうなことを露骨に申される方は非常にいふ性質の人であります、さうでない人はたいてい二三年間隠して置いて、やはり夜歸れば小説の方を執筆するとか、或は評論を執筆するとかいふやうな人が非常に多いのであります。で、此點に於きましても、初から小説家になると言はれれば、勿論及第は覺束ない。唯色々な事情を見學する爲に入ると言はれれば、所謂七八名の試験委員としましては、その人を合格せしめるといふことは出来ないであります。併し一旦社員になられてから、さういふ方面を特に勉強される方は、これも其人の希望を別に止めるといふ譯には行かない。社の事務に差支へのない範圍に於きましては、それをも許して來て居るのであります。其時には、詰り社員であつて社外の機關に發表する時には、社の首腦部の許可が要るといふことに致して居るのであります。併しながら初から自分は小説家になりたいたくは自分で出版會社を起したいからして、あなたの所に見習といふ意味で入りたいといふやうなことを言はれると、結局前に申しました通り採用する譯には行かないのであります。

それで吾々の社と致しましては、大體その年の一月なり二月の末に採用する人員を決めました。その人員だけを試験に依つて採用する、若くは特殊な銜衡に依つて採用するといふことを決するのでありますが、何れも論文を徴しまして、其中から——詰り千二三百人も希望者がある時は、大抵其三分の一は論文で之を刎ねて、さうして残りの中から試験致しまして、其約五分の一位の數をば殘し、之に更に口述試験をやるといふやうな風に今迄なつて居りました。これは大方他の社でも、同じやうなことをやつて居られると思ひますが

試験又は銜衡による採用
論文提出

更に此試験の課題等に付きましては、既に専門學校、大學などを卒業せられた方に付きましては、吾々は敬意を表しまして、基礎的の質問といふものはしないのであります。口述試験にしましても、筆答試験にしましても、最初の論文に合格した方に付きましては、所謂ジャーナリストとして、その人物が果して適當するか、適當しないかといふことをば第一に試験するのでありますからして、先づ其方が學校以外の社會の知識、常識といふものが、どの程度迄發達して居るかといふこと、それから又其人が果して對外的に、人間的に丸味があるかどうかといふことを、一番中心として見るのであります。併しながら又社の出版編輯部とか、或は文藝部といふやうな方面へ廻る人々は、別に其人間が對外的に非常に「圓滿」であることがそれ程重要でないから、「圓滿」そのもの、徳をそれ程尊重し、若くは資格の重大要素と見る譯ではない。ですから試験に採用する資格の要素とはしてゐませぬ。要は其人の頭がどれ程優秀であるか、どれ程見識があるかといふことなのであります。で、學校を出られた方は、知識といふ點に於きましては、何れもさして甲乙はない。それから性格が果して萬人に向く性格であるかないかといふことも、これも吾々と致しましてはさう氣にしたくないのであります。凡そ人間といふものにさうクズはないものであります、ムツとした人は矢張それ相應の長所を有つて居られるからして、さういふ方面に廻す。で、先づ第一に吾々と致しましては、諸君が學校を卒業せられた時期を限度として、どの位の見識が涵養されて居るか、信念が養はれてあるかといふことを知るといふことが、一番採點の中心になるのであります。即ちあの人は非常に御世辭は巧い、人附きがい、併しながら世の中の情勢、世界の動きといふものに對してどれ位の知識を有つて居るか、又人間としての信念がどうかであるか、これが大切なのであります、この二つの條件が、其人が及第するか、或は落第するか、雑誌その他出版社員たらんとする人へ

見識と信念の如何が採點の中心になる

るかの瀬戸際になるのであります。大體外の出版社及雑誌社に致しましても、私の今申上げたやうな方針で探つて居るだらうと思ふのであります。其人が行く先々にどれだけの働きがあるか。それには其人の見識と信念を見るより仕方がないと思ふのであります。

それで、諸君は學校を卒業される四五箇月前から、所謂處世上のことをば非常に急に見習はれる方があると見えます。社に於て行ひます所の口述試験とか、或は筆答試験などに往々見る例であります。所謂現代のモダン語とか、其他處世に非常に必要である所の處世術と言ひますか、さういふことを速成で習つたやうな跡の見える方が往々目に付くのであります。吾々は一向さういふことは眼中に置きませぬで、所謂其人が大局をばだけ把握し得るか、さうしてどれだけ出版なり雑誌なりの仕事を擔當して處理する能力があるか、といふことを見るのであつて、例へ近代語——近頃流行る所の色々な言葉を試験して見ましてもさういふことを知らなかつた所で、一向其人の人物、識見といふものには關係のないものでありますからして吾々の社と致しましては、入社の時なんかはさういふものを試験することを成べく避けて居るのであります。縦し課題致しましても、それは殆ど何かの参考に資するだけで十分の一も採點に入れて居らぬのであります。大體今日の時世は、皆様も御承知の通り、四、五年前の社會の情勢とは、非常に違つて來て居るのであります。でありますから、同じ知識階級を對象として出します雑誌でも、日本の所謂解放運動が組織的になつて來ました大正七、八年頃から、昭和五、六年迄は、總て自由主義をモットーとする雑誌が、知識階級の對象をなして居つたのであります。併しながら、今日におきましては、必ずしもさうではない。さうして今迄さういふやうな傾向が濃厚であつたものも、現在の日本の狀勢に照して、矢張りさういふ題材を取入れて行く

モダン語や
速成處世術
は重視しな
い

社會情勢に
對應する批
判能力を養
成せよ

といふ傾向になつて居るのであります。でありますから、此兩面の知識といふものを批判する能力が、現在雑誌を志望される皆様方には一番必要ぢやないかと私は考へるのであります。唯單に日本の情勢が、「フアツシヨ」的傾向が非常に濃厚であると言つた所で、直様さういふやうなことをば、批判なしに吾々の雑誌及知識階級を對象とする雑誌が取入れるといふことはしないのであります。何れも一つの批判を以て取扱つて居るのでありますからして、入社試験などに致しましても、日本の國、若くは世界に流るゝ所の此兩面の傾向、其事情といふものを、あなた方が今迄教はつた基礎知識で以て、これは斯う、あれはあゝといふやうに、根本的に批判し得る能力を養ふ爲に、色々な本を讀まれるとか、或は新聞紙等に於て、さういふものに對する興味を養はれるといふことが、非常に必要ではないかと思ふのであります。ジャーナリストといふものは、今申上げましたやうに、本當の見識、及それを實行に移す所の情熱、此情熱といふものがなければ、私は決して成功するものぢやないと思ふのであります。如何に日本の政界、經濟界の色々な事情の變つて行くことをば知つて居ても、それをジャーナリストとして取上げることに勇敢でなかつたならば、其人は失敗するのであります。

で、現在先づ一つの雑誌を作る上から例を取つて申し上げますといふと、十二月號の雑誌を市中に送る爲には、大概原稿を十一月十二日迄に集めまして、さうしてそれを十三日の夜遅く迄に校了に致すのであります。併しながら、例へば十三日の日に、非常に大きな政治上、社會上の事件が起つたとしましたら、矢張りそれを取入れなくてはなりません、そんなときは定期の發行日が十九日ですが、それが、一兩日後れることがあり得るのであります。さうしたときの取扱ふ取材が檢閲的にむづかしいもの——即ち内容が治安とか安寧と

雑誌發賣ま
での苦心

か關係があるもの——であるときは非常に困ることがあるのであります。元來内務當局の見方と我々の解釋と非常に異なることが時にあるのですから。さうしてそれは必ずしも成文がないものは唯當局の手心によつて解釋されて禁止とか切取りとかになる、こんなときは訴へ様もなく悲觀的になることが度々あります。かういふ時には、矢張りジャーナリストとしての大所高所からの見識といふものと、信念、勇氣といふもので押切らなくてはならぬのであります。單にひと月の雑誌一冊を作る上に付きましても、かくの如き苦心、配慮がいろいろあります。それで十三日に校了した雑誌は、十七日の晩、若くは十八日の朝迄に市中の大賣捌店に引き渡します。さうしてそれが十九日に發賣されるのであります。所が檢閲を受けますのには、雑誌が十七日若くは十八日に内務省に着きますと、その日から十九日、二十日、二十一日、此四、五日の間に、内務省の檢閲課でそれを部員の方が檢閲するのであります。さうしてそれが治安に害あるものは、發賣禁止にし、一部切取りで濟まされるものは、一部切取りをする、それからさういふ法規に觸れるものがないものは無事に其儘濟ますといふことになるのでありますから、雑誌の編輯の主任といふやうな人は、その前後の四、五日間といふものは、ロク、ロク、眠れないのであります。尤もこれは思想を取扱ふ雑誌が苦難時代であるからでありませう。さういふやうに、一つの雑誌を作るにしましても、非常な心配をして居るのであります。尤も思想雑誌以外はたいしたことはないのです。尙其外日本の國情及政治の事情が違つて來ますといふと、時の檢閱方針といふものが、往々從來の方針を其儘踏襲して行けないことがあるのであります。でありますからして、さうした時には、矢張雑誌に長い經驗を有つた人がそれを處理しなければ、所謂學校を出てから一年や二年や三年の人では、其處理が到底難しいのであります。これは唯一箇月の雑誌を作る上からの苦心の一端を申上げたのであります。其一社をば背荷つて行きます上に付きましては云ふに言はれぬ大きな心配が伴ふものです。そして日本の出版界、雜誌界といふものを、國際的に文化的に高めて行かうとするにはさうした苦難と一生鬪つて行かなければならぬのです。さうでなければいまの時世に文化的にいゝ展開を示すことができぬのであります。希くば知識階級の人々や政府の人々も此間の事情をよく考察して貰ひたいものであります。

雑誌記者は新聞記者以上に機敏を要す

新聞の發禁は當日だけ雑誌ではその月全體に影響する

それから又新聞記者といふものは非常に機敏を要すといふことは、御承知だらうと思ひますが、新聞記者よりは雑誌記者の方がもつと機敏でなければならぬといふことを、御話して置きたいと思ふのであります。それはさういふ譯かと申しますと、新聞紙としましては、例へば本日なら本日一日だけの發賣禁止の影響といふものは、一向多大でないのであります。一日禁止されても、二日禁止されても、購讀料といふものは約束しただけとれる、まからぬ、そして一箇月分完全に徴收することが出来るのであります。併しながら雑誌はさうは行きませぬ。一度それが禁止の厄に遭つて、さうしてそれが例へば十九日なら十九日に當局の手引上げられて、二十日、二十一日と三日間も、當局の倉庫に留めて置かるゝといふことになりましたならば、相手方の雑誌が其間に皆賣れてしまふ。大概雑誌の賣行きといふものは、雑誌が出てから三日間、四日間の生命が、其賣行きの約七割若くは六割五分だらうと私は思ふのであります。さういふやうな状態で、一たび禁止を喰へば、直ぐそれだけで一箇月間の雑誌の全收入といふものが全然駄目になつてしまふ。若しそれが一部切取りですんで還附されましたも、全體の收入の五割とか若くは四割位のものしか雑誌社に這入つて來ないといふ状態であります。かうした危ない綱渡りと云ふことは、新聞社などの夢想もできないことで

す。まことに困つた現象であります。

それからどういふことに雑誌記者は機敏を要するかと申しますならば、例へば茲に一つの事件が起るとします。社會上の大きな事件が起ると假定します。所がそれを剴切に批判のできる適任者と云ふものは澤山は居ない。例へば福田徳三氏なら福田徳三氏が、その方面の第一番の權威者であるとして、甲社が事件直後その人に一分間前に執筆方を依頼した場合は、乙社はもう如何ともすることはできません、そこで其月の雑誌の賣行きの大勢と云ふものが決してしまひます。さう致しましたならば、僅か一分間の差で乙社は取返しつかぬ状態を招致します。尤も今日では一人の權威者を取遁したために、さほどのことはないにしても、一つの事件を全體的に取扱ひが後れたと致しましたら、前に申上げたやうな悲觀すべき結果が生れてくるのであります。これが新聞社の場合でありましたならば、その日のニュースが後れを取つても明日で取返すこともできますが、一ヶ月一回の雑誌ではさうは参りませぬ。つまり、一分間後れたら、一ヶ月の成績が全然取返しがつかぬのです。新聞記者より雑誌記者が機敏でなければならぬと云ふのはこの點でもわかると思ひます。即ち影響するところがとても深刻に大きいのであります。部分的でなくて全體的であり、決定的であるのであります。又婦人雑誌で申しましたならば、茲に一つの大きな心中事件とか、さうした社會的に大きな波紋を起させる題目があるとします。これを若し一分間の差で甲社がその當事者とか最大の關係者に執筆を依頼したとします、乙社は甲社に比しタツタ一分間後れたばかりで以て、雑誌の出來榮えや、賣行が非常に違つて來ることがあります。でありますからして、雑誌の仕事といふものは、非常に緩慢なやうでありますけれども、實際は餘程機敏でなければならぬし、又雑誌記者に独自の見識がなかつたならば、其社は

大體を把握することができず、従つてその結果は營業的に非常に不利な結果が觀面に現れてくるのであります。

又出版のことを一言して見ます。日本の出版といふものに付きましては、一つの所謂見識を有つて居れば一、二年前まで十萬圓位の金で以て、半歳か一年の間に、それを百萬圓にするといふことも必ずしも不可能ではないとせられて居た。併しながら、新聞や雑誌ではそれが出來ないのであります。でありますからして出版にはさうした云ふに云はれぬ妙味が伴ふものでありまして、所謂英雄たらむと欲するものは、矢張出版の方に行つた方が、一番自分の力を發揮し易いのであります。一體に今の大學及専門學校の卒業生諸君は、皆秩序の立つた大きい會社へ入ることを志望せられる方が多いのであります。それは自分の生活が安心である。自分の一生涯が安樂に送られるといふやうな、謂はゞ打算的な、小利口な考から、或は三菱に入るとか或は三井に入るとか、それから日本銀行だとか、三井銀行だとか、其他の會社にしましても、一流の會社を望まれる方が非常に多いのであります。成程それは一家をして平和に暮らせるには非常に得策であります。でありますけれども、本當の力を持たうと思ふ人、それから自信で以つて、自力で以つて社會にブツかつて行かうとする人は、小さな出版社に入りますと殆ど自分の力に依つて其社が動かされるのであるから、非常に興味もあるし、又本當に自分の力の發揮が出來、自分の度胸が養はれるのであります。併しながら、大出版社は、朝日新聞とか、或は日々新聞のやうには、其内の構成——秩序が立つて居ませぬけれども、それでも矢張主幹とか、各部長とかいふものがあつて、自分の經綸を實行するといふことには、中々半年や一年ではむづかしいのであります。そして全社を動かすには力量以外に相應の德望といふものも必要であります

出版界の英雄兒たらんと欲する者は小出版社に入れ

即ち経験、年齢、徳望さうしたものに依つて皆の部員をば成程と云ふ——信頼をさせるのが必要でありますけれども、小さい出版社又は雑誌社に入り身をば挺して努力したならば、其経験する一事々々が即ち自分の力でやれる、さうして自分の力で、ド、ン、ク、飛躍するといふことが分るのであります。さうして自分の見識といふものが現はれる。であるからして、それは苦しいことは苦しいけれども、大きな出版社に十年居るよりは、小さい出版社に二、三年居つた方が、自分の経綸といふものも實行されるし、又自分の勇氣といふものも、自信といふものもつくだらうと思ふのであります。

併し世の中といふものは、中々さう簡単には私は參らぬと思ふ。即ち生活の安定しない所に行けば、非常に冒険が伴ふし、而して産のない人が大學や専門學校を出られるのはそれ／＼の學資が掛つて居り、毎月四十圓なり五十圓なりの學資を貰つて漸く卒業されて、偕て皆さんがそれ迄學資があり餘つて卒業したかと言へば、學資の乏しかつた人がむしろ、多かつたかも知れない。さういふ人は、もう今迄家族を斯うして待たして置いたのだから、これから先は一日も早く家族の力になつて、しつかりやつて行かなければならぬといふやうな事情の人が、非常に多いのであります。又事實さういふ人が、出版社に於きましても、雑誌社に於きましても一番頼りになるのであります。學資があつて、緩くり卒業した方々は、甚だ頼りない。さうして力の入れ具合、度胸の坐り具合といふものが、非常に違ふのであります。であるからして、吾々の理想としましては、成べく中以下の家に育つた人を探つた方が、社の爲にもなるし、又其人の爲にもなり、更に社會政策的の見地から見ても、其方が遙かに良いといふ自信を有つて居りますが故に、若し試験の結果、生活に困る人と、困らぬ人とが同點であつたならば、今迄の生活が非常に苦しくて困つた人をば、必ず私の社

生活の豊か
な人よりも
乏しい學資
で卒業した
者を採る

應用のない
者は困る

天才の刻苦
精勵を待つ

では採るのであります。又さういふやうな人は必ず伸びて行くのであります。お坊つちやんで育つた方は實際仕事をさせて役に立たぬことが多いのであります。併しながら又、餘りに學校勉強で腦漿を絞つたが爲に卒業間際に頭の働く力が涸渇せるが如き人も見受ける、かうした人は非常に困りものだ。つまり學科に力を使ひ過ぎたが爲に應用力を求めるときにそれが利かぬやうに硬張つてしまつてをるのであります。頭が疲れ切つて居るが爲に、言ひ付けた仕事は中々よく確實にやつて戴くけれども、それ以上のことがやれない。そこで天才を求めたい、天才の人はさう云ふとき融通がよく利きますから。併しながら、金があつての天才、自由に育つた天才では、私は頼み甲斐がないと思ふ。元來頼み甲斐のある人、天才のある人は、とても氣が變り易い、さうして又近道を通り易いのであります。吾々の今日要求する人間は、近道を通つて行く人ではない。當り前の道を歩いて、さうして初任者としての道をまともに通つて呉れる人が、本當に社を背負つて立つて呉れる人であると私は思ふのであります。であるからして、ただ天才だけでは當にならぬ。併しながら、これは時の教育といふものが、天才を非常に役に立たせぬやうにしたのであつて、天才のある人が、刻苦精勵して呉れなければ、私は本當の仕事は出来ぬだらうと思ふ。天才といふ人は、自分を恃む、さうして又人からチヤホヤされるからして、それに依つて近道を通つてやつてしまふのであります。而して天才の人が刻苦精勵しなければ、出版界に於きましても、雑誌界に於きましても、目新しい仕事は出来ないと思ふのであります。殊に文明文化の上に百年に生きる仕事はかうした天才であつて、努力精苦する人にして始めてそれが期待されるのです。現在の日本の出版界と申しますものは、唯資本主義的機構の外形だけが出来ただけでありまして、其内部構成の完全した社といふものは私はないと思ふ。それは無論資本や財産のある所は、

或は朝日新聞とか、日々新聞に對抗するところがないとも限りませんが、併しながら、内部の陣容、組織といふものは、新聞社程細胞的に行届いて居ないのであります。そして知識階級の人々を收容して、その新銳の力を基礎として、出版や、雑誌の上に新しい力、新しい氣分を漲らせて行きたいと思ふ大人物の少いのを私は非常に遺憾に思ふのであります。これが愈々組織的に、分類的になつて行きましたならば、矢張さういふやうな天才的な人が此處に入つて来て、資本主義の雑誌機構なり、若くは出版機構を完成するだらうと思ふ。さういふやうなことに今着目する人が、即ちこの出版世界での權威者になる餘地が残されてを。さう云ふ餘地が出版界の英雄を待つてをると云つても差支ないのであります。全く面白い機會ではありませんか。

現在大きな出版社はあります。大きな雑誌社もありますけれども、内部の構成は新聞社のそれと比較しまして、非常に差異があることは繰返し陳べた通りであります。此點があなた方が出版社なり、雑誌社なりに入る大きな着目であると思ひます。でありますから、私は皆様がどういふ意味に於きましても、來年の四月から、皆就職が得られることを希望します。或は就職の需給が全部の就職を許さない場合があるかも知れませんが、ですから、不幸にして落伍される方があられるかも知れませんが、併しながら就職される方は、私の今申上げました通りの出版界なり、或は雑誌界なりの状態でありますからして、英雄武を用ゐるには、非常にくみし易い時代であります。現在迄は出版社も雑誌社も、社會上からさう重く見られて居ない。併しながら一寸金儲けをしよう、世の中に出ようと思ふ人は、新聞社から出た方がよいか、雑誌社から出た方がよいか、出版社から出た方がよいかと言へば、それは出版社から出るといふことがもう一番の出世の近道なのであります。だが、これは中々直ぐには出来るものではない。即ち其人の見識と、勇氣とい

出世の捷徑
は出版社か
ら

ふものが、非常に私には必要になるだらうと思ふのであります。

あなた方が社會に出られるのは、もうあと五ヶ月しかないと思ふ。と此五ヶ月間に、あなた方の大事な一生の方向が決定されるのであり、さうしてそれに依つて、あなた方御一家の運命といふものも、半ば決まるのでありますからして、非常に慎重な態度を執つて、就職戦線に臨まれて、本年落第したからと言つて、直ぐ様自分の志望を變更抛棄されるといふことのないやうに、私は御勧めしたいと思ひます。そして雑誌業にしましても、出版業にしましても、その社によつて仕事にいろ／＼の相異がありますから、先づ入社しようとする社の輪廓、内容を一應も二應も認識する必要があります、此點を誤認したならばたいへん後悔する様なことでもありますから——。尤も家計上已むを得ぬ事情を有つて居られる方は仕方がないと致しまして、苟くも自分の信念で以て、此方面に天才があると思はれたならば、さういふ方面に向つて突進されんことを望みます。自分の信念、傾向は何事でも基本になることをも忘れないで下さい。而して文化的に日本を伸暢せしめるについて、どういふ方面に活動したならば最も頭角を現はし得るか、日本國の文明を永久に高める爲には、どの方面が一番いゝかと申しましたならば、私は此出版業といふものが非常に重要であることを茲に申上げて置きたいのであります。尤もかうした食ふに困る時代だから、高尚な理窟などいるものかと申す人があるかも知れませんが、勿論生きることの爲めの努力もすべきだが、理想があつてこそ、そこに大きな勇氣、大きな力が生れるのです。目標なしには人間は進めませんから——。

時間がありましたならば、皆様の御質問に此處で御答辯申し上げたいと思ふのでありますが、既に時間もありません。併し皆さんの中で、質問したいと思はれる方々で、私でよかつたならば、書面なり何なりで質問

出版業は日
本の文化を
伸暢せしむ
る重大意義
がある

せめて生活
死守すべき
城砦を獲得
せよ

雑誌その他出版社員たらんとする人へ

五〇

されるなり、又面會にでも来て下さつたら、私は喜んで皆さんに御答へしたいのであります。さうして日本の十年後、二十年後に來る出版界をして、皆様方の雙肩に依つて、意義ある發展をさせて戴きたいと思ふのであります。日本の現在の出版界には、金持の人が相當に多いのでありますけれども、併し本當に文化的の意義、信念を有つて當つて居る人がどれ程あるか、といふことを考へて見ましたならば、其豈聊か心細いものがあるのであります。併し英雄武を用ゐて、一番現れ易い所であるといふことだけは、私は重ねて申上げて決してこれが偽りでないといふ確信の下に、申上げたのであります。しかし皆さんお揃ひで英雄になれますまいから、せめて自分の一生涯死守すべき城砦位は獲得していただきたい。人間は最後の「持ち場」を持つことがどれだけ心強いことぞせう。

(昭和九年十月二十七日 朝日講堂に於て)

官公署員たらんとする人へ

内務省社會局社會部長 富田愛次郎

職業問題の重要性——何が適材適所か——メンタルテスト——試験の成績は必ずしも實力を示すものではない——職業の選擇には十分なる考究が必要——官公吏は全力を擧げて公務に服する無定量の義務を負ふ——官公吏の倫理性——官公吏は國家共同團體に對し不斷の努力を要す——官公吏たる資格——所謂役人型でなければならぬと考へるのは誤解である——忠實即信頼さるべき人物たること——正義の觀念に富む——研究心に富む——旺盛なる精神力に體力——金を儲けたい人は役人になつてはならぬ——非常時日本の内外

私の先づ第一に御話したいことは職業問題の重要性といふことであり、私は常にこの職業の問題を考へる毎に、實に人間といふものは不思議なものであるといふことを考へるのであります。何故さう考へるか。一體世の中ではよく適材適所といふやうなことを申しますが、適材適所とは何であるか、何が適材であり、何が適所であるかといふことは、言ふことは容易であるが、その實現は生やさしいことではない、非常にむづかしい問題であると思ひます。その人の天賦、人間の天性が如何なる質と如何なる可能限度とを持つて居るかといふことは、一寸分らない。人の天賦といふことになつて來ると、人間といふものは實に不思議な存在であると考へるのであります。

官公署員たらんとする人へ

五一

職業問題の
重要性
何が適材適
所か

一例を擧げて見ますと、私の先輩で或る文學博士がおります。今は相當に有名な人ですが、高等學校に居る時分には始め理科をやつて居りました。或時先生が名前を呼んだ時に、氏は「ヘイ」と答へたのであります。「ハイ」と答へずに「ヘイ」と答へたのであります、それが悪いといふので先生に非常に叱られましたので、「一體ヘイと申しては何故悪いので御座りますか」といふ譯で先生と口論してしまつた。そんなことで遂に理科をやめて文科に轉じまして、今では歴史の研究に於て大家となつて居るのであります。唯學校に於て「ハイ」と「ヘイ」との區別に依つて自分の目的を變へて行つたのであります。果してその人が元のコースを採つて行つたならば、今日の彼になつたかどうか疑問でありまして、そのやうに偶然な行懸りで以てその人の運命が支配されることもあります。吾々の友人の中にも今は役人をして居りますが、實業界に行つたならばより立派な人になつたと思ふ人もあります。或は學究として研究して行つたならば、もつと良い立派な學者になつたと思ふ人もあります。しかしそれも萬能の神様が見たら、又別に考へられるかも知れない。

さういふ風に考へて來ると人間の潜在力、天賦の能力の姿といふものは實に不思議なものである。故に一口に適材適所と言ふけれども、本當のところを掴むことは容易の業ではないのです。それは實に一個の神祕であると思ひます。

諸君は御承知でありませうが、近頃はメンタルテストといふ人間の智能測定方法があつて、これは諸君が餘程頭を悩まされる問題であると思ひます。日本では、これは外國にも多くあるのであります。學校、殊に小學校を出た者が將來どういふ職業に向いて行つたら宜いかといふことで、その人の聴力、視力、手先、

メンタル
テスト

試験の成績
は必ずしも
實力を示す
ものではな
い

是等に依つてその人の能力を試験して判断する道具があります。心理學的實驗裝置であります。これは目下のところ發達不完全なものではあるが、本人の職業的に適當する方面と不適當な方面とを知る意味に於て或程度は參考になると考へられてゐるものであります。然しながら、焉ぞ知らん人間の不思議な力、人間の内的に存在して居る所の神祕の力、それはメンタルテストでは分り切れない存在である。斯う私は常に考へて居るのであります。此處には近い將來大いに羽翼を伸すべく準備されて居る多數の大學若くは専門學校の學生諸君が居られるのであります。このメンタルテストなる機械的測定のみによつて諸君にレッテルを貼り付けて、この人は將來政治家になるのがよい、この人は將來實業家になるのがよい、この人は將來プロフェッサーになるのが最適であるといふことを誰が今日適確に保證することが出来るでありませうか。將來諸君が如何なる方面に立ち、如何なる社會的貢獻をされるかといふことは、如何に經驗のある立派なメンタルテストの技術者が來ても、決して分り切れないのであります。今日役所でも實業界でも學校の點數がどうであるとか、文官試験の成績がどうであるとかといふことが、一つの標準になるのであります。その實は學校の成績や文官試験の成績でも、その人の眞の力は分るものではないといふことを私は常に感じて居るのであります。

然し乍ら、職業といふものは、之を通して我が生存の意義を充塞し、之を通して國家社會に貢獻して行かうといふ基礎舞臺である。故に、如何なる職業の道を行くのが自己に最適であるかの發見が、前申したやうに如何に至難であらうとも、諸君は職業の生活に入るに先ち、充分に縦横に考慮せられる必要があると存じます。諸君の多くは既に大學の學業を終へられて將來社會に出て社會の爲に大いに働かう、羽翼を伸さうと

官公署員たらんとする人へ

職業の選擇
には十分な
考究が必
要

考へて居られる方であります。よく内省をし反省をせられて、自己の内身深くメスを入れて、將來如何なる方面に職業の道を選んで行くべきかといふことを考究されるのは極めて必要なことでもあります。吾々が人間として生を享けて、その人生といふものゝ内容を如何に建設してゆくか、又人生を如何に價値付けるかといふ根本の重大なる基礎條件が職業の問題であるといふことを考へますと、「ハイ」や「ヘイ」といふだけで偶々自分の將來のコースが定つてしまつたりするのは危険であります。此の意味に於て卒業前の諸君が大切な時間を割かれて、この問題を研究されるといふ御態度に對しては、私は諸君の周到なる御用意の現はれとして賛意を表する次第であります。

私に與へられました問題は「官公署員たらんとする人へ」といふ問題であります。官吏若くは公吏の何であるかといふやうなことは、實は私は官吏法も行政法も昔は習つたことがありますものゝもう古くなつて一向現代の法理には遠いのであります。諸君こそは最も新しい行政法に依つて官吏の國法上の地位といふやうなものを御習ひであり、私が此處で官吏法を講ずるといふことは何等益のないことでもありますから、私はそれは申しませぬ。兎に角官吏は自分の全力を擧げて國の公務に服する無定量の義務を持つて居るものである。公吏もさういふもので、唯背景が國家であるか公共團體であるかといふことに依つて違ふのです。だから諸君、役人の定義はどうでも宜い、公吏の定義はどうでも宜い、けれども官吏と公吏とは何處が違ふかといふと、一方は國家の爲に全力を擧げて盡すべきものであり、公吏は公共團體の爲に全力の勤勞を提供すべきものであつて、言ひ換へて見ると役人は國の使用人であり、公吏は公共團體の使用人で、そこに官公吏の仕事の特色があるのであります。即ち公の仕事に服するといふことが普通の使用人とは趣が違つて居るので

官公吏は全力を擧げて公務に服する無定量の義務を負ふ

官公吏の倫理性

あります。官吏公吏の仕事は私的の仕事とは違つて居り、そこに官吏公吏たる職業的立場の倫理性といふものが出て來なくてはならないのであります。私の言ふのは決して官吏が偉いとか公吏が偉いとかいふ意味ではありません。職業に貴賤の別なしといふことを申しますが、私は職業には何等高下の別はないと深く信じて居る者であります。私は役人でありますから毎朝役所に出て行きますが、門衛がこの寒いに拘らず一つの門戸を守つて役所を監視して居るのであります。自分の受持の所は狭い、仕事はさういふ一局部の仕事をして居るけれども、その仕事を眞面目に考へ、眞面目にそれを遂行するならば、私はこれは實に敬意を表すべきものであると思つて居るのであります。成程國務大臣のする仕事の範圍は廣いでありませう、門衛の仕事の範圍は狭いでありませう、けれどもこれは仕事の分量の問題であつて、仕事そのものには何等價値の違ふ所はないのであります。仕事の神聖といふ點に於て、何も職業に上下はない、貴賤はないといふことを深く信じて居るのであります。さりながら官公吏の仕事は、それが公の性質を持つて居る以上、そこに特別の義務があり、そこに特別な倫理性を持たなければならぬと思ふのであります。政治は最高の道徳であると申しますが、官公吏は國の政治の一部分に與るものでありますから、その意味合に於ても官吏公吏の倫理性といふものを吾々は認めなければならぬ、又その行動に付ても特別な考へを致さなければならぬものであると考へるのであります。ですから官公吏の行動に付ては影響が非常に多いのであります。諸君が新聞を御覽になつて、市の誰々が引つぱられたといふやうなことを讀まれたこともあるでせうが、これは社會に非常な影響を及ぼすので、それは官公吏が公の性質を有するからであります。官吏が不正な事をして新聞がかゝと書くのは官吏が國家に對する公の義務を持つ、その影響が大なるが爲であります。

官公吏は國家共同團體に對し不斷の努力を要す

官公署員たらんとする人へ

五六

此處に居られる諸君の中には官吏公吏になるべく考へて居られる方がありませう。役人にさへなつて居れば位が出来、勳章が貰へて恩給が付くといふ風に考へられる方があるかも知れませぬが、さういふものではないのであります。國家の生命は悠久であり、發展性を持つものでありますから、若し官公吏が理想に缺け、沈滞をし、努力をしないといふやうな國家公共團體ならば、その國家公共團體は決して繁榮を致さないであります。世界の何處の國に於きましても、官公吏が健全であり、全力を擧げて國家國民の福利の爲に努力して居る國家公共團體は必ずや發展し、國民の福利も進んで行くであらうと思ふのであります。反對に官公吏が努力しないで遊惰であるといふ國家公共團體は決して發展をしない、さういふ國家の命數の極めて弱いものであるといふことを私はどの國に行つても感ずるのであります。故に官公吏はさういふ意味合から見ても決して煙草を喫んで新聞を讀んで居れば宜いといふものではなく、國家公共團體に對して絶えざる努力を拂はなければならぬ性質のものであると思ふのであります。

官吏の性質を長々と申しますことは却つて益のないことと思ひますから、次には官公吏の資質といふやうな點に付て簡単に申上げて見たいと思ひます。官公吏と云ひその他の職業と云ひ、矢張り人がその職分を盡す一つの方面でありますから、根本の資質、條件といふものは恐らく同一のものであります。役人だからと言つて別に取立て、申す程のことではなく、どこでも當嵌る原則がなくちやならぬものであると思ひますが、官公吏といふ風に仕分けて見ますれば、又そこには官公吏たるべきもの、資質として特に強調すべき點があるやうに思はれますから、さういふ意味合に於て申上げたいと考へるのであります。

所謂役人型

官公吏たる資質

でなければならぬと考へるのは誤解である

をやつて居りますから、諸君から見ると吏臭といふやうなものが段々出て來て居るかも知れない。併し私は常に感じて居るのであります。官吏若くは公吏だからといつて決して一定の型に嵌まつた人間でなければならぬといふ譯ではないのであります。人には色々な天賦があり、才能があり、性格個性があります。非常に統率の力に長けて居る人もあります。又非常に組織をする力に於て長けて居る人もあります。立案はさうでもないが他との交渉は上手といふ人もあらうし、反對に交渉は苦手だが立案は得意といふ人もあります。又外國語をよく讀む人もあります。又字をよく書く人もあります。さういふ風に色々な人の天性や得意不得意があります。それ故に役人としても決して一つの役人型といふものがある譯はないのであります。私は寧ろ官公吏にしても一つの型ばかりが集まつたのではないと思ひます。百花燦爛、色々な天性を持つた人が組織の中に一團として入つたならば、これが色々な方面に於てその才能を發揮することに依つて國家は發展し、公共團體は榮えるのであらうと思ひます。故に諸君が若し世に謂ふ官公吏の一定の型がある、又さういふ素質がなければ役人若くは公吏になれないものであると前提されるならば、それは誤つた考へであると思ふのであります。その人の資質にして特徴があるならば、その特徴の色々なものを集めて、百花燦爛、色々な資質を綜合することに依つて國家機關、若くは公共團體の機關といふものは發展するものである、と私は深く信じて居るのであります。

その資質の第一は忠實であるといふこと、これは極めて平凡であります。平凡な中にも眞理がありませう。言ひ換へて見れば信頼されるべき人物であるといふことであります。官吏法を見ても最初に忠實の義務といふやうなことが書いてあるやうな譯でありまして、官公吏として物事を忠實に行ふ、従つて信頼されるべき

忠實即信頼
さるべき人
物たること

官公署員たらんとする人へ

五七

人物になるといふことであります。總てこれは官公吏ばかりではありませんが、三角形の頂點のやうなもので、初めから偉くなるのではないのでありますから、上の方にも好くなくてはならない、又横の同僚にも好くなくてはならない、部下にも好くなくてはならないのであります。これが爲には忠實に、信頼さるべき人物になるといふことが平凡なことでありますが大切であります。

第二は正義の觀念の旺盛であるといふことであります。言ひ換へて見ると不正を憎み正義を強く愛するといふ精神が必要であらうと思ふのであります。何かに書いてあつたのでありますが、大統領ワシントンが政府の重要な地位に當るべき人を銓衡しようとしたとき、彼は自分の友人を選ばずして政敵たる人を選んでその地位に立てたのであります。そこで或る人がそれを尋ねて、「貴方は何故に政敵たる人を選んでその地位に立てたのであるか」と言つた所が、「僕の友人も立派な人物ではあるが、今回の地位はその仕事の性質上彼はより一層その地位に適當であるが故に選んだのである」。斯うワシントンが答へたといふやうなことを讀んだのであります。左様に公の事に付ては私情を斥け正義を愛するといふことが最も必要であるのであります。

第三には研究力と言ひますか、クリエーチヴな、創造力の旺盛であるといふことが必要であるのであります。ナポレオンの言つたことに「人間は羊のやうなもので羊飼の後からその歩いた通りの道を踵いて行く」といふやうなことがあります。ナポレオンのやうな大政治家から見ると普通の人間は羊飼の後から踵いて行く羊のやうに見えます。併し羊飼の後から尾を振つて踵いて行くだけでは決して良官吏となり良公吏となる事は出来ないであります。これは獨り官界に於てのみ適用すべき原則ではないのであります。どの

正義の觀念
に富む研究心に富
む

方面でもさうであると思ひます。既に敷いてあるレールの上を汽車が走るのは何でもないのであります。絶えず研究心を旺盛にして、創造力を逞しくして、自分が一つの理想を持つて絶えず倦まず努力して行く事が必要と思ひます。獨逸は今日あのやうな状況になつて居りますが、一體獨逸は日本と同じやうに天然資源の少い國でありまして、獨逸が今日のやうな地位まで上つて來たことは實に獨逸人の研究力と創造力の賜物であります。獨逸の役所に行きますと特にその點を感じます。この意味に於て所謂羊飼の後から羊が尾を振つて踵いて行くやうなことでなく、絶えず研究力創造力を逞しくして、さうして國若くは公共團體の使用人として努力するといふことが最も必要であると、私は役人をして居りまして絶えず考へて居るのであります。

第四の資質はこれも平凡なことであります。精神力と身體の旺盛なことでもあります。これはどの方面に於ても、即ち官公界と言はず實業界と言はず、言論界と言はず、軍人と言はず、何れに於ても必要であると思ふのであります。特に官公吏に於てその精神上若くは身體上の活動力の旺盛といふことが必要であると思ふのであります。實は吾々が役人をやり出した初めに於きましては國家の仕事も比較的少なかつたのであります。それ程忙しくもなかつたのであります。近來は國家の仕事も非常に殖えて來まして、公共團體も同一であらうと思ひますが、朝は早くから、場合に依つては夜も遅くまで孜々として努めなければならぬのであります。従つてこれ等の忙しい仕事に堪へ得る爲には旺盛なる精神力と旺盛なる體力とを準備しなければならぬ。これは諸君既に十分御承知のことでありまして、特に申上げる必要もないのであります。私が、私は最も必要な資質として申上げたいのであります。

次に諸君は特に學校を卒へて社會に出ようとして色々考へられることがありませうが、もう一つ私は自分

旺盛なる精
神力並に體
力

金を儲けた
人は役人
になつては
ならぬ

官公署員たらんとする人へ

六〇

の體驗から申上げたいのは、金を儲けた人は役人になつてはいけないといふことであります。諸君御承知の通りに役人には、ちやんと俸給令といふものがあつて、それに倣つただけの給料より貰へないのでありますから、金を愛し、大いに金を儲けてそれで以て自分が何事かをしようと思ふ人は、官公吏になることはいけません。官吏は生活するだけの給料を貰ふので、その俸給袋に入つたものに依つて諸君が生活を維持し、それに依つて満足するといふ精神状態の人でなければ官公吏になることは禁物であります。若しその人生觀を誤るならば必ず新聞の社會面を賑はすやうなことになるのであります。これは冗談ではありません。さういふ簡素な生活に甘んじ、自分の一生はその簡素な生活に溶け込んで構はない、全力を國家の福利と民福の爲に盡す覺悟がなければ官吏になることは禁物であると私は深く信ずるから申上げるのであります。

私の學生時代のことを思ひ出しましたが私の恩師が私が學校を出る時に一句を呉れました。それを今も思ひ出すのであります。

若草や末は百合たれ薔花れ

といふ句であります。これが句として良いか悪いかは、私は發句は分らないのですが、燃えるやうな熱意と緑の純眞さを持つて居る諸君でありまして、將來百合になるか薔花になるか、これは將來の重大な問題でありますから、よく自己の性格にメスを入れて、諸君の資質をよく見出して、自己の天分と考へる所に向つて猛進することが必要であると思ふのであります。

諸君、今日の日本は御承知の通り非常な時機であります。外に對しては日本は國際聯盟を脱退致して稍々孤立の國際的情勢にあり、産業上から申しますと各國が關稅を高くして他國の商品を拒絶して居るといふ風

非常時日本
の内外

で、經濟戰が盛に行はれて居るのであります。どうしても育り立てゝ行かなければならぬ滿洲國、日本との協力によつて建國進展の途上にある滿洲國であります。日本はこれを援助し之と相携へて行かなければならぬ所の重大なる義務があるのであります。

國內的に見ますといふと、私は長い間役人をして今日に至りましたが、我國は未だ曾て遭遇したことのない程重大なる時機に際會してゐるのであります。東北地方は冷害の爲に、其日の糧にも苦んで居るやうな状態を呈して居る今日であります。九州四國の一部分には、早害で以て非常な不作になつて、是亦衣食にも窮して居る地方が大分あるのであります。加ふるに、先般の風水害は、關西地方——日本の産業の心臟部とも言ふべき大阪を襲つて、其損害も莫大であり、是が今や復興の途上にあるのであります。又先般北陸地方は非常な水害を蒙つて居るのであります。言ひ換へて見ると、我國は國內的には、今や殆ど國を擧げて、疲弊の状態に陥つて居るのであります。國の財政は諸君が御覽の通りの有様であるのであります。どの點から考へましても、日本の今日の國際的地位及び國內事情といふものは、曾て吾々が遭遇したことのない非常な時局を現出して居るのであります。

諸君の中には、將來官公吏となつて、國家の爲に、民衆の爲に、一臂の力を致さうと努力をされる方もあります。又實業の方面に出て、大いに日本の産業經濟の爲に努力しようといふ方もあります。が兎に角諸君は我が日本の國の生命を一層發展せしめ、日本の民族性といふものを、何處迄も高唱しなければならぬ使命を有つて居るのでありますから、どうぞ諸君は此日本の現状といふものを能く把握し、認識して頂きたいと思ふ。露骨に言へば、其人が國務大臣になる、重役になる、社長になるといふやうなことは、是は其人

官公署員たらんとする人へ

六一

の色々な客觀的の條件に依ることもありまして、必ずしも凡ての人に之を要求すべきものでもない。けれども、吾々が一市民としてでも、一國民としてでも、如何なる仕事に就いて居つても、此國の今日の情勢といふものを能く把握して、全力を擧げて、舉國一致の努力をするならば、斯ういふ難局を打破して行くといふことも、決して難事ではないと思ふ。又如何にしてもその難局を乗越えて行かなければならぬと思ふのであります。

成るほど就職戦線も中々難しいことは難かしい。しかし乍ら私は、日本の將來を老いたる人に望むのではなく、緑なる若い諸君に大きな期待を有つてあります。其意味に於て、先づ自己の資質の何處にあるかといふことを能く反省されて、國民民福の爲め、諸君が最善の努力を致されたいといふことを熱望して已まぬのであります。

(昭和九年十一月十日 日本大學講堂に於て)

法務従事員たらんとする人へ

辯護士法學博士 鳩山秀夫

こゝていふ法務従事員とは判檢事辯護士の意味——法務員たるについての一般的な注意——
—常に法律を頭の中へ入れておく——それには三つの段階がある——記憶を強める爲に自分で書いて見る——條文の規定する理由を考へて理解する——法律的頭腦を養ふ——國家試験受験の注意——筆記試験について——口述試験について——就職後の注意——辯護士としては依頼人に泥を吐かせよ、又依頼人を保護する批評家たれ——判檢事は國家的見地から判断する——法律學に天才なし

法務従事員といふことは、一體どういふ意味であるか、若し私が國家試験を受ける積りで之に答案を書くとしますと、「抑々法務従事員とは何ぞや」といふことからやらなければならぬのであります。法務に従事して居る者に、法律を作る者もありますし、法律を適用する者もありますし、法律を實施する者もあるのであります。其實施する者から言ひますと、司法警察に當つて居る巡査もそれに包含せらるゝのであります。が巡査になる心得を私に話せといふではありませんまい。又法律を作る者を考へて見ますと法制局參事官、臨時法制審議會の委員、衆議院議員、貴族院議員、樞密顧問官なども所謂立法に參與する者であります。之等の者になる心得を諸君に御話しせよといふ趣旨でもありますまい。刑務所で典獄をやつたり、看守をす

法務従事員たらんとする人へ

こゝていふ
法務従事員
とは判檢事
辯護士の意
味

るのも、是亦法律を實施する者であります。出題者の法務従事員といふのは之等の者を意味するのであります。それでもあ出題者の意味を忖度して、判檢事、辯護士になるにはどんな心掛が要るか、といふやうな意味に解釋して、御話をしたいと思ふのであります。

それで、此「法務従事員たらんとする人へ」といふのでありますが、これは法務従事員たる資格を取得する迄に考へて居なければならぬこと、資格を取得した後に考へなければならぬこと、此二つに分類が出来ようかと思ふのであります。先づ資格を取得する前と、資格を取得した後と、兩方を併せて、一般的なことを少しく申し上げたいと思ふのであります。

能く法律方面に秀才があるとか、天才があるとかいふことを言ひますけれども、それは全く間違であると思ひます。文學の方面に於ては、生れついた才能に依りまして、何も研究しないでも、立派な創作が出来るかも知れぬのでありますけれども、法律に於きましては、如何なる法律を作るかといふ方面に於ては、或は創作的なこともありませうが、法律を適用し、實施する方面に於ては、現行の法律を知つて居らなければならぬのであります。頭の中に、此社會情勢には斯ういふ風な法律を作つたら宜からうといふやうなことを考へて居つても、法律の適用實施は出来ないであります。でありますから、六法全書の如きは始終携帯して居らなければならぬのであります。

法律を始終頭の中に入れて居る爲に、必要な段階が三つあるのであります。第一は記憶であります。第二は理解であります。第三は法律的の頭腦であります。

先づ記憶に於て、或問題が起つた場合に、此邊に多分規定があるだらうといふことが、分つて居なければ

法務員たる
についての
一般的な注
意

常に法律を
頭の中に入
れておく

それには三
つの段階が
ある

記憶を強め
る爲に自分
で書つて見
る

いかぬのであります。條文を何か都々逸にして覺えたといふ人もありますけれども、さういふことは必要はない。さういふことは必要ありませんけれども、例へば債權讓渡の規定はどの邊にあるかといふことを覺えて居なければならぬ。辨濟の規定は四百七十四條にある、と斯うキチツと覺えて居なくても宜しいけれども此邊にあるといふことだけは覺えて居なければいかぬ。そこで記憶を養ふ爲にどういふことをやつたらいか。私の經驗から申し上げますと、これは自分で書かなければいかぬ。講義の聽つ放し、著書の讀みつ放しではいかぬ。自分で書く。例へば民法總論といふものに就て、自分が著作をする積りで、講義を聴き、著書を讀んで、自分で書いて見る。法人の本質はどうであるか、法人の不法行爲はどうであるか、といふやうなことを、自分が著述をする積りで書いて見る。書くとの確に頭に入る。私は大學に居る間から書いて居つたんですけれども、それが必要であると私は思ふのであります。若し時間が許さぬならば、サブノートを作る。サブノートを作つて、サブノートを見て、さうして還元して見る。極く簡単に書いたやつを見て、頭にもつと詳しいことを、先生が何を言つたか、著書に何が書いてあつたかといふことを、還元して考へて見る。是非それは諸君に御勧めするのであります。自分で自分の頭を作る意味に於て、書いて見なくちゃいかぬ。これが私は記憶の爲に一番必要だと思ふのであります。

其次には理解といふことであります。唯記憶をしてもまだ足りない。例へば民法四百六十七條、四百六十八條の債權讓渡の規定に於て、何が故に債權の讓渡の通知又は承諾といふことを以て對抗要件としたかといふ、此何が故にといふこと、所謂「WARUM?」「WHY?」といふことを考へて行かなければいかぬ。それは債權に付ては、不動産のやうな公示方法もなく、又動産のやうに引渡といふ方法もないのであります。で

條文の規定
する理由を
考へて理解
する

ありますから、債権の差押へをしようとか、債権を譲受けようとかいふ人は、債務者の所へ行つて、お前實際斯ういふ債務を負担して居るかといふことを聞くであります。聞かなければ不安でありますから。そこで債権の譲渡があつたといふことを、債務者をして知らしめねばならぬといふことの爲に、債権譲渡の通知、又は債務者の債権譲渡に對する承諾といふことが、對抗要件になるのであります。更に一步を進めますれば、其譲渡を通知する人は、譲渡人といふことになつて居ります。何故譲受人ではいかぬか。譲渡人の方は、自分が権利を失ふのでありますから、譲渡しない中に、通知なんかをする理由はありませぬけれども、譲渡を受けた方は、自分が利益になるのですから、そこで利益になる者の通知では安心が出来ないといふことになるのであります。總ての規定に付きまして、何が故に斯ういふ規定があるのかといふことを考へなければならぬ。それが私の言ふ理解であります。理解と言ふか、了解と言ふか、どちらでもいふですけども、詰り「WARUM?」何が故に斯ういふ規定があるかといふことを考へねばならぬ。

其上にも一つ必要なことは、法律的頭腦を養つて、其法律に規定のない問題を解釋するといふことでもあります。例へば、關西の大風水害に付きましても、或は奥羽地方の冷害に付きましても、三井とか、三菱とか、或は其他の會社が寄附をする。これは法人であります。營利會社であります。これが法人として寄附するといふことは、法人の目的の範圍内に屬するや否や、といふ問題があります。唯人に物を呉れてやることは、營利の目的にはならぬと、まあ一應はさう考へられるのであります。併しながら、吾々の考へて居ります法人本質論から言ひますれば、法人も一つの社會人であります。一つの社會人であるならば、社會的地位といふものを高めるといふことは、即ち法人の事業の爲に必要なことであつて、又必要でなくとも、少く

法律的頭腦を養ふ

とも有益なることであります。茲で法人の三井なり、三菱なりの地位を高める爲に、社會人として寄附することは、さういふ法人の目的の範圍内に屬するものだと私は思つて居るのであります。即ちさういふのが、詰り法律的頭腦なのであります。法律に何等の規定はないのでありますけれども、法人の目的に反せざる範圍に於て、而して法人の事業遂行に有益なる範圍に於ては、寄附も宜しい。一時的の損は構はぬといふやうに考へるやうに頭を養ふのであります。

例へば又諸君御承知の民法百九十二條(平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス)の問題に付きましても、諸君はどういふ風に習つて居られるか知りませぬけれども、私は動産の占有者から譲受けた場合に付てのみ、此規定の適用ありと解して居るのであります。例へば相手方が無能力者であるのを、能力者であると思つて、動産の所有權の移轉を受けたといふやうな善意の内容では適用がない、といふやうに解して居るのであります。

諸君はまだ御覽下さらぬだらうと思ひますが、「不動産物權の得喪變更に關する公信主義と公示主義」といふことを、私論文で書いて居りますが、動産に付ては、一部の公信主義といふものを認めて居るのであります。不動産に付きましても、私はもう公信主義を認めて欲しいといふ議論を書いて居るのでありますけれども、まだ認めて居らぬのであります。辯護士になりましてから、度々色々勸業銀行なんかから問題が起つて居りますけれども、登記簿上不動産の所有者なりと登記されて居る者に、それを擔保にして勸業銀行が金を貸す。所が實はそれは不動産の所有權者ぢやなかつた。登記簿を信じて金を貸したのだが、抵當權がないといふことになるのであります。これは甚だ不當だと思つて居るのでありますけれども、併し今俄かに改正は

出来ぬであります。登記官吏といふものは、實質的に調査をしないのでありますから、その方の改正を同時にせねばこれは出来ぬであります。動産に付ては、自分の持つて居る物を、占有して居る物を、これは俺の物だと言つて人に賣つた場合には、百九十二條で以て保護されるといふことになつて居る。それだけの規定でありますから、無能力者を能力者だと信じたとか、無権代理人を代理権ありと信じたといふやうな場合には、百九十二條は適用がないといふことになるのであります。これは理解の方面か、或は法律的頭腦の方面か、一寸限界が不明でありますけれども、兎に角何が故に斯ういふ規定が出来て居るかといふことを考へて、さうして研究をせられることを希望するのであります。

それから今度は國家試験を受けられるといふことに付ての注意を一言申し上げます。一樣總ての方面に付て研究が盡きましたならば、私のやりました方法から申し上げますれば、過去數年來の試験問題に付て、答案を書いて見るのであります。數人寄合つて、お互に答案を書いて見て——私は穂積、石黒などと一緒にやつて居つたのであります。——さうして見合ふのであります。それから後で寄つて、今度は又お互に評論し合ふのであります。それは筆記試験であります。口述試験の方に付ては、私は教へたことがある。三年も筆記試験を通つて居て、口述試験でどうしても落第するといふ人があつた。それで私は其人に言つたのですが、あなたは口述試験の時に、試験官から口頭で試問を受けたならば、直ぐ答へようとするから悪い。其處に六法全書が出て居るのだから兎に角六法全書を手に取つて、此問題は此邊の問題だといふことが分るやうになつて居れば、其處を見れば何でもないのである。具體的な例を擧げて申上げれば、京都の中島教授が斯ういふ問題を出した。

國家試験受
験の注意

筆記試験に
ついで

口述試験に
ついで

夫の留守中に米屋が米代を取りに來た。所が家には金がなかつた。幸ひ此處に額が一つ懸つて居る。それは夫の所有の物であるが、細君が其額を外づして、質屋に持つて行つて、質屋から金を借りて、さうして米代を拂つた。此行爲はどうか。

といふのです。此場合「日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス」といふ規定を知らない者が大分多い。米代を拂ふといふのは日常の家事である。此日常の家事に付て、妻が米代を拂ふといふ動機の下に、質權の設定行爲をした、これはどうか、といふ問題になる譯です。兎に角「日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス」といふことだけを知つて居つても、これはパスします。質權の設定に付ては、民法百九十二條が準用になつて居るのであります。詰り妻が占有して、これは私の物だと言つてやつたといふならば、向ふは質權を取得するのであります。さういふ實例もあるのであります。

又もう一つ笑ひ話として申し上げますけれども、二上兵治といふ人が——今行政裁判所の長官をして居りますが——私と一緒に試験委員をして居つた。二上君が言ふのに、私が或時青山の墓地を散歩して居つて、ある尊敬する先輩の墓へ花を持つて行つて供へた。所が花を供へてこつちへ歸つて來ると、乞食がそれを見て居つて、其花を盗んだ。此乞食は一體誰のどういふ權利を侵害したか。花を供へたのは贈與の意思であらうが、これは民法の五百四十九條(贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フ)で契約である。相手方が何時承諾の意思を表示して居るか。さうすると墓の所有者の花を盗んだのではなからうといふ譯ですが、二上君の要求して居る答は實は奇抜なのです。詰り丁度郵便受取函を出して置いて、郵便物を入れると、此處に郵便物を入れて呉れといふ申込を先にやつて居るのだから、郵便物を入れた時に契約が成立すると同じやうに、

墓を開放して居る以上は、花を呉れ〜といふ申込をして居るのだから、それで花を入れた時に、それだけで契約が成立するのだ、といふことを要求して居るのでした。

就職後の注意
辯護士としては依頼人に泥を吐かせよ、又依頼人を保護する批評家たれ

判検事は國家的見地から判断する
法律學に天才なし

話は違ひますけれども、今度は就職した後のことを一言申し上げたい。例へば辯護士になると、判検事になるのは違ふのです。辯護士になる爲には、一番必要なことは、依頼人をして泥も何も皆吐かせるといふことでもあります。大抵の人は自分の良いことばかり言つて、缺點を言はぬのです。それで事件をやつて行くつて、向ふから變な證書などが出て來て困ることがあります。私は辯護士になつた時に、原嘉道先生の所へ行つて、どういふことが必要であるかと聞いたならば、先づ第一に必要なことは依頼人をして泥を吐かさなければならぬといふことを言はれたのでありますが、私もそれを體驗して居る。實に困ることがあるのです。又辯護士としては、一つの批評家といふ立場にあつて、而も依頼人を保護する批評家といふやうな考が必要であります。事實關係の全貌を見なければ批評も保護も出來ないのです。判検事は勿論批評家ですが依頼人を保護するものではない、個人的利害關係はない、唯國家的見地に立つて判断すれば宜しいのである。

最後に諸君に一番熱望しますことは、法律の學問といふものは、先程申しましたやうに、天才とか秀才とかいふ者はないのだ、勉強しなければならぬのだ、努力しなければならぬのだといふことでもあります。新しい判例、新しい學説は常にこれを研究するは勿論、社會萬般の事象に互つて常に注意を怠らず修養を深めることが必要だと思ひます。

(昭和九年十一月十日 日本大學講堂に於て)

銀行信託其他金融會社員たらんとする人へ

第一銀行取締役 佐々木修二郎

銀行で最も重要なものは何か——銀行は信用の上に存立する——どうして信用を築き上げるか——永い間に信頼を積み重ねて行く——永い間の信用を現在も盛り立て、行く——營利會社ではあるが多分に公益性を帯びてゐる——銀行國營論——どの産業でも援助せればならぬといふ譯ではない——どういふ人を要求してゐるか——誠意正心の人——著實性の人——常識の發達した人——協同的精神に富む人——理性的な人——不斷の努力家——健康な體が必要——就職戰術の説明は有害無益——銀行に入つて金儲けは出來ぬ

與へられました演題には「銀行信託其他金融會社員たらんとする人へ」とあります。矢張り私が銀行に籍を置きますものですから勢ひ銀行の話だけに付て申上げるやうなことになります。信託其他金融業のことは方面は同じと申すものゝ其方のことは餘りよく存じませぬから、先づ銀行のことを主として申上げることになりませんが、それは御容赦を願ひたく存じます。

順序として先づ銀行とはどう云ふものであるかと云ふことから申上げるのが本當でありますけれども、非常に長くなりますから、皆様は殆ど銀行の何ものたるかは御存知であると解釋して話を進めたいと思ひます。通俗の意味に於ての銀行はどう云ふものか、又何う云ふ仕事を爲すものであるかは、大體御存知だらうと思

銀行信託其他金融會社員たらんとする人へ

ひます。そこで銀行では何に一番重點を置くかと云ふことを先づ第一に申し上げたいと思ひます。

銀行で最も重要なものは何か

凡そ物事何に依らず、ものには中心と云ふものがあります、即ち顛語めて見てもこれだけはなくてはならぬといふ部分がある譯です。それはどう云ふものであるかと言ひますと、詰り不要な部分を段々省いて行きますと斯う云ふ點だけはどうしてもなくてはならぬと云ふものが残ります。例へば畫龍點睛で畫も生きる様なものです。國家でもさうです、普通の家でもさうです、段々省いて入用でないものは切捨て、しまつて、此點だけは必ずなくてはならぬと云ふものが凡てのものにあります。そこで其重要なポイント、即ち銀行では何が最重要かと云ふことを先づ考へて見ますと、銀行に於ては一番重要なのが信用と云ふことです。

銀行は信用の上に存立する

それで信用と云ふことはどう云ふ意味であるかと云ふことを考へて見なければなりません。皆さんも大抵信用と云ふことを言へば常識でもつて分ることと思ひますが、其程度の解釋で充分と思はれます。尤も段々深く考へて見ると云ふとどう云ふものか解つた様な解らぬ様なことになります。然し之をむづかしく學問的に申上げる必要もないと思ひます。皆さんが御分りになる程度で、常識で信用と考へておるでになる程度で宜いと思ひます。どうもあの男は信用が出来る男だ、彼奴はどうも信用が出来ないと云ふ意味の信用で結構であります。結局信用と云ふのは裏から言ひますと疑ふ必要のないと云ふことなのです。ものごとは疑つて見れば總て色々限りがない。だから人と言へば疑ふ必要のない人は詰り頼りになる人であります。即ち信用のある人であります。よく話に聞きますが市井無頼の徒の中にも仁義とか言ふものがあつて、矢張り仲間の約束に外れたり仲間の情誼を裏切ると云ふと仲間外れになると云ふやうな話を聞いて居ります。さう云ふ連

中でも矢張り信用と云ふものが相當重んじられて居る。個人でも勿論重んじられて居る譯です。銀行では殊に信用が一番の中心點であります。我國の銀行で數億の預金を有つて居るのが數多くありますが、其基礎は何處にあるかと云ふと矢張り信用があるからであります。皆さん公衆の方が信用して居るから其處に預金をすると云ふことになつて斯かる老大的預金を擁して居るのも世人の信用の賜と言つても宜い譯です。さう云ふ意味から言つて普通の他の仕事と違つて銀行は殊に信用が中心をなす譯です。それですから信用が破壊されますと結局銀行の存立が出来なくなります、個人の場合ではどうもあの男は信用は置けないけれども中々腕があつて間に合ふからまあ使つて置けと云ふものもあるやうでありますが、銀行の場合はさういふ譯にいかない。信用を疑はれたら結局存立の價値がなくなる譯です。さう云ふ譯で銀行業の中心は信用にあるわけです。即ち信用が絶對的に必要になります。

さてそれではどうしてその銀行業の中心の信用と云ふものを築き上げるか、出来上がるかと云ふことを申さなければなりません。其道筋を考へますと相當長い間相手方に對して築上げた無形の觀念がなければなりません。例へば個人で云つても約束を守つたりなんかするのが十遍あつたからもう信用が出来たと云ふのぢやなくして、何遍だか判らぬが長年の行爲で信頼出来る疑ふ必要がないと云ふ譯で積り積つてやつと其個人の無形の財産が出来る譯です。それと同じ様に銀行でも永年積み上げて行かなければ信用と云ふものは築かれない譯です。即ち世人より受くる永年の信頼の積み重ねられたものであります。丁度例へば樹木で言つても種子を蒔いて毎日々々注意して水を宜く注ぎ、陽にも宜く當て、それから風に折れないやうにもし、故障のないやうにして段々出来上つて、やつと相當な樹木になるので、夫迄には日々の細密の注意と熱心がなければ

どうして信用を築き上げるか

永い間に信頼を積み重ねて行く

ば育たぬ譯です。さう云ふやうに木なんかでも永年かかつて漸く出来上ると同じに、信用は殊に無形のものでありますから、永年かゝらなければ矢張り出来上らないものです。それですから中々容易な譯ではない。結局さう云ふ風に築き上げましたのですから、信用ある銀行は何處でも銘々それく永い歴史とか永い傳統を有つて居ります。而してさう云ふものをお互に皆尊重して居る譯です。いきなり資本金を募集して店を作つて人を雇入れても形式的の銀行は成立ちますが、本當の意味の信用ある銀行は成立たない譯です。唯銀行が出来たと云ふだけで世人も恐らく信用はしないだらうと思ひます。斯う云ふ意味で銀行業と云ふものは他の製造工業と大いに違ふ譯です。外の製造工業になりますと良い機械を据ゑ、優秀な工場を有ち、良い技師が居りまして製品の良いのを作ると割合に前からの有力會社と相當競争して行ける譯です。即ち新米の會社でも製品如何で充分匹敵して行ける譯です。此意味に於て銀行信託とかさう云ふ信用を基礎として居るものは他の製造工業と稍々異なつて居る所があります。大體銀行業なんかは一番肝腎な所が信用と云ふ事にある。斯う云ふ人的要素が非常に大きいと云ふことは一つ宜く御考へ置きを願ひたいと思ひます。

永い間の信用を現在も盛り立て、行く

それで今申上げました通り信用は段々過去の永い間に築き上げたものでありますが、永い間に築き上げたからもうそれで宜いと云ふ譯のものでなく、矢張り之を現在も盛り立てて行く人がなければいけません。詰り現在銀行を形成して居る人が宜く其信用が重點であると云ふことを理解して永い間の信用を毀損しないやうにし、さうして傳統的の信用を益々發揮すると云ふことが必要で、矢張り現在の人が信用を得て居りますれば永い間の過去の信用も其處に光が殖えて来る、又一般の人も益々信用して行く譯です。さう云ふ譯で、銀行業は御承知の通り矢張り法人ですから永遠の生命がありますが、中に入つて經營して居る人は一定の年齢



が來れば段々變つて行く譯です、従つてさう云ふ方面に新しい人が年々御入りになる譯です。皆さん方の如くさう云ふ方面を希望されて居る方は、銀行と云ふものは何處に重點を置いて居るのだと云ふことを御考へ置きにならぬと、畢竟さう云ふ法人でも個人でも其信用を毀損して居るやうな人が澤山入つて來ると、過去とか現在の信用が段々傷けられる、傷けられれば段々信用が薄くなる、薄くなれば銀行の生命たるものに缺點が出来ると云ふ結果になる譯です。斯う云ふ意味で銀行に御入りになる方は相當自分で考へて、どう云ふ所が重點であるかを噛み分けて、自分も矢張り人から信頼を受けなくちゃならないものだな、と云ふことを考へて頂かなければならぬのであります。

それから銀行の職分も既に御承知の事と存じますが、ちよつと誤解があるといけませんから附加へて置きたいことがあります。それは大體銀行と云ふのは御承知の通り株式組織のもので私經濟的の營利會社として經營されて居ります。然し營利會社ですけれども多分に公共的色彩を帯びて居ると云ふことです。銀行は銀行法に云ふ様に預金と貸出と爲替と云ふやうなことをやり、世人の便益を計る譯ですけれども、貸出をする場合に矢張り貸した結果が産業に裨益しなければならぬ譯なのであります。其點が矢張り高利貸なんかと違つてたゞ安全だからよい、と云ふ譯でなく、貸金をなし若くは投資した結果が日本の産業に裨益しなければならぬ譯です。さう云ふ使命がありますので、公共的色彩も多分に有つて居ります。丁度瓦斯とか電氣とか水道其他交通業なんかと同じやうなものでありますから、營利會社でありますけれども、自分の都合で利益にならぬから廢めてしまふ、或は公衆の利益に反しても是は構はないからやらうぢやないかと云ふやうな譯にはいかなぬものであります。ですから矢張り公衆の利益に反したり、國家の利害に背いて私利を

營利會社ではあるが多分に公共性を帯びてゐる

圖ると云ふことは出来ない譯です。是は誰でも銀行の何物たるかを知つて居れば判りきつた様なものゝ、營業の自由と云ふ考へ方が強い時には上記の考も曇ることがありますので、誤解があるといけませんから附加へて置く譯であります。

それで公共的色彩が多分にある爲に公共團體でやるとか、或は中には銀行業は國營にしたらどうかと云ふ議論も出て來ます。伊太利などは國營ぢやないのですけれども、國家の權力が相當銀行にも及んで居ります。最近の獨逸ではやはり相當國權の壓迫があるやうです。フアツシヨ的傾向のある所ですと矢張り産業上の統制を取る爲にさう云ふ必要もあるのではせう。其外英國なんかに於ても労働黨の方で銀行國營論なんかが出て居ります。さう云ふ譯で理窟としては各國にさう云ふ説がある爲に、日本でも最近、ちらほらそんなことを眞似て、議論をして居る人があるやうですが、是は直ちに移し植ゑられる議論か何うか、餘程考へなければなりません。全般的に云へば金融組織も漸次多少統制をうくる傾向にありますが大體斯う云ふ金融組織なんか矢張り社會制度と關聯が深いものですから、必ずしも向うでやつたことが宜いと云ふ譯のものでない、此日本の社會制度に宜く適合しないといけません。机上論としては兎も角實際ではさう云ふ場合を考へて見ても、いざ實行問題となると中々相當考慮を要する話ぢやないかと思ひます。唯さう云ふ説がちらほらあるので或は雜誌なんか御覽になつて良い説だなと直ぐに御考へになる方があると思ひますから一言附け加へて置きます。結局はそれに關係して居る人の心構へが必要で、公共團體でやつたから宜いのだ、國家がやつたから宜いのだと云ふ譯でなく、何の機關でやつても之に携つて居る人の心構への如何によるのが非常に大きいと思ふ。決して營利會社でやつたからと言つて公衆の利益を圖らぬ、産業に裨益しないと云ふもの

ぢやないと思ひます。銀行では公衆の大切な金を預金として確實に管理しておくことが一の重大な任務でありまして、これを確實にする爲には資金の貸出並に投資に注意を要するは勿論であります。之により産業の發達に貢獻する處がなければなりません。

さう云ふ譯で國家の産業に裨益すると云ふ使命がありますけれども、さうだからと言つて産業ならばどんなものでも援助して宜いかと云ふとさうは行きませぬ、又將來發達しない産業まで援助しなければならぬかどうか銀行としては出來かねるのは當然であります。即ち銀行は一方にさう云ふ使命がありましたも多少の制限を受けて居る譯です。蓋しかゝる事を考慮せずして執り行ふことは眞の使命を果さぬ結果になります。加之銀行として貸出して宜しくないものを貸しては肝腎な信用を毀損するやうな結果になります。さすれば是は却つて公衆に大きな害をなすことになりません。さう云ふ點で制限を多少受けて居るやうに思ひます。よく地方の預金は必ず其地方の産業の爲に貸出すべしと云ふ説を聞きますが、根本が判ればかゝる説が成立つか否か自ら御判りだと思はれます。さう云ふ譯で銀行の中心觀念がどう云ふものか、それから銀行の職能として公共的色彩をどう云ふ風に有つて居るか云ふことが御分りになれば、銀行がどんなことをするか、色々細かいことを諄々述べなくても、是から例へば銀行に行かうと云ふやうに御考へになる方は、心構へとしてどう云ふことが必要なかと云ふことも、一番重點を御話したのですから薄々御分りになりやしないかと思ひます。

是から皆さんが御考へになつて希望して居らるゝやうな具體的な御話になりますけれども、結局銀行ではどう云ふ人を要求して居るか——或は是は私の考へですから私は斯う思ひますと申上げた方が宜いでせう——

銀行信託其他金融會社員たらんとする人へ

どの産業でも援助せねばならぬといふ譯ではない

どういふ人を要求してゐるか

—どう云ふ人を要求して居るか云ふことを申し上げますれば、要求して居る所に自分の性能が向いて居るか向かないかを考へて、御判断になつたら宜いかと思ひます。大體社會全般が組織だつて來たものですから、矢張り銀行業なんかも相當組織立つて參りました。唯多くの人數が雜然と居る譯でなくて、寧ろ有機體と言ひますか、さう云ふ組織體を爲して居ります。ですからそれに御入りにならうとする方は、さう云ふ組織體の組成分子の一つになる譯ですから、それにはさう云ふ分子としてはどう云ふことを銀行では要求して居るか云ふことを申し上げなければならぬことになるのです。

誠意正心の
人

そこで前に申した通り銀行は信用が重點でありますから、先づ第一に信用を傷けない、寧ろ信用を高むるやうな人が必要な譯です。個人で言へば友達間で最も信頼の出来る人でなければならぬ。信用の出来る人と云ふのはどう云ふ人かと申しますと、矢張り心持の正しい誠實な人でなければならぬと思ひます。銀行では特に斯かる人を要求して居ります。此心持の正しいと云ふのは正心、即ち「大學」の中に誠意正心——意を誠にし、心を正しうす——と云ふのがありますがその正心です。「大學」にも書いてある通りそれが擴がつて行けば修身齊家治國平天下にまで至る根本であります。私は數年來人事の方にも關係して居りますが、よく地方の甲種商業の先生方が見えまして、自分の方では算盤を學生に特にやらして居ります、或は電話の掛方まで稽古として居りますとか、特に字の方をやらして居りますとか、かゝる特技に重點を置かれて話される事がありますがそれは勿論字でも下手なのよりうまい方が宜いし、電話の掛方でも感じの悪いのより相手に良く響く方が宜しく、算盤も無論うまい方が宜いのですが、それに重點を置くよりも、私は何時でも、私達の銀行では別にさう云ふことを望んで居ない、心持の正しい人を送つて貰ひたいと云ふことを申して居るの

であります。結局一番心持の正しい方即ち、誠意正心の方を望んで居るのであります。さう云ふ譯で矢張り根本は其處にあるのぢやないかと思ひます。決して特技を排斥する譯ではないのですが、末の方よりも本の方を重く見て居る譯であります。

着實性の人

また銀行の仕事と云ふのは大體が非常に地味な仕事で、派手やかでないものなのですから、着實性の人を要求して居る譯です。着實の人でない、ある仕事を頼んでそれでやつて、呉れるかと思ふとやつてなかつたり、氣が向いたらさつとやつてしまふこともあるが、後はやらないと云ふのは假令能率があがつても銀行業には向かない様に思ひます。よく學生の方で頭が良いとか何とか云ふ人にさう云ふ方があります。やり出すとさつとやつて後は氣が向かなければやらぬ、それでも學校は良い成績が取れるかも知れないが、銀行には向きませぬ。而して着實性のある人は矢張り責任を重んずることになる譯です。ですから銀行なんかではさう云ふ人には信頼が出来ません。信頼が出来れば其人に段々總て用を頼んで行くと云ふことになりません。且責任を重んずると云ふと自分の本分を宜く盡す譯です。今の世相を見ますとどうも相當權利を主張することは皆さんやるやうですが、義務を履行すると云ふことがそれに正比例しないと云ふことも宜くあるやうですから、さう云ふ時代では殊に本分を盡すと云ふことは非常に必要なことになるのぢやないかと思ひます。結局之は性格から來るのですが、着實な人は責任觀念も強くて、従つて本分も盡す人と言ひ得る譯であります。

本分を盡すと云ふことで斯う云ふことがありました。震災の少し前に、私がロンドンに居りました時の話ですが、向うの或る銀行ですけれども守衛で非常に宜く義務を果す人がある、本分を盡して非常に優秀なんです、それでその人を行員に取立てたらどうかと云ふことの話があつて、其事を其守衛に話しますと其人は

銀行信託其他金融會社員たらんとする人へ

非常な不満な顔をして、何か私がやり損ひでもしたのですかと云ふことで、いやさうぢやない、非常に勉強して宜く本分を盡して呉れるから行員に取立てようと思ふと云ふ話をしたら、それは以ての外で、自分は守衛である爲に本分が盡せるのですが、行員となつて果して本分が盡せるかどうか疑しい、矢張り元の儘に置いて貰つて本分を盡す方が私には仕合だと言つたと云ふ話があります。是はまあ人生觀が日本人とちよつと違ふ所がありますからいきなりこつちへ移しては言へませぬけれども、さう云ふ考へ方の人ばかり集つて居ると非常に宜いのですけれども、兎に角日本の人の多くは自分のことよりも他人のことが餘り氣になり過ぎるものですから、上だの横ばかり見て居るから足許がふらついて居ります。今の時勢もさう云ふ人が多いうに思ひますけれども、さう云ふ人には此英國で聞いた話の本分を盡すと云ふことなんかは、最も必要な考へ方ぢやないかと思ひます。

扱て、今御聴きになつてゐらつしやると、着實な人を銀行の方では非常に要求して居るやうだけれども、着實ならば能力がなくても宜いのかどうかと云ふことを直ぐ考へられるだらうと思ひます。無能だつて着實ならば宜いのださうだ、直ぐに左様に理解する人があるかもしれないませんが、さうぢやないのです。さう考へるのは常識がどうかと思ふ。勿論相當の能力を有つと云ふのは當然の話です。それでさう云ふ信頼出来る人でも、もう一つは組織の中に入るのですから組織を隆盛に赴かせるやうな性格を有つて居ないといけない譯です。此處で詰り相當な能力が必要になる譯です。組織の一員になりますと矢張り組織を發展させなければならぬ。其能力と言つても或る特殊の技能が勝れて居なくても宜いのです、大體常識があれば宜い譯です。常識と云ふことは別に説明しなくても宜いと思ひますが、常識の現れはリーゾナブルな判断となります。銀

常識の發達した人

行の仕事が矢張り商工業各般の仕事に關係して居るものですから、判断する場合に或る特殊のものに非常に性能が勝れて居つた所で矢張り銀行に向くとは言へないので、萬般の知能が多少あつてリーゾナブルな判断をする人ならば宜い譯です。

常識につき極く卑近な例を申上げれば、例へば銀行の窓口が斯うあります。預金なり爲替なり割引なりあつて、假りに爲替の送金を組まうと云ふお客が預金の窓に来るとします。其時ははこちらぢやありませんと断つてしまふ。それはお客の方が其處に持つて行つたのが悪いからこちらぢやないと言つたのも理窟から言へば宜いでせう、けれどもそれだけでは常識がないとも云へます。矢張り是は預金の仕事でありませぬけれども、是は爲替の仕事ですから爲替の斯う云ふ窓(何番)へお持ちなさいと云ふ所まで行かなければいけません。それから斯う云ふこともあり得る譯です。假りに私の處へ佐々木修二郎と云ふ手紙が参りましたとします。其場合に「本人當行に心當り之なし」で假りに其手紙を返したとします。それは實際佐々木と云ふ人は形式的に言へば居なかつたでせうけれども、或はひよつとして一字の違ひですから私の所に來た手紙でないかどうかと判断を仰ぐ方が常識的だと思ひます。斯う云ふ人間は當行に居ないと言つて返すのは決して間違つて居ないことであるが、それは常識がないと言ひ得ると思ひます。さう云ふやうなもので、簡単なものでも矢張りちよつとした常識が銀行では必要だらうと思ひます。

それで詰りさう云ふ能力があつて、今度は其組織を伸ばして行くのにはどう云ふことが必要であるかと申しますと、銀行の仕事と云ふものは各事務が關聯して居りますから、自分だけでやれることが少ないものですから、協調的な精神がない人はいけない譯です。宜く學生なんかで相當な勉強家で、獨善的な人がありま

協調的精神に富む人

す。自分は自分で、コッ、コッ、勉強して成績は宜い、宜いけれどもさう云ふ獨善的な人は必ず銀行へ行つて宜いかどうかは分りませぬ。自分に與へられた仕事だけやつても、その餘力が出来れば他人の助けをする、協調的にやつて行く、詰りベースボールとかラグビーのチームワークみたいなものです。銀行の仕事は皆でやつて行く仕事ですから、組織の中に入つて行くと殊にさう云ふ譯で自分一人でやつて行くものでないのですから、自分一人でやつて行く、自分のことばかりしか考へないで詰り自己本位でやつて行くやうな人は、結局銀行には向かないと思ひます。銀行家ばかりでない、組織體には向かないと思ひます。自分のことばかり考へて居る人は組織の發達を助けなければなりなく、却つてその發達を妨げて居る譯です。それは何故かと云ふと、組織が動いて居る方に逆な力を致して居る譯だからであります。碁で例を擧げると宜く分りますが、碁でも平凡な手を打つても互に連絡して居る手を打つて居ると結局非常に効果が擧る譯です。所が時に名手を打つ事があつても、續いて之に連絡する手を打たなければ名手の効果がないのみでなく、其名手が却て局面全體を悪くする場合があります。下手の碁打がやると連絡のない手を打つて、大抵效力を殺いで名手が悪手になる譯です。詰り連絡のない手がいかぬと同じに連絡のない仕事振り、詰り協調的でない人、それから殊に自己本位の人と云ふのは矢張り銀行みたいにならなれないのぢやないかと思ひます。詰り十の力が十人集つて百になる譯ですが、同じ方向に向つて連絡が付いて居れば百プラス・アルファになる譯です、それが一人十五の力があつて、九人が十の力で同じ方向を向いて居る所に十五の力ある一人が逆の力を働かして居るとしますれば効果を薄める事は説明する迄もない事であります。此點は學生生活をしてゐらつしやる方は多少考へて戴かないといけないと思ひます。昔私達の學生時分にもありました、現在でもよく

あるでせうが、今日の講義は面白くないから止めて歸るといふ様な人があります。そんな人もノートを友人から借りて宜く勉強すれば宜い點は取れますが、學生時代はそれで過して來られても、いざ社會に出て組織の中に入るとそれでは困るのであります。さう云ふ譯で、假りに成績だけで云ふと良くて、今申上げたやうに、他に影響を及ぼします前述の様な精神のない人はいけない譯であります。

斯う云ふ譯で、組織の一員となると斯う云ふ素質が必要だと云ふことが御分りになると思ひます。それから餘り感情的な人もどうかと思ひます。良き感情の持主は勿論宜いのでありますけれども、例へば餘り氣の毒だとか言つて感情にほだされて危なつかしい貸出をすると云ふやうなことは勿論、なに俺が一肌ぬいてやると云ふやうなものも考へるものです、一肌ぬいて貰つた方は仕合であります、ぬがれた結果が銀行に取つては甚だ困ることもあります。さう云ふ心の持主でない方が宜いかと思ひます。

それから是は銀行で要求して居る方の人になります、矢張り不斷の努力家を必要とします。それは矢張り銀行みたいにならなれない大組織を永遠に傳へて行く、即ち生かして行く意味に於て必要とするのであります。學生時分には随分勉強したけれどもが入行してしまつたら勉強しないと云ふ人では困るのであります。さう云ふ人もあります。固い本を読むと眠くなると云ふ譯であります、學窓から社會に出られた人は大抵の人は學校で勉強の癖が付いて居るから入りたてに勉強しないと取残されるやうに思つて勉強を無理にやります、生活が變る爲に疲れる、疲れても勉強しないと取残されると思つて勉強する、中には身心を壊す人も出來ます、所がさう云ふ人がいつとはなしに勉強癖を放棄して、三年目位になると云ふと固い本を読むと眠くなる連中になつてしまひます。だから私は特に勉強しなくても宜いから二三年は遊んで居つて、身體を良くして銀行の仕

事を一生懸命やつて貰ふ、さうして皆が眠くなるやうな時分になれば本當に勉強して呉れと云ふことを新しい人に言つて居る位です。それでものごとに努力する熱心家が必要なんです。どう云ふ譯でさう云ふ人を銀行で要求して居るか云ふと、ものごとくに努力して熱心な人と云ふものは大體研究的な人なんです、研究的でないものごとくに總て停頓してしまふのです。停頓すると云ふと、水で言へば、うらが湧いてしまふやうなものでから、結局組織が進歩して行かなくなりません。それで結局は努力して研究心の強い人ならば其結果銀行の事務も絶えず研究し、さう云ふ人が集つて居れば銀行の組織も段々伸びて行くと云ふことになるので、さう云ふ意味で勉強家が必要であります。勉強しない人が多いと云ふとどうしても進歩がなくなつて停頓します。さうすると現狀維持にはなりませんけれども世の中の外の組織が進んで來ますと結局取残されてしまひますから、さう云ふ意味でどうしても努力家が必要な譯です、學生の時分には宜く我々も言つたことですが、誰は頭が宜いとか悪いとか、頭を大分氣にして居るやうです、勿論頭腦明晰たるを可しと致します。然しまあ頭と云ふものは差を付けて見れば良い悪いの差もありますけれども、又考へやうに依つては良いのと悪いのと大して違ひないとも言へます。差別的に言へば差別もあるし、平等的に言へば大して違ひがない位にしか私達は考へて居りませぬ。普通の頭でも結局努力の人ですと矢張り研究が盛んになります、さうすると云ふと自分の経験を積んだ仕事になつて來ると頭がそれ程でない人でも相當頭が働いてくる様になる譯です。段段と経験を積んで來ますと結局藝事なんかでも矢張り上手になります。藝で言へば、器用な人よりも矢張り努力した人に相當な大家になる人が多いのも意味のあることです。努力しないとどうしても人間が大成しませぬものですから、結局さう云ふ組織を生かす意味で銀行なんかでも努力する人を要求して居る譯

健康な體が必要

です。職業の性質上まあちよつと目先が利いてスマートに見える學生なんかよりも、矢張りしつかりして根氣よく勉強するの方が宜いのぢやないかと思ひます。

それから是は附けたりですけれども身體の健康と云ふことが最近殊に必要ぢやないかと思ひます。それは昔はよく「どうも家の子供も身體が悪いから銀行にでも入れたら」と云ふ様な話を聞いたことがありますけれども、さう云ふ時代は過ぎ去りまして、今は大都會ですとビルディングとか、大銀行なんかは一番人間に肝腎な光線なんかの當らない所に一日中居る譯ですから、現に私達の仕事をして居る所でも一日中電燈を點けて居ります、そんなことでビル生活は考へやうによつては、例へば昔の穴居時代と殆ど變らないやうな生活をして居る譯です。さう云ふ所では相當な體力が要る譯です。昔の體が弱から銀行へ、なんと云ふ時代と大分變つて參りました。

さう云ふ譯で結局銀行では心持の正しい人で誠實な考へ方の人、常識があり、熱心な努力家であると云ふやうな人を要求して居ることになります。是は銀行の根本觀念が信用を土臺にして居りますし、大きな組織を永遠に傳へなければならぬと云ふ建前からさう云ふ人を要求して居る譯です。然らば皆さんも俺の性能はどうだらうと云ふことを御考へになつて、銀行に行かうかと云ふ人でしたら、それぢや俺はどうかなと云ふやうに考へて御覽になつたら宜いかと思ひます。

最近の中々學生が皆就職に機敏であつて、何でも就職戦術と云ふのがあるのださうでして私達宜く雑誌の人だの何かから聞かれるのですが、私はさういふ事に付ては何にも申さないことにして居ります。今日は已むを得ず多少斯う云ふ人が必要だと云ふことを申した譯ですが、どうして今まで申さないで居るか云ふ

銀行信託其他金融會社員たらんとする人へ

就職戦術の説明は有害無益

と、割合にちよつとしたことが非常に響くものだからです。こつちが不用意に言つて居ることがそんなに氣になるかと思ふやうなことがあります。實例的に申しますと、二三年前に、それは或る大學を出て銀行に入つて居る人ですが、銚衡の時でしたか、近視の度の強い人で、徴兵もそれでいけなかつたのですが、なんかそんなことで眼のことを尋ねた。さうしまして結局其人は優秀な人だつたものですから私の方の銀行に入つたことは入つたのですが、後で聞いたことですが、眼のことを聞かれもうそれだけ言はれたことで一晚中考へたと云ふ。それから最近私の縁邊の人で銀行に入りたいと言つて遊びに来た人がある。體格検査表なんか持つて来て、私は此間目を傷めて自分の視力なんかを計つて居つた時で、目の視力が氣になつて居つたものですから、君はこんな視力なんですかと聞いた所が大分氣にしまつて、さうするともう駄目ですか、とかういふ質問をするのです。さう云ふ風に影響があるものですから、漸次言はなくなりません。そんなちよつとした事が非常な氣になれますから、所謂就職戰術などと云つて、どう云ふ態度を執るべしとか、どう云ふ答辯をしたらよいか、どうしたら宜いのだと云ふ様なことは云へるべきものでありません。さう云ふことを説明するのは害あつて益のないことです。結局根本をなす心構が肝腎な譯です。従て前に申し上げましたやうに性格的に斯う云ふ人を要求して居るのだと云ふことを申し上げれば、それが皆さんの御考へによつて自分は向くか向かないかと云ふ判断の材料になりやしないかと思つて申上げた次第であります。

序に附加へて置きたいのは、さう云ふ誤解もないと思ひますけれども、よく銀行員となつて金を儲けてやらうとか、金持にならうとか、云ふやうな御考への方がありますれば、それはとんでもない間違ひです。恐らく金は出來ないでせうし、それから若しさう云ふ考へで入行されたら後悔されるに決つて居ります。云は

銀行に入つて金儲は出來ぬ

ば金の番をして居るのであるとも云へます。番をして居ると言つても唯人から預つた金をが、ちり金庫へ入れて番をして居ると云ふのでなくて、其金を貸出した場合でも金の歩く道を始終考へて居る譯ですから、貸出した金が回収されて、結局金庫に返つて来るまでウォツチして居なければならぬのですから、だから今のやうな御考へならば、勿論銀行に入ることは性格よりも一番初めにそれは難しいと思ひます。前に申上げたやうな銀行に適する性格の持主でも、功を焦せるやうな人ではいかぬと思ひます。着實な人ならば功を焦せるやうなことはないと思ひますが、功を焦せるやうな人だと本當の本分を盡すやうな氣になれませぬからであります。

以上申上げたことを要約すれば、心身の健全な中庸を得た人を要すると云ふ事になり、どうも別に際立つたことではなくて平凡なことになつてしまひますけれども、結局道は近きにありで、平凡なことが一番眞理に近いことだらうと思ひます。是はずつと初めに申したやうに私の考へですけれども、恐らく他の銀行でも銀行と云ふ性質から見て今申上げたやうな性格の人を要求して居るのぢやないかと思ひます。それに従つて自分の性能を判断なすつて、銚衡の結果若しさう云ふ社會へ御入りになつたら、自分の使命を十分果すやう不屈不撓の精神で進んで行かれて、結局社會に有用な人となられむことを希望して已まない次第であります。

(昭和九年十一月九日 法政大學講堂に於て)

保險會社員たらんとする人へ

第一生命保險相互會社々長 矢野恒太

職業教育と就職問題——明治時代の學生には就職難はなかつた——官尊民卑の當時は皆大學にやつて役人にした——實業界も漸次大學出を歓迎するやうになつた——保險屋になるものはあまりなかつた——實業家と官吏軍人との相違——大學出の保險外交員は成績がよくなかつた——しかし近頃では希望者殺到の有様で斷るための試験をする——大學出を必要とするやうな地位は保險會社にはいくらもない——英米の銀行では大學出は僅かしかゐない——大學出のダムピンケ——官吏身分保障令と内務人事の沈滞——大學出を新たに採用すれば既に入社してゐる者の伸びる道が益々塞がれることになる——新規採用よりも現社員を優遇したい——新卒業生はどうするか？——自己の生涯を自力で開拓する——自己の眞の使命を自覺せよ——吾十有五而志于學三十而立四十而不惑五十而知天命六十而耳順七十而從心所欲不踰矩——二十で綺麗に見える、三十で強壯でなく、四十で分別がなく、五十で金がなければ、一生綺麗に見える時もなく、強壯な人でもなく、智慧のある人でもなく、金の出来る人間でもない——生命保險會社の事務は女子でも出来る——保險會社に入るなら外交員になれ——外交員は保險會社の全權大使——厭やがられる勧誘員が神様の様に有難がられる——外勤は實に男性的な仕事である——外勤は實力がはつきりわかる——一ヶ年五六百萬圓も契約する外交の名人——自己の天命を知らねばならぬ——天命之謂

保險會社員たらんとする人へ

性率性之謂道修道之謂教——自己の適所を發見せよ——學校教育は智育偏重に過ぎる——
社會は智の外に情意の發達した者を求める——保險の外交員は殊に鞏固な意思と高尚な人
格がなければ成功しない——學校教育の缺陷——銀行と違つて保險會社では會社によつて
加入者に有利か不利かの差が甚だしくある——餘りよくない會社へ入社した外交員の立場
は同情すべきものがある——内勤は餘り發展の望みがない

この頃の職業教育といふこと、新しい人の就職難といふ問題は絶えず接觸して居る問題でありまして、政
府の方からも職業指導に關する文部省の會議の委員を頼まれたり、それから自分が老人であるために縣の若
い人などから、さも私が學校へ行けと言つた責任者のやうに、今度學校を出るからどうかしろと言つてお尻
を持つて來られる。しかし僕は君に學校へ行けと言つた憶えはないがと言つて責任を逃れようとするのです
がなか／＼許されないで、我縣の先輩だからどうかしろなんていろ／＼窘められるのであります。さういふ
ことで、今日の現状から若い人の就職並に教育といふことについては餘程考へねばならぬと平生から思つて
居るのであります。然し未だよく考へてはゐないのでありますけれども、たゞ考へねばならぬと思つてゐる
そのことを、少しばかりお話ししてみようと思ひます。

何事でも時勢は非常に進歩して居ることは、申上げるまでもないのであります。世間は少しでもぢつとし
てゐない。萬法流轉の世の中といひますが、始終動いて居る。あそこに月が見えると言つて指されても、そ
の月を見ようと思ふと、もうその月はその指の方角より先へ行つてゐる。遠眼鏡を向けてあそこに見える

言はれて、遠眼鏡を覗いて見るとそこに月がゐないといふやうなわけで、明治の御一新以來大分固定して居
つた日本の教育の方針、またこれに伴つて若い人の方針も當分はそれでよかつたのだが、だん／＼世間の變
化のスピードが速くなるといふと前に定めた方針では間に合はないやうになつて、もつと早く變化しないと
いふと世の中の變化に人が伴つて行けないやうになつたのであります。今迄の人は學校を出ると相當の給料
を貰つて相當の地位についたから、學校へさへ行けばもうそれで自分の從事する仕事がそこに道をひらかれ
て行くと思つて、どん／＼學校へ入つたのであります。初はまたその通りであつたのです。といふのは、御
一新以來永く鎖國の状態にあつた日本が初めて西洋の文明に接觸して、そして非常なる侮辱をうけた。今日
でこそ日本は三大強國の一つだの五大強國の一つだのと言つて威張つてゐますけれども、治外法權といふも
ので、西洋人が來てどんな悪事しても日本の裁判には服しない。日本の官憲はこれをどうすることも出來
ない。まるで神の國の人が人間の社會に居るやうに、彼等を裁判するものは神様でなければいかぬといふや
うに西洋人が特別の法權を握つて居つて、日本人はこれに指をさすことも出來ない。そして何か少し日本と
利害の衝突することがあると忽ち軍艦を以て脅かされる。日本は震ひ上つて恐れ入るといふやうな状態であ
つたのであります。これではいかぬ。どうしても日本も西洋諸國のやうに大いに知識を進め、文化を進めて
行かなければ、たゞ今迄のやうな共同生活の仕方の一つの國家を作つて行つたのでは世界各國の中に立つて
相當な地位を保つて行くことは出來ないといふことを、吾々の先輩が心配して國運の進歩を圖るために、所
在に學校を興し、一般の普通教育は勿論、中學校、高等學校、大學等の設備を盛んにして西洋のあらゆる方
面の學問を日本へ輸入したのであります。それによつて出來て來る新しい知識をもつた西洋の事情に通じる

といふ程ぢやなくとも、少し聞きかぢつてゐる位な教育でも出来る、これを探つて使ふに合はないほど、その人が調法な人になつたのでありますから、もう大學でも出れば黙つてゐて、どんな出來の悪い生徒でも忽ちに高等官になつて威張つて歩けたのであります。

さういふ時代を見て居つた國民は、百姓であつても商賣人であつても、少し家が裕かで學資でも出せるものならば、子供を何にするかといつたらば學校へやつて役人にするに限る、といふやうなことを考へたのであります。また日本は御承知の通り御一新までは三千何百萬といふ人間が居りましたけれども、實は僅かな士族といふもの以上の階級の國であつて、その他の農工商といふ階級は一段下の階級であつて同等の階級ではなかつた。士族が日本を作つて居つて、その下は奴隸階級のやうなものであつたのであります。百姓とか町人とか職人とかいふやうなものは、とても士族と肩を並べべき同階級のものではなかつた。だから士族は政治をして居る藩主とか大名とか或は將軍とかいふものに直屬して居る家來でありますから、所謂治者の階級であります。その他の農工商は被治者の階級でありまして、この治者階級といふものは、非常に偉かつた。被治者階級といふものは實につまらなかつた。その治者階級が國民羨望的であつたところに、町人の子でも百姓の子でも大學さへ出れば、偉い官吏になつて治者の中の上等な所に直ぐ坐れるやうになつたのですから、國民は悉くそこを狙つて行つたのであります。

けれどもこれも暫くするとだん／＼満員になつて來て、もうさうは要らないといふやうになる時に、今度は今迄の被治者階級であつた町人、職人、百姓の方面にまた學問がだん／＼要るやうになつて來て、その方面で、官吏ほど威張るわけにはいかないけれども、名譽とか權力とかいふものはないが、その代り金は官吏

官尊民卑の
當時は皆大
學にやつて
役人にした

實業界も漸
次大學出を
歡迎するや
うになつた

になるより餘計出來るといふので、相當學校卒業生が飛び込んで來るやうになつたのです。私共の會社でも相當大學出の人を歡迎したものであります。

ところが初めは歡迎してもなか／＼來ないので、やつぱり治者階級の方の正何位勳何等とかいふ方へ行く方が盛んであります。現に私の所の私の後繼者になるやうな人もなか／＼容易に得られなかつたのであります。いよ／＼來ると決まるといふと、お母さんがどうしても承知しない。商賣人などになるのはいかぬ。自分の家は士の家なんだ、官吏の家なんだから、保險屋などになるのは怪しからぬといふので、どうしても承知しない人もありました。今その人は役人になつて居りますが、その後から今私の所へ來て居る人に較べると収入や何かからいふと十分の一も取れない位な役人であります。ですから金がもし有難いことならその人は間違つたのでありませうけれども、その代り位などからいふとその人の方が餘程上です。第一社長は矢野恒太といふ男が正七位なんですからあまり位の方では威張れないので、宮内省などへ出た時は慘めなものであります。それも何も實業家で位を貰つたんじゃないのであります。ちよつと役人を頼まれて保險の法律書きに政府へ入つて行つたものですから、その時に法律は出來たが誰も保險を知つて居る者がないから暫く居つてくれと言ふので一年半ばかり役人をしたために、知らないうちに、高等官六等初叙正七位といふものを貰つた。それから直ぐ罷めたからもうあとちつとも上らない。まあ今では私の下に五位、四位の人が澤山居りますけれども、社長がその位ですから實業界へ來ては名譽とか權力とかいふものは望まれぬがしかし金の方からいへば軍人になつたり或は官吏になつて居るやうな人よりは幾らか生活が樂であります。しかしそれならば官吏や軍人は非常にミゼラブルな生活をして居るかといふと、さうでもないのです。この

保險屋にな
るものはあ
まりなかつ
た

頃は富の偏在などいふことが問題になつて、どうも實業家は勞働者を搾取して、所謂産業界の巨頭などいふものはみんな悪い奴だ、あれはどうか富を平均させねばいかぬ、さういふ議論がいろ／＼な方面に行はれて居りますけれども、例へば官吏でも局長以上、軍人でも將官以上の人の生活状態を見ますと、日本橋や京橋邊で暮してゐる問屋の旦那などよりは餘程上等な生活をしてゐます。第一知識の程度が違ひますから金の使ひ高からいつたらば商賣人の方が餘計使つてゐるかも知れませんが、下等なことをやつてゐまして、官吏軍人などの方は高尚な生活をして居り、自分の寝る所そあまり廣くないやうでありまして役所へ出ると大きな部屋を控へて、下に澤山な屬官を使つて、出入りには立派な自動車に乗つて歩いて、晝も晩も料理屋の物を食つて度々藝者をあげて騒ぐやうな生活はどつちがやつてるかといふと却て官吏や軍人の方が餘程進んで居りますから、諸君はどつちを希望するか、まあ下等でもいゝ、金の方に轉げるといふのならば、實業の方へ行つた方がよろしい。それから高尚な生活をして、權力を振廻はし、人にお辭儀をさせて、名譽を得て威張つてくらすといふことなら、官吏や軍人の方へ志願した方がいゝと思ふのであります。二兎を追ふのは無理です。少し私の問題から脱線して居るやうであります、これからそろ／＼本論に入る。

それならば實業家になつたら直ぐ金が出來て偉い者になるかといふと、どうも官吏になつたり軍人になるほど確實に地位が得られはしないのであります。第一官吏や軍人になれば初から成否を論ぜず相當の手當を貰つて、眞面目にさへ勤めて居れば鰻上りに何年目かには勳章も貰ひ、位も上り、月給も上つて行く。その代りあまり役に立たぬ人は佐官位で罷められてしまふのもあるやうです、課長まで行つてそこらで一生を終る人もあるやうですけれども、恩給もあり扶助料もあり、大して躓きがない。さうして自分が責任を負つ

實業家と官
吏軍人との
相違

て大いにやらなければならぬといふ地位には居るのでせうけれども、まあ眞面目に命令を聞いて働いてさへ居れば大した失敗はないのですが、實業界の方はさうは行かない。銀行、會社へ入れればこれは月給を貰つてやはり使用人で行くのでありますけれども、位も勳章も來ない。自分で獨立した實業でもやらうとすれば殆ど手辨當で稼がねばならなくて、成敗利鈍一に自分の責任で、どこからも月給も呉れなければ、失敗じつたつて、どうも感心だ、あれは名譽の負傷をしたからどうしてやれとか、名譽の戦死をしたからどうと言つても呉れない。何時でもさういふ時には不名譽の負傷で、不名譽の戦死になるのですから、實業界へ入るといふと餘程決心が要るのであります。

その著しい例は、吾々の營業に於て殊に外交に従事する人などは、もう入つた時から非常な重い責任を背負はされてなか／＼苦しむのであります。それ故に、今頃では澤山に大學出の人などが來ますが、私が最初に、穂積八東さんが大學長をしてゐる時分でありましたが、或る年帝大の卒業生を、まああまり出來の良くないのでよろしい、學校の成績などはどうでもいゝが、學問の研究なんといふ深いことは出來なくても世間へ出て相當人に話の出來る所謂俗才が利くやうな人であつて、仕事が出來さうな人があつたら寄越してみてくれと言つて、何でも八九人來て貰つたことがあります。しかしそれが學生に出來るだらうか、出來るだらうかといつたつて、學生といふのはみんな高等の學問を受けた青年であつて、高等の教育などを受けない無學な人間がみんなやつてゐて出來るのだから、さういふ高等教育を受けると無學な者のやる仕事が出來ないといふ理屈はない、鋏を持ってとか肥槽を擔げといつては、それは高等教育の方に没頭して居つて筋力などは養はなかつたから、今更お百姓は出來ないといふのはそれは尤もだけれども、まあ保險の外交員にでもな

大學出の保
險外交員は
成績がよく
なかつた

つて外へ行つて人と理屈を言つて、保險は厭だといふ人を、厭な理由はない、お入りなさいと言つて、説き伏せてその人の首へ綱をつけて引張つて來るといふ位なことが、教育のある人が出來るか、ない人が出來るかといふと、ある人の方が出來るやうに思ふのだが、どうだらうかといふので十人ばかり入つて貰つた。ところが一人も出來ない。入つてみて貰ふと、一年位居つた人がその中一人ありましたけれども、一月経つても二月経つても三月経つても、一人の募集も能うして來ないし、到底駄目なんです。他の無學な人は、まあどんな人でも大概入つて月に一人や二人は連れて來るのでありますが、それがまるつきり出來ない。全然ゼロといふことで、これはどうもいかぬ、教育をするとかくまで能力がなくなつてしまふものであるかと、しみじみと私も感じたのであります。それから後、あまり大學卒業生などを保險會社に採るといふことはしなかつたのであります。また保險會社へ來ようといふ人があつても、今のやうにお母さんなどが不服を言つて保險會社へ行くことはいかぬといふやうなことで、止んでしまつたりした時代が暫く續いたのであります。

しかしさういふ時代もやはり世態の變化で以て舞臺が變つてしまつて、今日では保險會社へ入れてくれるといふ人が非常に多いのであります。私の會社などでも毎年數百人あるので、斷はれるだけは斷はりますが斷はりきれない分を纏めて二百人位試験をして、その中から二十人かそこらのものをこれ迄は年々採つて來たのであります。それも實は試験をしてその中のいふのを探るといふのではなく、斷はるために試験をするのです。採るために試験するのがやないの、何とか難癖をつけて斷はりたいたいといふので試験をして、難癖のつけやうのないものを仕方がないから、まあ二十人だけは採りますからといふので、一番まあ非難の少いところを頭から二十人採るといふやうな風にしてやつて來たのですが、當年からは大體男の人を採らないといふことにしようかと、相談して居るのであります。かういふことはどうもかういふ演題を掲げて話するには甚だ不似合なことでありますけれども、實情を申し上げておくことが皆さんの理解を良くすると思ふのであります。

しかし近頃では希望者殺到の有様で斷はるため試験をする

大學出を必要とするやうな地位は保險會社にはいくらもない

いふことにしようかと、相談して居るのであります。かういふことはどうもかういふ演題を掲げて話するには甚だ不似合なことでありますけれども、實情を申し上げておくことが皆さんの理解を良くすると思ふのであります。

何故お前の會社では去年まで大學卒業生を採つて今年から採らぬかと言はれると、今もう大分大學卒業生が溜つて來たのです。その結果はどういふことになるかといふと、今年もどうせ二百人か三百人また押しかけて來られるだらうと思ふのですが、その人をまあ何とか難癖をつけて斷はつて、よんどころないのを幾らか採るとしますと、またそれだけ人がそこへ餘計溜つて來る。しかるに會社でさういふ人の働く餘地がどれだけあるか、働く地位がどれだけあるかといふと、實はこの保險會社といふものは簡單なものであつて、高尚な仕事をせねばならぬところは、社長とか専務とかいふものが一、二人、それからまあ餘程低いところまで採つても課長、課長代理位まで、すべてひつくるめて幹部といふやうなものが、三十人かそこらあればいい。それ以下のところは、まあ高等官ではないんですな。重役級が親任官であれば局長、課長級が奏任官、そのトップに居る社長を、大學は扱おき、中學へも行つたことのない私がやつて居る。課長以下は判任扱ひでありまして、判任官は何をして居るかといふと、これは刀筆の吏といふ言葉がある通り、鉛筆を削つたり或はペンを弄くつたりするやうな仕事をしてゐるのであります。受取を書くとか帳面をつけるとかカードを書き込むとかいふやうなことをやつてゐる。全く機械的の仕事が主であります。その機械的の仕事をずつと集めて、それを頭で判斷して、どうするかうするといふところになると、奏任官の仕事であります。奏任官とは吾々の方では言はないのです、課長級の仕事であります。そこでは大學でも出た人は餘程頭が學

問的に出来て居るから、他の學問のない人よりはいゝに相違ないのであります。けれども帳面をつけたり受取を書いたりするには、實は大學出の人は勿體ないので。そんな偉い學問をしてゐる人でなくてもいゝのです。飯を食ふ茶碗を金で拵へたり杓子を銀で拵へなくてもいゝやうなものでありまして、そんな高いものを使はぬでもよろしいのですから、まあ女の子でも使つて居れば澤山なのです。

英米の銀行
では大學出
は僅かしか
ゐない

私ではありませんが友人の銀行家がこの前西洋を廻りました時にイギリスの大きな銀行へ行つて、お前の所に大學卒業生を何人使つて居るかと言つたところが、大學卒業生？ 大學卒業生なんといふものは俺の所には何千人の中に三人か四人はゐるが後はゐない。どういふ譯だ？ だつてユニヴァーシティーを出た人を要するやうな仕事は銀行には何もないんだから、御承知の通り簡単な仕事をやつてゐるので、大體事務を執つてくれる人があればいゝんだから、そんな者は俺の所では使はぬ、我國ではそんな人はまた何か知識、學問の必要な所で働いて貰つてゐる、銀行では使はないと言つた。どうも變な具合で……。お前の所はどうだ？ 俺の所は半分位は大學卒業生だと言つたら、いや日本が勃興するのは無理はないなあと言つて驚いた。それからアメリカへ行つて銀行頭取と話をしてゐる時に、お前の息子は今何をさせて居る？ いや俺の所は會社の手傳ひに使つて居る。學校はもう濟んだのか？ 學校といふのは？……中學まではやつた。それから先は？ やらない。それは學問をする大學などへ行かぬ奴でもなし、本人もまた學者になるといふ様な趣味はちつとも持つてゐない。事業家にもなりたいたいふんだから、要らないことだからそんなことはやらせない。と言はれてびつくりして、どうも少し吾々の國と違ふと思つて歸つて來たといふのであります。それはどつちがいゝかといふことは考へやうで、必ずしも大學へ行かない人を使ふのがいゝといふ譯はないのであります。

大學出のダ
ムピング

現に私の所などもよく人から、この頃大學卒業生を使ふのがいゝとか悪いとか言ふがお前の所でも大學卒業生を澤山採つてゐるぢやないかといふ非難をされるのでありますが、これはかういふものだらうと思ふのであります。木綿を買つて使へばいゝのであるけれども、絹地をダムピングで持つて來て安く木綿の値で賣ると言はれゝば、やつぱり絹の方を買つておきたいやうな氣がする。女の子を使つてもいゝが、それと大して違はぬ値で男がダムピングで大學まで卒業した人が、五十圓か六十圓で働くといふのなら、勿體ないからその方を使つたらよからう、といふ位な簡單な考へで使つて來たのであります。ところがだん／＼社の中へ人が溜つて來て見ると、新たに入る人に對しては氣の毒でありますけれども、例へば諸君の中にも一人や二人は第一生命でも行つてみたいといふ希望の人があるかも知れませんが、さういふ人にはもう男の子を採らぬとかうしてしまへば氣の毒でありますけれども、入つて居る男の子の身になつて考へると、さう後から後からむやみに入れられた日には、これはどうせ一つ皿の御馳走を頒けて食ふのでありますから、大勢寄つて食へば少しづつしか食へないのであります。會社の奏任官になる地位が幾つしかない、そこへむやみに澤山押込んで來られる、おまけに後から來る方は幾らか新しい學問をして、改良された教育を受けたのが來るので、さういふ偉いのが入つて來ると、前に來た者はだん／＼置いてけぼりになつて、後から來た者に追越されるかも知れない。非常に不安になつて來ます。

官吏身分保
障令と内務
人事の沈滞

恰度この頃聞くといふと内務省といふ所が、是は役所でありませんが、今迄は隨分人を探つたのであります。この人を探るには、まあ吾々の所はこれで會社創立以來三十何年、殆ど自分一人で主宰して居りますから、

さう權力争ひも何もないのですけれども、大臣のやうにぐらぐら替りますと、自分が大臣をして居る時代に大學出の若い者などが頼んで来ればまあそこへ權力の卵を植付けておいてやりたいといふやうな觀念もあるだらうと思ふのです、これは私の邪推かも知れないけれども、まあ採れるだけはどん／＼不遠慮に採るんですね。採つたのはよろしいが、さて今度はまた使つてる人間を保護してやるやうなこともしないと人氣が悪いです。そこで身分保障令といふものを拵へて、今使つてゐる官吏は勝手にには罷められないといふ身分を保障する法律を出した。さうすると後から若いのが来たから前の奴を罷めて後の者を入れるといふわけにはいかない。やつぱり見習みだけに六十圓か六十五圓で澤山入れば見たが、前は塞へて居つて少しも前の座席は空かない。さうすると後の方でちつと眺めて居る者が何百人と日本全国の内務省所管の下に見習生になつて居るのであります。この人達がどうにか高等官六等とか七等とかいふところに泳ぎ着いて奏任官の端くれになるのは何年掛るかといふとなか／＼な年数が掛る。死んだり罷めたりする人が自ら出来ればこれは保障令に關係なく地位が空くのですが、さういふやうに、まあ人の禍ひを待つやうでありますけれども、上の人が死んでもくれるといふとそこへ入れるわけがあります。さもないと、今迄は政變をむやみに起さへすれば、ぐらぐら政變が起れば、前内閣に入れた人間は彼奴は反對黨の臭味があるといへば、知事などはどしどし首を齧つたのであります、この頃は保障令で齧るわけにいかない。だから知事の地位はさう澤山は無いものだからいろ／＼工夫して、官業を始めてみたりいろんなことをして自分等の働く範圍の高等官の地位を作らうといふ風にこの頃官吏は大分苦勞してゐるやうであります、さうしても内務省で年に二十人といふ地位はなか／＼出来ない。さうして今假に三百人、高等官になりたいと言つて明けても暮れても首を

長くして待つて居る人間が内務省に居るとすると、今年から一人も新しい人を採らなくても今溜つて居る大學出が全部高等官になるには、十数年かゝると見なければならぬのであります。況んやこれから毎年々々學校を出て来る人が後から後から入るといふと、これが非常な走りつゝこになつて来るのであります。

それと同じやうに第一生命の方も今受取とか帳面をつけて居る學士先生が澤山に居られる。ところが、私どもは七十にもなつてゐるんだから早く死ねばいゝと思はれて居るかも知れないけれども、私一人死んでやつたところで一つしか地位が空かない。課長などは七十にもなつて居る者は居りませんからまだ若い。さうすると一年に奏任官の地位になれる人が一人か二人出来ても、何十人、何百人塞へて来ると、この人達は入ることは入つたがどうも第一生命に居つたつて一生うだつは上らない。年に三圓五圓月給を上げて貰つたところが女房を貰ふことも出来ないし、何時迄も外套が破れたと言つて伯父さんに無心を言つたり、靴を買ふからと言つて親父に助勢をして貰はねばならぬやうなことになる。中にはえらい金持の家の人も来て居りますし、またえらい貴族の家の人もあります。さういふのは月給などを苦しんでせうけれども、大體に於て私の會社などに入つて居る新しい學士諸君はどうにか俸給で生活をし一家を立てて行かうといふやうな人が多い。その人達がどうにも伸びる道がない。そこへ後から後から餘計人が押掛けて来ると、ますます伸びる道がなくなる。屬官でもよろしいから、まあどうせ實業界へ入る人は、軍人になつたり官吏になる人のやうな權力や名譽、勳章をギラ／＼飾つて威張らうといふやうな望みはもう斷念してゐるのでありますから、相當氣樂に暮らせさへすればいゝから、一生受取を書いてゐても帳面をつけてゐてもいゝから、時間が過ぎたらボールでもしに行くとかゴルフでもしに行つて氣樂に遊んでればいゝといふ希望の人も多からうと思ひま

大學出を新
たに採用す
れば既に入
社してゐる
者の伸びる
道が益々塞
がれること
になる

すが、その氣樂に行けるだけ金を遣るといふことが、餘り大勢だと出来ないであります。また相當の年限勤めて罷めれば屬官でも遺族に一時困らないだけの金を遣りたいけれども、あまり澤山入れておくと幾ら富裕な會社でもさうは手當が出せないであります。その點から考へれば、入つて居る人からいへば、あまり澤山仲間が出来ない方がいゝ、新たに入る人からいへば、一人でも餘計探つて貰ふ方がよろしい。かういふことで、今度は學校卒業生同士の間で争ひが起るのであります。

そこで私の會社などでは、新たな契約をどん／＼取つて行くといふより、入つて居られる人が少しでも確實に且つ有利にこの契約を遂行して行かれるやうにして行きたいといふことを、大體營業の方針として居りますから——これは保險契約の方であります——、それと同じやうに従事して居る人に對しても、新たな人をどん／＼探つて上げるといふよりは、會社に居る人をなるべく幸福にしてやりたいといふ方針を考へてみると、むやみに後から後から人を入れるといふことは考へなければならぬと思つて居るのであります。しかしまだ今こゝで私が宣告して、第一生命は本年は一人も採らぬと申上げる程に確定して居るのではありませんが、今迄のやうに無限にどん／＼人を探つて行くといふことは考へねばならぬと、たゞこれは社長一人の頭で考へて居るのであります。

さうすると學校を出る人がどん／＼餘つて来るが、しからばこれから學校を出る人は、どうしたらいゝかかういふ問題になるだらうと思ふのですが、私はどうも近頃の學校卒業生は、學校を出れば直ぐ役所なり會社なりへ行つて、或は權力或は名譽或は金力、何かにありつく道に踏み込んで行かうとして月給取にならうといふ考へを、一つ大いに轉換すべき時機に向つてゐるんぢやないかと思ふのです。さういふ例は近頃だん

新規採用より現社員を優遇した

新卒業生はどうか

だん諸方に現はれて來まして、この間も或る法科大學の卒業生が、兩三年前でありましたが。

「自分は卒業したが郷里へ歸りたい。」

「郷里に君は何かいゝ就職口でもあるのか。」

「いや私は別に就職口を探してゐるんぢやない。學問はこれで法科大學を出たから一通り自分の希望するだけの知識を得たつもりですが、これから一つ自分は自分の生涯を自己の力で開拓してみたい、それにはまづ家へ歸つて暫く親父の所で麥飯でも食つて寢轉んで居るつもりである。今の第一の志望としては、自分の村は殆ど世間と交通もしないやうな五家ノ庄みたやうな村であるがそこで役場の書記か何かに無給で出て一つ村政のことをよく研究して見る。それが判つたらだんだん村のために骨を折つて見よう。幸ひ親父の所へ居つて麥飯でも食つて居ればどうにか食つては行けるだらう。まあ暇があれば親父の野良へ出る仕事の手助けをしてもいゝ。さうしてゐるうちに村役場の無給の書記位で居るのが、後には収入役になるとか助役になる位には行くだらう。と思ふのは、私の村並に近村に帝大の法科卒業生なんといふものは一人もないんだから、まあ自分が一番物識りだらうと思ふ。それで相當の地位に採用されるだらう。それを四五年かそこらやつてれば私が三十五か四十位になれば村長になれるだらう。村長になればこれは一部落の帝王である。その帝王になつたらば、東京で下らない商賣人などに願で使はれてこの受取を書け、この帳面をつけると言つて追廻されて居るよりは餘程いゝ。自分は一つそこへ歸つて自分の抱負で理想的に村政を改革して、その村をいかに發展させるかといふことをやつてみたい。」

保險會社員たらんとする人へ

自己の生涯を自力で開拓する

といふ話をしましたので、これは直接ぢやない、友人が聞いたのでありますが、非常に感服して、私に、この頃は若い者が君の言ふやうにさう學校を出ると直ぐ腰辨にばかりなりたがるんぢやないんだ、かういふ獨立心のある、かういふ創造力を持つて居る若い者もあるんだといふ話をしてくれたことがあります。けれども皆さんがみんな歸つて一時に村長にならうと言つちや少し多過ぎる。また人眞似で、人が村長をやつて褒められたから、俺も村長にならうぢや困る。何か外のことを考へるんです。

そこで私が自分のことを申上げては甚だお聞き苦しいと思ふのでありますが、私は實は中學へも行つたことのない極く無學な人間であります、それだからどうも大學卒業生に同情がないと言はれれば仕方ありませんが、田舎にある或る醫學校を卒業した、實は醫者なのです。お前が醫者かとよく言はれますけれどもびつくりされるやうな醫者ですから、人助けの爲に私は醫者はしななんです。醫者になりましたが、どうも醫者の社會を見るとなか／＼先客澤山で、その方面にはもう随分弊害が現はれて居る位に——これは古い話です、今より四十四五年も昔の話です。私の二十五の時だから、七十から引くと四十五年昔です。その時分でももう日本に醫者には事を缺かない。私が醫者をしてやらねば日本が困るだらうといふやうなことはないうんですから、これはもう他の人に委しておいていゝが、何か人のまだ手を着けないことで、自分が働かねばならぬことがありますしなないかといふことを考へてみて、保險といふ方に眼を着けて、この方は誰もこつちの山へは上つてゐないから、自分が遅くてもそろ／＼歩いて行けば、やつぱり先輩の一人になれるだらうと思つて、これをこつ／＼やつて來たのであります。果して今残つて居る保險研究者としては——まあ研究者と言ふのもおこがましいが、保險に従事して居る者としては一番古いのであります。私が醫者をして居つた

自己の眞の
使命を自覺
せよ

らば郡の醫師會長位にはなつて居るだらう、或は金などはその方が出來てるだらうと思ふけれども、とにかく日本のために幾らか働いたといふことは、私がかういふ途をとつたから、醫者をやつたよりは國家のためにもなり人生のためにもなつたものと、まあ自分では自惚れて居る。さういふやうに諸君が、まあ初は何をしててもよろしい、それは吾々の所へ來て帳面付けをしてよし、また役所その他の所へ行つて何かに働かれてもいゝ、——學校を出立ては。が結局自分が何をするのだといふことについては、月給を貰つて毎月状態の中から錢を出して下宿屋の拂ひをするやうなことばかり考へてゐちやいかぬ。

これはどの國でもよく言ふことであります、支那では孔子の言葉を借りていへば「吾十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑はず、五十にして天命を知り、六十にして耳順ひ、七十にして心の欲する所に従つて矩を踰えず」かういふことを言つて居る。十有五にして學に志すはまあいゝが、三十にして立つといふのは今言ふ卒業時期、親の手を離れて獨立の人となつたといふことだらうと思ふ。それから四十にして惑はずといふのだから四十迄は惑ひ通しに惑つて居つたと見なくちやならぬ。孔子様でもまご／＼して居つたのだらう。あつちの會社へ行つて見たり、こつちの官吏になつて見たり、いろ／＼やつて見ただれども、四十になつて初めて分別がついた。それから五十にして天命を知るといふから、五十になつて初めて、自分はどういふ天命を持つて生れて居ると、自己の天命といふものを自覺した。或は金持になるか、或は學者になるか、或は政治家になつて天下民人を救ふやうな人になるか、或は奴隸に一生甘んずべき人間であるか、腰辨で終るべき人であるか、その自己の天命といふものを自覺するのは五十である。六十、七十はもう降り坂で、僕七十で甚だ遺憾であるけれども、どうも六十にして耳順ふとなるといふと、少々反對者の

吾十有五而
志于學三十
而立四十而
不惑五十而
知天命六十
耳順七十而
從心所欲不
踰矩

議論を聞いても、成程それも理窟があるなと思ふやうになつて来て、餘程耳が從順になつて意志が弱くなつてしまふ。七十になるともう思ふ存分なことをしてもさう脱線するやうなことはない、といふ位活動が衰へるんです。但し僕は例外か、まだ少し位は脱線しさうに思ふ。否今猶脱線のし通して居るのであります。

二十で綺麗に見えず、三十で強壯でなく、四十で分別がなく、五十で金がなければ、一生綺麗に見える時もなく強壯な人でもなく、智慧のある人でもなく、金の出来る人間でもない

西洋の諺には「もしお前が二十でフライン・ルックド（綺麗に見え）でなくて、三十でストロング（強壯）でなくて、四十でワイズ（分別）でなくて、五十でリッチ（富）でなければ、お前は一生綺麗に見える時もなく、強壯な人でもなし、智慧のある人でもなし、金の出来る人間でもないんだ」といふ言葉があります。身體の一番強壯な時が一番伶俐な時といふわけぢやない。恰度孔子の「三十にして立つ」立派な體を持つて立派な一人前の人間になつたといふ時が三十なのである。諸君はまだ三十になつて居る人は少い。まだストロングの頂上まで行かない。けれども學校をこれから出られよばやゝ獨立の人である。今迄は豫備門へ入つて居つた。これから學校を出て初めて社會といふ學校へ入る。そこへ入つてから四十にして惑はずまで、或はイギリスで言ふ四十ワイズ、分別のつく迄の間は惑ひ通しに惑つて、あつちへ行つちや鼻をつき、こつちへ行つちや鼻をつく時であるんですね。これがいゝと思つてむやみにマルクスを信仰してみたり、或は耶穌教になつてみたり、さうかと思ふと、ひよいと禪宗の講義を聞いてむやみに感服しちやつたりするやうな、單純な時代であります。しかしそのマルクスが非常によかつたのが俄かに禪宗に變つてみたり、或は資本主義の方がどうしてもいゝと考へてみたりするのは、何が變つてゐるんだといふと、マルクスでもなければ釋迦でもなければ孔子でもないの、自己があつちへ向いたりこつちへ向いたりしてゐるのです。結局は自分といふもの、その自分といふものをよく自覺して、いろ／＼な方面を右を見、左を見て、さうして自分の立

場をよく知つて、は、俺の立場はかういふところにある、右を見ればフアシズムの山が見え、左を見ればコムミニズムの谷が見えるけれども、俺はかういふところに居るんだといふことがはつきり判つて前後左右の事情に通じて來るのは四十なのである。四十迄の考へといふのはまあ輕卒な考へが多い。諸君の中にはもう五十位の智慧のある人もあるかも知れぬけれども、平均していふと四十迄の考へといふものは極めて單純な輕卒な考へが多い。いろんなものにぶつかつていろんな方面を見て、さうして四十になつて初めて世の中のことが大體各方面が判るやうになつて來る。そこで俺は世の中をすつと見渡したところであらういふことを一つ自分が生きてる間にしようといふ道を決めてその道を行く。その時に鐵砲がズドンと鳴つてスタートを切つて、それからゴールをめがけて走つて行く。ゴールへ入るのが五十、五十にしてリッチになるかブーアになるか、或は天命を知つて天下を取るやうな人間になるか草履を擱む奴隷で終るかといふ運命が決まると見てよろしいのであります。けれどもそれは六十の手習で小野道風のやうな名筆になる人もあるんだから、必ずしも四十から五十とはきまらぬが、概していふとまづ今頃の諸君から四十迄の間は猛練習をやるべき時である。あらゆる困難にぶつかつて行くべき時である。そしてその猛練習がものを言つて四十から五十迄の間に富を作るとか、事業を成すとか、偉い勳章を貰ふとか、男爵になるとか、或は勅選の議員になるとか、いふやうな運命が、五十から六十の間に決まるので、なるのも決まるし、ならないのも決まる。

そこで、序論が長過ぎたが、もし諸君が、お前の會社は今年採らぬといふなら行かなくてもいゝが、一體保險會社員になるのはどう心得たらいいかといふことを聞かうと思つて來たのに、一向保險會社の話をしな

生命保險會社の事務は女子でも出來る

知らない。損害保險なんといふ方は自分があまり關係したことがない。生命保險の方だけお話しして見る、とさつき言ふやうに生命保險會社の事務といふものは女の子で出来る事務が多いのであります。或る所でこんな話をしたら、どうも女の子を職業戦線へ引張り出すことばかり勧めるのはいかぬ、女の子はやはり家庭に居つて東洋婦人的に臺所の番人をしてゐてくれるのがいゝんだ、さうして男の子が今職がなくて就職に困つてゐるのに、女の子を保險會社へ使ふなんといふのは怪しからぬ、と言つて叱られたのでありますけれども、しかしまあ女の子は嫁に行く迄の間でありまして、嫁に行つてしまふから、……嫁に行つてからまた出て来て子供を放つておいて保險會社の事務員をしろ、といふんぢやないのであります。

さて、男の人が保險會社へ入るなら、餘程考へて、この會社ならば自分がこれから大いに働ける、自分が奏任官にもなり親任官にもなつて働けるといふところを目標けて行く人は別であるが、何でもいゝ、一つ保險會社の事務員になりたいといふのならば、私は外交員におなりなさいといふことをお奨めしたいのであります。ちよつとかういふ話をするとなんか大概な人が、いや保險の募集員は困ります、保險の内勤ならやりやすから言ふのですが、私はこれは非常に意氣地のない考へだと思ふ。保險の内勤といふのはさつき言ふやうに女の子がする仕事なのです。その帳面をつけるとか、この手紙をタイプしなさいとか、この郵便を出す様にしなさいとかいふやうな仕事をやるのであつて、そんなことは何も苦勞して高等學校から大學まで出て來なければ出來ない仕事ぢやない。僕等でも出来る。

ところが外勤員といふのはさうは行かない。これは保險會社の全權大使か公使位なところに當るのであつて、會社を全く離れて外國へ行つちまふのです。内勤は會社の中に居つて、上に課長とか何とかいふものが

保險會社に入らぬ外交員になれ

外交員は保險會社の全權大使

居つて、君それはいかぬ、かう書き給へ、こつちの行へ書き給へと言つて指圖してくれるが、外勤員になると外へ出て行つてしまふ。外へ出るといふとまづ面會を求めることがなか／＼困難であるが、漸く求めたところで、「保險屋か、僕は保險は嫌ひだから歸つてくれ給へ」、「あゝ左様ですか」と言つて歸つてしまへば一つも仕事はない。さういふ時にいかにしたらこの男を濟度出來るか、救はう救はうと思つても泥鰌みたやうにぬるり／＼と逃げてしまふ、といふ佛教の話がありますが、保險なんといふものは、何も人に寄附金を貰ひに行くやうな悪いことをしてゐるでもなし、そんなに逃げて廻られるほど厭がられる仕事をしてゐるんぢやないが、どういふものか保險の外交員といふと今世間で評判が悪いのであります。しかし仕事はどういふ仕事をするのかといふと、例へば第一生命の外交員になれば第一生命といふものを社會へ擴めて第一生命のお客さんを——まあ私の方は會員組織であるから會員と言つた方がいゝが、會員を一人でも殖やす。この會へお入りなさい、入ることが大變利益だといふことをよく説いて納得させてそれを連れて來るのであります。まあ大概な人が保險を勧めに行くといふと厭がる。「あゝさうか、よく來てくれた、僕は保險に入らうと思つてゐた」なんといふ人は滅多にない。どこへ行つても保險といふと頭から斷はられる。「物貰ひ及び保險勧誘員入るべからず」なんて札が貼つてある家もある。

その位厭がられるんだが、どうも人間といふものは不思議なものですな、非常に厭がる人間が多いのに、毎年保險會社の契約高が私の會社だけでも去年あたり約二億六千萬圓。二億六千萬圓といふと、假に二千六百圓平均の契約をして居ると致しますと十萬人です。私の會社だけでも十萬人入つて居る。全國では百萬人位入るでせう。そんなに人が厭だ／＼と言ふものを買ふ人が百萬人もあるのですから餘程不思議な商賣で

厭がられる勧誘員が神様のやうに有難がられる

す。どこへ行つたつて歓迎してくれない。それで結局買つて行く。買った人は、どうもひどいものを買はせやがつた、と言つて怒つてゐるかといふとちつとも怒つてゐない。みんないふことをしたといふやうな風で、保険證書でも貰ふと非常に喜んで、まあこれだけ保険をつけておいたからお前等も安心だと言つて家族に見せて誇つて居る。さうしてこれが運好くとは言はないが運悪くその人が死にでもして御覽なさい、その保険の勧誘をした人は神様のやうに有難がられる。吾々の所へ来て「洵にこの保険がありますから一家の者が助かります、貴方の方から△△さんといふ人が来て勧めた、あの時に主人がもう倍も入つてくれたらよかつたんですが、駄々つ子のやうに厭だ」と言ひまして到頭これだけしか入りませんでした、それでも五千圓あればどれだけ助かるか知れませんか」と、掌を合せて拜むやうに言はれる。それを見るときどうも吾々保険屋をやめられんすな。

さうして結局その厭だと言つて駄々をこねる子供を抑へつけてお灸をすゑるやうにして、その人を引張つて来て、それから年々何十圓とか何百圓とか金を掛けさせるやうに、一人で行つて向ふの人を征服して來るのであつて、向ふの人はどういふ人だといふと、諸君等と同じ階級同じ年配の人ならば相撲をとつて勝ちもし負けることもあるだらうけれども同じ階級ぢやない。大概諸君が狙つて勧誘にでも行く人は諸君よりは偉い人、少くとも社會的地位に於ては相當の會社の支配人であるとか相當の商店の主人であるとか相當の位階勳爵のギラ／＼して居る人であるとかいふやうな偉い人間であつて、さういふやうな人間を單身で行つて抑へつけてその人に毎年幾らかづつ拂はせるといふ契約をして來て、それからお醫者さんを遣つて體格検査をして悪ければ、お前はいけないと言つて斷はつてしまふ。これは偉い仕事です。日本の外務省などに居

外勤は實に
男性的な仕
事である

る外交官よりはもつと偉い仕事であります。さういふ男性的の仕事をするのでありますから、保險會社に居つて本當に働ける仕事といふのはどれであるかといふと、帳面をつけたり受取を書いたりして居るよりは、その方が餘程働ける仕事であります。

さうしてまたその働きの直ぐ數字に現はれる。この月はこの人は何萬圓取つて來た、この人は何十萬圓、この人は何千圓しか出來ない、かういふ風に數字に現はれるのですから、その會社なり社會からも見られるが自分自身でも見られる。あゝ俺はかういふことには適してゐるとか、一年ばかりやつて見たけれどもとてもこんなことは適しない、廢めた方がいゝ、かういふ風に自分を試験するにもはつきりして來る。ところが貯金の帳面付けなどをやつてゐるとちよつと判らんですな。何だか重役の氣に入つてゐるやうな風に思へて、もしやに惹かされてやつてゐるとあまり氣に入られてゐなかつたりして、出世しさうに思つてゐると後から入つた者が課長になつて自分が殘されて失望するんだが、外勤員といふ仕事は數字で以てピシ／＼とやつて來るんだから自分より十年も前からやつてゐる奴よりも自分が成績が好ければ上に坐れるといふ本當の腕次第で、獨立の商工業者が商賣をして居るやうなもので、役人などになつて何省の次官とか局長とかいふやうなものになつてゐると、上の方のお覚えがめでたかつたり、世間から少し買被られると存外世間からも偉いと思はれ、自分も俺はなか／＼偉いんだと思つてゐる人がある。さういふのを引張り出して、あれはあの省の次官をして居つたんだから、かういふ仕事をさしたらいゝだらうと思つて使つて見ると、てんで役にも何にも立たないやうな人間が澤山居ります。さういふことを聞くと怒るかも知れませんが、實際本當の腕でやつてゐるんじゃない、人氣でやつてゐる。ところが外交員はいくら人氣があつたつて仕事が出来て來な

外勤は實力
がはつきり
わかる

ればいけない。これは、べも艶も世辭も何も要らない。内勤員なら時々社長の所へお菓子函や果物の籠を提げて行かなければ出世しない、と考へるのもあるやうであります。まあ大概そんなものを持つて来るのは質の悪い方でありませうけれども、外勤員などはそんなことをする必要はない。いくら持つて行つたつて出来なければ社長もいくら置かうと思つたつて置けない。持つて来なくつたつて出来る人間は手放すことは出来ない。

私の方に外交の名人と言はれる人が居る。今東京支部長をして居りますが、此人は一人で以て一外交員として働いて居る場合に一ヶ年に五百萬圓乃至六百萬圓位契約をした。どうも實に驚くべき手腕でありまして、大概よく出来ると云ふ人でも年に三十萬圓位の契約が出来れば外交員ではよい方です。三十萬圓出来ても年に四五千圓位の支給にはなるのでありませう、官吏で局長さん級位の俸給になる。五百萬圓、六百萬圓位になりますと云ふと、社長より餘計金を取る。社長は是でも何とかか言つちや慈善會の切符を買はされたり、送別會、歡迎會の割前を取られたり、色々のことで金を取られるが、外交員はそんなことはない、さうして年に七萬圓も八萬圓も取つて居る。自動車代位は要るかも知れないが、金だけで言へば非常な所得がある。また其位の人になると云ふと相當社會から尊敬も受け、自分にも見識が出来て来るのであります。其人は餘りよくやるので、何時までも兵隊に使つて居るのは氣の毒だから、東京に於ける外交員の支部長にして居りますが、其人はさう云ふことをさせても中々よく出来る。中々熱心に仕事をして従來の支部長のやつて居つた時代よりは時勢も進んだのでありませうが、倍以上の仕事で支部長としてするやうになつて來ました。さうして其人が常に曰く、凡そ世の中に此位男性的な、此位氣持のよい仕事はない、誰に御世辭を言ふ

一ヶ年五六
百萬圓も契
約する外交
の名人

ことも要らない、自分の腕でやるだけの仕事をしたら出來ただけの報酬を貰ふ、出來なければ自分が御辭儀をすると云ふので、是程立派なことはないと思ふと云ふので、まあ非常に自慢であります。

自己の天命
を知らねば
ならぬ

が、併し茲に考慮を要することは誰でもそんなに仕事が出来るかと思ふとさうではない。其人に祕傳を教はつて、行つたら斯う云ふやうに言つて、斯う云ふやうにしろと言はれて、其通りやつても顔付が違ふともう向ふの感じが違ふ。例へば私の所へ就職したいと言つて頼んで來る人があつて、同じことを言つて來てもどうもあの人にはよささうだ、何とかして取つて見たいと思ふ人もあるし、あいつはいかぬと思ふ人もある。若しさう云ふことが教はつて出来るものであれば、就職の時に學校で先生に教はつて置くとみんなが就職が出来ると云ふけれども、どうも是は斯うしろと教へても出来るものではない。自分の持ち味が何處にあるかと云ふことが即ち天命である。其自己の天命を知らなければならぬ。政黨員なら政黨員の中で同じ相當な地位になつても、天下の取れる人もあれば取れない人もある。

天命之謂性
率性之謂道
修道之謂教

支那では「天命之を性と謂ふ、性に率ふ之を道と謂ふ、道を修むる之を教と謂ふ」と云うて居るが、従ふと讀ませるのは恐らく間違ひで性をひきゆると讀みたい。天命之を性と云ふのは人の天から受けて居る命令が之が人の性質であると云ふので、今の言葉で言へば本能である。本能は初は色食は性なり、ものを食ふことゝ色氣、此二つが人間の本能です。食はなければ此身體が一月も保たない。それから色氣がなくなれば人間の種がすぐに盡きてしまつて地球上に人間がなくなつてしまふ。どう云ふ譯で人間が自己に生きて行かねばならぬか、また種族に生きて行かねばならぬかと云ふ理窟は判らぬが、兎に角其二つの色食と云ふ性があつて、地球上に微菌みたいに人間が殖えて來て居る。其初は恐らくは色食より外天命即ち本能と云ふ

ものはなかつた。それが段々やつて行く中に人間の仕事が多分化して文明が進んで来るに従つて本能も分化して来た。或は非常に數學のよく出来るやうな人も出来て来れば、非常に繪の上手な人も出来て来る。法律の方に向く頭の人でも出来て来れば、醫學の方に適する人も出て来ると云ふやうなことで、従つて其人々の働く運命と云ふものも政治家になるべき運命を有つて居る人もあれば、商賣人になつて國富を殖やすものもあれば、軍人に適して國を護る人もあり、官吏になつて全體を統率するやうな仕事に適する人もある。さう云ふやうな色々な性がある。其天性を「性に率ふ之を道と謂ふ」と言ふが、性に従つて本能の思ふが儘にやらしたらそれが道徳だと云ふのならば、それはデバ、龜なんかは非常な道徳家になります。けれども、さう云ふ譯には行かないのであります。國民には色々な性がある。色々な性を有つて居る人民をそれを統制調節して、恰度軍隊を率ゐて歩くやうに歩くべき道を作ることが道なのである。その道を修養することが即ち教育であると、斯う云ふやうに中庸は説いて居るのであります。さう云ふやうに人には色々な性がある、其性に適する所に行かなければ駄目なのである。

私の知つて居る教員の方が言つたことがあります。自分が中學校で教へて居つた子供にどうにも學科が出来なくて苦勞に苦勞をして漸く卒業させた、此處まで引摺つて来て置いて卒業させないと云ふ譯にも行かぬからと言つて、擔當の教師に頼み廻つて六十點づつ貰つて漸く卒業したらば、其生徒が京都に行つて、或る美術學校に入ると云ふと特待給費生になつてしまつて、非常に偉い大家になつてしまつた。學校に居る中にはさう云ふ特性があると云ふことが分らなかつた。圖畫と云ふ科目はあるが餘り目立つ科目でないから繪は少し位上手に描けても、中學では英語をさしても數學をさしてもみんな駄目だから、是は、べ、け、だ、べ、け、だ

自己の適所
を發見せよ

學校教育は
知育偏重に
過ぎる

と思つて居つたが、併しそれが京都に出ると云ふと、美術の都であれだけ學生の寄つてる中で特待生で以て學資なんか皆學校で出して呉れるやうになつたので、先生びつくりしてしまつたと云ふ話をしたが、斯くの如く人には各々適する所がある。其適する所を自分で發見すると云ふことが諸君に取つては奉職口を求めよりよりもつと大きな仕事であると思ふ。今までは學校の中に入れて一つ機械でがら／＼と廻して大量生産されるやうなことを、少し極端かも知れぬけれども、やられて居つた。それが今度諸君が一人々々機械から離れて歩くのだ。どう云ふ方面へ自分が廻つたらよいかと云ふことを、先づ自己を發見しなければならぬ。殊に今までの日本では百姓の子は百姓に依つて教育され、大工の子は大工に依つて教育された。それが教育であつた。此頃は總て大きくなつた爲に、今でもそれは大工の子は大工をやる位のこととはやつて居るかも知れないが、百姓の子までが學校へ收容されて教育を受ける。さうすると云ふと人間の性質の中で知識と云ふ方面のことは學校で今までの親が教育した以上に非常に完全な知識を授けられる。完全どころではない、餘分のものまでも授けられて居るやうです。要らないことも大分稽古をして居る、學校を出て、これから諸君が社會の或る方面の仕事をしよと思ふと云ふと、随分學校で無駄なことを稽古したと思ふことがあるだらうと思ふ。知以外の情と意、此二つに就ては、親の所で稽古して居る時には、百姓は野良へ出て斯う云ふ風に種を蒔けました斯う云ふ風に田の草を取るんだと云ふことを教へて居る場合にも、親族とは斯う云ふ風に實際するものだ、村の人とは斯う云ふ風に實際するものだ、そんなことをしちやいかぬ、そんな意思の弱いことではどうするかと云ふので、毎日親の傍で知、情、意の三方面の教育を受けて居つたのが、學校へ来てしまふと云ふと知の方は一生懸命教へて居る、數學の先生は $(A+B)^2 = A^2 + 2AB + B^2$ と云ふやうなことを

保險會社員たらんとする人へ

を教へて居るのであるが、其間に感情がどうだとか、意思がどうだとか、そんなことは點數が付かない。操行なんと云ふやうな科目もあるがそれは怪しげなものです。

それだからして、諸君は學校さへよく出来ればそれで社會に出て、完全な人間になつて居ると思つて、社會に出て見ると云ふと、社會はそんなものではない。例へば、この法政大學の卒業生で我々の所に來て使つて呉れろと云ふ。成程學校の成績は非常によいけれども、聞いて見ると云ふと餘り人格がよくないさうだ、それで落第です。情操がいかぬと云ふことになれば、どんなに學校の點數がよくても落第。其次にはあれはどうも學校は八十點位だし、家庭もよし人格もよい人だが意思が弱い、あんなお坊ちゃんやうな人ではどうも此仕事は出来ないねと云ふので落第。社會は知識さへよければどんな泥棒する奴でも、どんな悪人でも意氣地なしでも知識の點數さへよければ使つて呉れる、そんなものと思つて居ると云ふと間違である。

だから我々の保險業なんかに従事して、殊に外交員なんかになつて成功しようと思ふならば情意の發達が十分でないといけない。第一に人の厭がるものを行つて厭がらせないやうに、さうして相當に其人を征服して來るには、堅固なる意思と熱がなくちやならぬ。それから又之に臨むのに唯智慧を以て、トリックを以てうまいことを言つて誤魔化して來ようと云ふのでは、一人や二人は取れるが、そんなことで仕事は決して出來やしない。私の所で名人と言はれる様な人は、必ず正直な、曾つてこればかりも嘘を言はない人である。お前は此間斯う言つたが違つて居るのぢやないか、と突込まれるやうなことは決して言はない。正直に會社に對しても、お客さんに對しても、極めて高尚な人格を有つて仕事をして居らねばならぬ。其人が凡ゆる方面で立派な人格者であるかどうかと云ふことまでは、私は試験しないから保證しないけれども、少くとも生

保險の外交員は殊に堅固な意思と高尚な人格がなければ成功しない

社會は習の外に情意の發達した者を求める

命保險の外交の仕事に於ては、實に立派な人格を有つて仕事をして居るのであります。それでなければ決して成功しませぬ。唯帳面つけや受取を書くのならば、或は少々人格が悪くても故意に嘘の受取などさへ書かなければ、大した間違ひはありませんが、社外に行つて一騎打で話をするには立派な人格の閃きと意思の閃きがなければ、向ふの人を征服して來ると云ふことは思ひも寄らぬことでもあります。

知・情・意の三つの中で學校で教育を受けて居る間は情意が兎角昔の教育よりも疎かになる。それは若い人自ら注意しなければならぬ。學校で知の教育さへ受けて居れば、其知識を受ける時間が過ぎれば、あとはベースボールか何かやつて時間を消して居ればよいと思つて居つてはいけません。今の學校ではどれだけ忠實な校長さんが居られても、今日のやうな澤山の生徒の人格を見てそれを直し、意思を導いて行くことは出来ないのですから、所謂師友と云ふ友の方で以て友人の間で相互に助合つて、貴様そんなことをしちやいかぬとかさう云ふ意思の弱いことではいかぬと云ふやうに相互に切磋琢磨して、どうしても直らないやうな悪い奴は學校は出さなくてもよいから皆で叩出してしまふ方がよい。さう云ふ奴が學校に居ることは學校の不名譽のみではない。朱に交れば赤くなる、人格の悪いものは自分等の非常な不名譽と不利益を持來するのである。さうして世の中の若い人がお互に情操教育、意思教育と云ふものを此上完全にして行けば、今日の此完全な知育と相俟つて日本のこれからと云ふものは、非常な立派な國民が出来て行くだらうと思ふが、どうも我々が見ると云ふと、その二つの點に於て非常な缺點が、今の教育制度にはありやしないかと思ふのであります。それがすぐに我々が使つて行く若い人の上に、即ち保險會社の事務員に其缺點が現れて來るのであります。

學校教育の缺陷

銀行と違つて保險會社では會社によつて加入者に有利か不利かの差が甚だしくある

殊に保險の外交——御承知の通りに三十以上も保險會社がある。是は銀行なんかだと云ふと第一銀行でも住友銀行でも三井銀行でも三菱銀行でも一年据置で百圓預けますと云ふと、では利子を三步何厘つけます、一年經つて取りに御出なさいと言ふので、何處に預けて置いても一厘も違はない、元金も戻して呉れるし、利子も同じに呉れる。唯私は三井が好きだ、三菱が好きだと云つて預ける方が違ふだけです。ところが保險會社は近頃どの會社でも相互主義と云ふものを採りまして、今は法律上の形式から言へば株式會社と相互會社とは全く違つて居つて、一つは營利團體であり、一つは會員組織だから違ふが、營業をして居る事業の性質から言へば、どつちも相互主義である。即ち保險料を皆から預かる、それを運轉して事業をして一年の間に支拂ふべきものを支拂ひ、それで残つたものゝ中で是だけは残して置かなければこれから先、満期になつた時拂ふ金がないと云ふものを計算して残して置いて、是だけは今年餘つたと云ふ金が出来、それが出来る、と云ふと今日の銀行などはみんな株主に持つて行く、所が保險會社だけは、株式會社では株主も利益の一部を取るが大部分は加入者に返へす。會員組織の會社では株主はありません、それは皆入つて居る人に戻す、今年は是だけ残りましたから今までお掛けになつた保險料に對して何歩の配當をしてお返ししますと言ふ風に戻す。唯その戻す方法が皆同一ではない。どの會社が良い悪いなんと言ふことは私の口からは言へないこととすし、又なか／＼判斷し難いこととありますが、併し極く良い會社と悪い會社と較べれば非常な開きがあることは明かである。それはまあどれが良いとも言へませぬけれども、兎に角甲乙がある。各社とも玄人の中では凡そ分つて居る。どの會社が今日本では一番加入者に有利だと云ふことが分つて居る。然るに假に茲に居られる諸君が皆保險の外交員になられたと假定して、三十社に分れて就職したとすれば

餘りよくない會社へ入社した外交員の立場は同情すべきものがある

自分の居る會社は餘り良い會社ぢやない、それではお客様の所に行つて、僕の會社は餘り良い會社ではないが入つて下さいと言つて勧めるか。そんなことを言へば誰も入つては呉れない。それで今の人格問題になりますと、お客様を騙すか或は會社を鞭撻して、これぢやいけません、もう少し會社を整理して他の會社に遜色のないだけの、入つて居る人としては外の會社と違はないだけの利益があると云ふことにして呉れなければ働けません、と斯う云はなければなりません。それから良い會社の人、一番二番三番位までは或は此處が一番良いと腹から信じて居る人もあるかも知れぬけれども、二十番目、三十番目の會社の人でも私の會社の此の保險の種類へお入りになれば一番徳なんだと仰しやるでせう。其處にどうもインチキを加味したがるのでありますから、必ずしも各社の中にさう云ふ悪い人が居ると云ふことを私の口からは言へないが、保險の外交の仕事をするに云ふことになれば自分は此の會社の仕事ならばやつても宜しいと云ふ自信を以て而して後當らぬと非常に氣持の悪い仕事をしなければならぬ。さう云ふ仕事であるから、入つた人が後から段々事情が分つて來ると云ふと「俺が入つて居る會社と兄弟の入つて居る會社とは非常に違ふ、これはあの外交員にすつかり騙されてしまった、保險外交員と云ふものは實に喰へないものだ」かう云ふことが根源になつて保險外交員と云ふものは嘘つきと云ふやうな評判を得たのだらうと思ひますが、外交員の立場に同情して見ますと云ふと、さう云ふ有利でないものを有利だとして入らせた會社の重役とか、會社自體が悪いので、外交員の立場には非常に同情しなければならぬのであります。だから會社を選んで従事なされれば保險外交員と云ふものは男性的な氣持の宜い仕事である。やつて見ていけなければ是は何時まで噛付いてやる仕事ではないから早く自分の適する所に行くか、或は會社自體に忠告して之を改良した方が宜い。

内勤は餘り
發展の望み
がない

保險會社員たらんとする人へ

一一〇

それから保險會社の内勤員になつて一生帳面付けをしたり、受取を書いたりしようと云ふ人があれば、是もおやりになつても宜いが、是は今の狀況では餘り前途に發展の望みがないと云ふことを覺悟してかゝらねばなりません。是が私の保險會社員たらんとする人へと云ふ御話であります。

(昭和九年十一月十九日 法政大學講堂に於て)

書記的職業の従事員たらんとする人へ

東京商工會議所書記長 經濟學博士 木村 増太郎

是非性格に適應した職業を選べ——景氣の動向を察して就職の可能性を研究せよ——小會社個人商店に發展性がある——獨立して一つの事業をやつて見よ——海外に行つてゐる人々の性格はスポイルされ勝ちだ——海外で辛棒がしきれない——海外發展には十二分の決心を以て——就職のコツは一押し二押し——履歴書は綺麗丁寧に書け——試験の目的は學力より人物の檢定にある——自己の特徴を發揮せよ——經濟常識を充分に養へ——實業方面ではどういふ人物を要求してゐるか——つまらぬ仕事でも眞面目にやることをモットーとせよ——其日に自分に與へられた仕事は其日の自分の天職である——就職戦線へは明朗にして確信を以て當れ

諸君が卒業後職を御求めになるにつきまして第一に念頭に置かなければならぬと思ひます事は、どういふ方面に向つて行つたら宜からうかといふ點だらうと考へます。勿論近年のやうに就職難でありますといふと自分の思ふ方面に向つて行くといふことは中々容易ではありませんけれども、出來得る限り自分の性格に適應した方面に向つて行かれるといふことは、これは最も必要な事でありまして、後からも申し上げますが一旦職を得られて其職が偶々自分の性格に適應してゐなかつたが爲に遂に其職を棄てなければならぬ、即ち一時浪人しなければならぬと云つたやうな境遇に陥りますといふことは殆どイン

書記的職業の従事員たらんとする人へ

一一一

是非性格に
適應した職
業を選べ

ボツシブルと言つても宜い位に困難であります。これは私は長く學校に關係を致して居りまして色々お世話
を申し上げます。最初に職を得るよりか數倍若くは數十倍の困難を感じるのであります。其點を考へますと
いふと少々遅れましても成べく自分の性格に適應した職を選ばれるといふことが特に必要だらうと考へるの
であります。それにはどうしてもやはり自分の父兄なり或は先輩其他の方に相談せられるといふことが特に
必要であるのであります。どうも私共の經驗に依りますと、卒業間際になつて周章出して飛廻るといふ方
が非常に多いのであります。其點は遺憾に感ずるのであります。成べく不斷父兄先輩などと相談せられ
て、略々自分はどういふ方面に向つて進んで行つたならば最も自分の性格に適應して居るか、自分の特徴を
發揮出来るかといふ事を、やはり不斷から充分に研究せられるといふことが非常に必要ではなからうかと考
へるのであります。

それと同時に、主として私は實業界方面の事に就て申し上げますが、どういふ方面に向つたならば最も就
職の可能性があるかといふ事も同時に研究せられることが必要ではなからうかと考へるのであります。例へ
て申しますと、御承知のやうに昨年來多少就職率が良くなつて参りました。即ち經濟界が幾分か部分的で
はあります。が好況を呈して参つて來て居るのであります。でありますから勢ひ景氣の好い方面、即ち多く
人を要する方面に向つて運動せられることがやはり一番効果的であることは申上げるまでもないのでありま
して、さういふ方面を一應研究せられるといふことも必要であらうと考へます。即ち現在どういふ方面が景
氣が好いかと申しますれば、これはもう御承知でもありませんが、主として軍需關係方面並に輸出關係方面

景氣の動向
を察して就
職の可能性
を研究せよ

に景氣が現れて居るのであります。隨てさういふ方面に於きまして或は資本の増加、設備の擴大、或は會社
の新設といふことが昨年來可なり日本に現れて参つて來て居ります。殊に軍需關係の方面の如きに於きま
しては、長い間非常な悲境に陥つて居りまして何れの會社も従事員を極力淘汰致しまして、辛うじて會社を
維持し來つて居るやうなのが多かつたのであります。それが軍需品の製造が盛になりました關係上俄かに人
員の補充を行ふ、設備の擴張を行ふ、或は工場の新設を行ふといふことが現れて來て居るのであります。こ
隨てさういふ方面に於きまして自然多くの人を採用して居りますと同時に、採用致す上に於きましても言は
ば色々な方面に特徴のある人を採用する。例へば不景氣の時に於きますといふ人と人を採用致しても非常
に其の採用の條件が嚴重でありまして、體も良くなければならない、成績も優等でなければならぬ、性格
も斯ういふ性格でなければならぬといふ風に非常に條件が多いのであります。今申しますやうな一時に
多くの人を採らなければならぬと云つたやうな新設會社などに於きますと、自然其の條件が寛大になるとい
ふやうな點もありますので、旁々以てさういふ方面が何處にあるかといふことを一應御研究になることも必
要ではなからうかと考へるのであります。尙殊に軍需品にも關係がありますが、化學工業方面に於て著しき
發展が日本に今現はれて居るのであります。例へば今迄日本で到底勃興することが出来ないままで謂はれて
居りました曹達工業といふやうなものが一昨年の暮頃から非常な勢ひで發展致して居ります。どん／＼工場
も出來て居りますし、又既設の工場も非常な勢ひで擴大されて居りまして、莫大な曹達がイギリスあたりか
ら輸入されて居りましたのが、昨年來今年になりまして殆ど日本で自給出来るといふやうな状態にまでなつ
て來て居るのであります。此の曹達に關聯致しまして例へば硝子工業、板硝子と云つたやうなものに於きま

しても、元は日本では輸入品であつたのでありますが、現在では有数な輸出品に變つて參つて居るのであります。隨てさういふ方面では勢ひいやでも人を殖さなければならぬといふ状態に陥つて居ります。それから又輸出工業方面に於きましても、御承知の通りに今迄のやうな纖維工業品のみではなくして、雜貨工業品といふものが非常な勢ひで發展して參つて來て居るのであります。殊にこれは主として名古屋、大阪方面でありますが、新しい工場がどん／＼殖えて參つて居ります。でありますからさういふ方面を一應御調べになつて、若しさういふ方面に自分の性格が適應して居るならば、成べくさういふ方面に職を求められるといふことが効果的だらうと考へるのであります。

唯だ併し茲に一言御參考までに申上げて置きたいと考へますのは、よく今迄私などが就職の依頼を受けますといふと、多くの方は總て大會社大銀行といふことを目指されるのであります。勿論小さな商店や會社へ入るより大きな會社へ入る方が大體に於て安全であります。又仕事の上から申しましても大體派手であり、でありますからさういふ方面を希望せられるのは、これは無理からぬことではありますけれども、必しも諸君の前途に對して發展の餘地があるといふのは大會社ばかりではないのであります。寧ろ或は却て小さな會社や個人の商店などに於きまして一層大きな發展性を持ち得るといふことも考へられるのであります。そこはやはり一應其の入らんとする會社なり商店なりの色々な内情も調べて見なければなりませんけれども、必ずしも大會社大銀行のみが諸君の將來にとつて有望であるとは言へないので、寧ろ反對の場合などもあるといふことも御參考までに申上げて置きたいと思ひます。

尙此頃よく私自身が相當勸めて實驗致したのであります。學校を出られてから直ぐ手近かな例へば小賣

小會社個人
商店に發展
性がある

獨立して一
つの事業を
やつて見よ

業をやつて見るとか何か實際の仕事をやつて見るといふやうな方がぼつ／＼殖えて來て居るのであります。勿論失敗した例もありますが、私の見て居る限りに於きましては成功して居る例が比較的が多いのであります。私はよく卒業する方に言ふのであります。三井や三菱に入るのは勿論世間體はよいかも知れないけれども、大體に於て入るといふと極く一部のピース・ワークしかやらされない。どうせ組織立つたさういふ大きな會社に於きましては社員のやる仕事といふものは非常な部分的に勢ひなつて居るのであります。自然大學を出られてさういふ會社へ入られても毎日執る所の事務といふものは極く小さなピース・ワークなのであります。殆ど學校でやつて來た事が何等利用されるといふやうなことはないのであります。誰でもやれる、小學校の卒業生でもやれると云つたやうな實につまらぬデスク・ワークをやらせられるのであります。さういふ仕事を少くとも一年二年位やらせて段々複雑な事務をやらせられるやうになるのであります。御承知のやうに非常に大きな會社になればなる程澤山の人を使つて居りますから、自分の實際の特徴が重役なり課長なりから認められて意義のあるやうな仕事をやらせられるには餘程の年數を要する。昔は大學を出て十年も経つと、直ぐ課長になれたものでありますけれども、今は中々課長にはなれない、何時迄もクレークとして言はゞつまらぬ仕事をやらせられるといふことは大體に於て覺悟しなければならぬ。さういふ生活をするよりか寧ろ何でも構はぬから自分のリスクで以て何か一つ仕事をして見たらどうかといふことを私は勧めるのであります。これは勿論其人の性格境遇によつて一概には言へませぬ。さういふ方面に適した人と適しない人とあります。又色々の境遇の關係もありますから總ての人に對してさういふことを勧めるわけには行きませぬけれども、それも諸君の進んで行く一つの途ではなからうか、可なりさういふ方面に向つ

て僅か四、五年の間に相當成功した人も私の世話した人であるのであります。これも御参考までに申上げて置きます。さういふ方面の生活が向いて居る、或は趣味を有つて居るといふ人は境遇が許すならばさういふ方面に向つて行くといふことも面白い方法ではなからうかと考へるのであります。つまらぬことではありませんが、例へば小さな店でも小賣商をやつて見る。中々今日日本では御承知のやうに小賣商が多過ぎるのであります。何れの小賣業も非常に窮境に立つて居ります。さういふ方面に向つて行くといふことは非常な無謀のやうではあります。併し何故日本の小賣商がさういふ窮境に立つて居るかと申しますと、之には色々な原因はあります。一つは誰でも何等の素養なくして極く僅かな資本で小賣業といふものは營むことが出来るものである、人に使はれて奴隸的な地位に立つより寧ろ自分で何かやつて所謂經濟上獨立の社會的地位を得た方が宜い、それになるには今言ふやうに何等の素養を必要としないといふ誤つた觀察から小賣業を始める人が非常に多いのであります。これが一つは小賣業が自ら滅びる原因を自分で作つて居るのであります。所が學校を出られた方が小賣業者になると流石はやはり教育があるだけにプランを立てゝやられる一般小賣商が考へ及ばぬやうな事を自分で考へ出すといふやうなことがありますので、案外にさういふ方面に向つて成功する人があるのであります。でありますから斯ういふ方面に向つて行かれるといふことも、其の人によつて有意義ではなからうかといふことを私は痛切に實驗して考へて居りますので、御参考までに申上げて置きます。

海外に行つてゐる人々は性格がス

尚もう一つこれも序に私が辛い經驗を嘗めましたから御参考までに申上げて置きますが、海外へ出て一つ活動して見たいといふ方がよくあるのであります。私は大學を出ましてから約十二三年間海外生活を致しま

ポイルさん
勝ちだ

して、臺灣にも、支那にも、南洋方面にも住んだ經驗があるのであります。元は私は盛に青年諸君の海外へ出ることを實は奨励をし自ら勧めたものであります。随分支那方面、南洋方面、遠くは南米方面へまでも人を世話した經驗を有つて居るのであります。實は此の方面について私は過去に於て随分人を世話致しまして非常な辛い經驗を有つて居るのであります。でありますから御参考までに申上げて置きます。と申しますのはどういふ辛い經驗かと申すと、大抵此の海外へ出られた方の、全部とは勿論申上げ悪いのであります。が、多くの方が海外へ出られてから何年かの生活をして居られる中に性格がスポイルせられるといふ經驗を有つて居るのであります。もう一つは長く辛抱出来ないで途中で歸つて来る、其爲に却つてあたり前途を無茶苦茶にしてしまふ、といふ二つの私は辛い經驗を今迄嘗めて居るのであります。と申しますのは、どうせ海外へ出るからには相當な決心をして皆出るのであります。兎角日本人は日本の内地が餘りに良過ぎると申しますか、氣候も比較的好く、山紫水明の景色もあり、殊に家族的な團欒生活に慣れて居るといふやうな點がやはり原因するだらうと思ひますが、多くの人は海外へ出ると非常に淋しくなる、即ちホームシックを起し易い。自然海外へ出るといふと自分は遠く親の膝下を離れて海外へ出て働いて居るからといふ點で以て氣を緩めると申しますか、そこに多少位の娛樂を取らなくては到底斯ういふ海外でやつて行けないといふ氣分を多くの人が持つのであります。これは諸君が例へば支那あたりへ旅行せられても感ぜられると思ひますが、大體支那あたりに行つて居られる若い方は贅澤をして居ります。自然さう云つた考からさういふ風に段知らず識らずに自分の生活がスポイルされるといふことになるのだらうと私は想像するのであります。さういふ點に於て私は今迄人を世話を致しまして非常な辛い經驗を屢々嘗めて居ります。中には遂に其爲に前

途を葬つた人も可なり自分で経験して居るのであります。

それと關聯致しましてどうも日本人は海外へ出るといふと辛抱し切れない。今から十數年前に私がシンガポールに當時農商務省と言つた時代に派遣されまして參つて居つたのでありますが、其時に日本の南洋發展の根據をシンガポールに作るといふ使命を帯びて參つて居つたのであります。丁度大正七八年の景氣の好い絶頂であつたのでありますが、其時に私は唯だ如何に吾々が向うへ參つて日本の資本をどん／＼向うへ投じて産業を開發するとか、或は日本の商品を紹介して貿易の發展を圖るといふことを調査研究し又其の紹介に努力して見たところで、結局仕事をする者は人である、人を一つ作らなければならぬ、それを作らなくては日本の南方發展といふことは出来ないといふ私は考を持ちまして、人を拵へようといふ考で毎年多い時には三十名、少い時には十二三名位前途有爲の青年を澤山の人の中から試験をして、選びまして約三年間そんな風に連れて參りました。向うで色々養成してそれ／＼本人の性格に適するやうに或は護謨園なり、椰子園なり、砂糖園なり、或は貿易商なり、それ／＼の方面へ其の人達を配つて人を植付けるといふ仕事を三年間やつて見たのでありますが、實はそれは私が非常の努力をしたに拘らず大體に於て失敗に終つたのであります。失敗に終つたといふのは今申しました二つの點から失敗に終つたのであります。最初日本で私がさういふ人を募集して連れて參ります時に本人は、自分はもう幼少の時代から南洋に憧れて居るので南洋は自分の最後の墳墓の地と考へて居る、死を決して行く決して日本へ歸つて來るやうなことはしないから是非連れて行つて呉れと非常に熱心なことを言ふので、これ位決心をして居るのならば大抵宜からうと思つて向うへ連れて行きますと、初めはさういふ勢でありますから非常に熱心に活動致しますが、半年なり一年經つと段

海外で辛
がしきれな
い

段故郷が戀しくなる、或は前申しましたやうに性格が段々スポイルされて來る、さもなかつたならば日本へ歸りたがるといふわけで、結局私は三年間に約六十人ばかりの青年を連れて參りまして非常な努力をしたに拘らず、それは十數年前であります、現在迄残つて働いて居る人は僅に二名しかないのであります、あとは皆日本へ歸つてしまつた。歸つた者はどうかと申しますと、どうせ南洋あたりへ行つて落付くことが出來なくて歸つて來た人間でありますから日本の社會では歓迎して呉れる筈はありませぬ。寧ろさういふ人間は排斥致します。却て何の爲に南洋へ行つたか、行つたが爲に全然其人の前途といふものが葬られてしまふといふ結果に陥つたのであります、そんな風で非常に辛い經驗を嘗めましたので、私は近年は青年諸君が海外へ行きたいと言ふと寧ろ止めるといふ態度を執つて居るのであります。止めると言ふと語弊がありますが餘程の決心を以て行つて戴きたいといふことを注意して居るのであります、どうも結果が悪い。

斯ういふ事を申しますと如何にも日本のやうに海外發展をしなければならぬ國に於て却て青年諸君の海外發展を阻止するやうな事を申上げるやうであります、唯だ私は今申しましたやうに、有爲な青年諸君の前途を誤らせたくないといふ考から御參考までに申上げるので、海外へ行きたいといふ方がありますれば是非行つて戴きたい、が其代り今申しますやうなことがありますので、十二分に決心して向うの事情を十二分に調べられて、苟も海外へ行つたからには二度と日本へ歸らぬといふ堅い決心を以て行つて戴きたいのであります。勿論今申します海外の中には臺灣とか朝鮮とか滿洲といふものは入らないのであります、これは御承知の如く殆ど日本内地と變りませぬから、臺灣や滿洲あたりへ行かれるのはこれは、日本内地に居られるのとちつとも變りはないのでありますからさういふ方面を除いての話であります、併しながら滿洲方面に

海外發展に
は十二分の
決心を以て

行かれるにつきましても大體に於てやはり相當の決心をして、滿洲で自分は骨を埋めるのであるといふ考を以て行かれることは必要であります。滿洲へ行つて例へば十年働いて日本へ歸つて來て其人が重要視されるかと申しますと、必ずしも重要視されませぬ。滿洲には滿洲の事情があるのでありますから、如何に有要の人でありましても日本へ歸つて來て重要視されるといふ場面は少い。殊に日本は人が餘つて居るのでありますから、滿洲へ行つて働くには一生滿洲で働くといふ決心を以て行かれることが必要であらうと思ふのであります。斯様に致しまして先づ諸君が學校を出られてから、どういふ方面へ向つて行つたらば宜いかといふ事を先づ研究せられることが第一着手だらうと思ひます。

そこで第二に、大體自分はどういふ方面へ向つて行かうといふ方針が決まりましたならば、其の方針に向つて全力を注ぐ。それには先程申しましたやうに、先づそれを決めるに父兄先輩に相談して決めるのでありますから、やはり父兄先輩の力を借りてさういふ方面へ進んで行く運動を開始せられるより外なからうと思ひます。其の運動につきましてはこれは色々な經驗のある方の御話が今迄あつたらうと考へますが、私をして言はしめますれば、要するに非常な熱を以て執拗く運動するといふより外はなからうかと考へます。例へば先輩を訪問して一回や二回行つて會へなかつたからと云つてそれで歸つて來るやうなことをやらないで、向うから少し嫌はれる位に執拗く訪問をする。要するに就職のこつと申しますか、運動の一番重要な點はやはり一に押し二に押しであつて、押し強く進むといふことより外に方法はなからうと考へます。殊に近年のやうに競争が激しいのでありますから、どうせ輪旋を頼まれるやうな方は一人や二人でない、數名或は十數名の人から頼まれて居るに決つて居るので、結局のところやはり熱心に運動をする人を世話するといふこと

就職のコツ
は一押し二
押し

にならざるを得ない。私共今迄經驗して居りますが、昨日も來て今日も亦來て實にうるさい男だと思ふのだけれども、餘り熱心に來られると自然其の熱心に絆されて無理でも其人を先に何處かへお世話をするといふことに自然なり勝ちになるのであつて、決して遠慮せられずに押強く運動せられるといふことが必要ではなからうかといふことをつくづく感ずるのであります。勿論これも遣方でありまして、向うの世話して貰ふ人の感情を害してさういふ人間は世話しないと云つたやうな、さういふ態度を執られることは餘程注意しなければなりません。兎に角熱があるといふことを示されるといふことが特に必要ではなからうかといふ事を私は感じて居る次第であります。

斯様にして段々自分の略々意に滿つるやうな方面に推薦なり紹介なりを得られて其の方面に愈々向つて行くことになられますれば、御承知の如く大體多くの所では採用試験とか銓衡試験とか云つたやうなものがあるのであります。會社により商店によつて違ひますが、大抵今日では履歷書が廻つて來るやうな所でありますれば決して一枚や二枚ではないので、數十名のもものが廻つて來ると見て宜からうと思ひます。多くの所で第一に履歷書なり成績證明書なりに依つて所謂書類銓衡を行ふといふのが多くの會社が執つて居る方法であります。書類銓衡を行ふ所でありますれば、自然履歷書の字が汚いとか書き方が亂暴であるといふ點が一番禁物でありまして、さういふ點に於て銓衡する會社も少くないのであります。綺麗な字を書いた履歷書だけを殘して亂暴な字を書いた履歷書は皆捨てしまふといふやうな銓衡方針を執つて居る會社もあります。でありますから履歷書は成べく綺麗に書くといふことは勿論必要であります。

それから試験を受けるのであります。これはやはり會社銀行によつて區々であります。大體に於て

履歷書は綺麗
可憐に書
け

試験の目的
は學力より
人物の檢定
にある

書記的職業の従事員たらんとする人へ

一三二

其人の學力を見るといふよりか人物を見るといふ試験が多くの會社銀行に於て行はれて居るのであります。勿論御承知のやうに筆記試験をして學力を調べることにありますけれども、それはやはり何處か答案に依つて其人の人物を見たいといふことに重きを置いて居るのであります。學力は大體に於て學校の成績に依つて判斷出來ますから態々試験して見なくても宜いので、要は寧ろ人物を見たいのであります。でありますから其點に注意するといふことが必要ではなからうか。妙な例であります、斯ういふ例が昨年ありました、或る會社でやはり採用試験を致しました。一度に二百人ばかりの人が參つたのであります、机の上に答案用紙を乗せて置いた、會社の方で態々其の答案用紙を裏返しに載せて置いたのであります、所が其の裏返しの答案用紙を表に返して答を書いた者はたつた二人しかなかつた、あとの百十人は裏のまゝ書いた。勿論表に返して書いた二人は無條件で採用されたのであります。さういふ會社があるのであります。如何に其の人が注意深いか、自分の會社では成べく注意深い人を探りたいといふことを考へた時にはさういふ試験方法を執るのであります。多くの人は學校の試験と同様に、出た問題に對して適當の答をしたら及第すると思つて行つた人が多かつた。會社ではさうではなくして、如何に注意深い人であるかといふことを主眼に試験したいと思つて態々今申しましたやうに答案紙を裏返して置いた、所が皆そのまゝ書いてしまつたといふやうなことがあるのであります、會社にもよるのであります、多くは人物を見たいといふ所に主眼を置いて居るといふことをやはり豫め御考へになつて置くことが必要であらうと思ふのであります。決して學校の試験の様に對して完全に答へるといふことが必ずしも主眼ではないのであります。よく人物試験には大抵君は何故此の會社を志願して來たか、君の趣味は何であるか、酒を飲むか、煙草を喫むか、カフェーへ行く

か、といふやうな事を何處の會社でも訊くのであります、さういふ質問に對してやはり學校で試験を受けると同じやうに考へて、何かそれに對して正當な答をしなければならぬ、間違つた答をしてはならない、向うの氣に入つた答をしなければならぬといふことに囚はれる方が多いのであります。勿論さういふ答をする必要もありません、中には却つてさういふ問に對して、知らない事をはつきり知らないと答へる、酒は飲むかと問はれればはつきり自分は飲みます、煙草を喫むかと問はれれば煙草は自分は非常に好きだ、さういふやうに自分の事を率直に答へて採用されたといふ例は澤山あるのであります。會社にもよりますけれども、却てさういふ場合に學校の試験と同じやうに考へないで餘り問題にこだわらないといふことが必要ではなからうかといふ事を私共は今迄經驗上考へさせられて居るのであります。これはやはり採用する會社の方針にもよることありますが、採る方と致しましては何か會社に役立つ人を間に合ふ人を、というて採らうとして居るのであります。でありますから、どうせ人間でありますからさう完全な性格を有つて居るわけはない、善い點のある人程缺點があります。これはどうしても人間といふものはさういふものであつて、長所のある人程必ず一方に非常に大きな缺點を有つて居る。さういふ點は苟も會社で人を採用するといふやうな經驗を有つて居る人から見れば十二分に分つて居る事でありまして、成べくさういふ長所があれば其の長所を使つて行きたい、寧ろ平凡な人よりか、缺點があつても長所のある人を探つて其人の長所を會社が利用して行きたいといふ所に採用の主眼があるのでありますから、自分の缺點は缺點で明ら様に現はして、其代り自分の長所も發揮するといふことに努めるといふ事が必要であらうと思ふのであります。どうも多くの今迄の例に依りますと、採用試験の時には學校の試験と同じやうに考へてさういふやうに答案を筆記試験で

書記的職業の従事員たらんとする人へ

一三三

も口頭試験でも爲されようと努めるといふのが、學生諸君の一般を通じての點であるやうに考へられるのでありますから、これも御參考までに申上げて置きます。

隨て之に關聯してありますが、やはり何等か特徴を發揮すると申しますか、何か自分の特徴といふものをそこに有つて其の特徴を示すといふことが必要ではなからうかといふことを感ずるのであります。此頃御承知の運動の選手が無條件で就職出来るといふこともやはり一つは特徴があるからであります、よく近頃私共が經驗する所に依りますと、私自身もさうであります、此頃多くの學生諸君は字が汚い、下手であるノートを書くのに亂暴な癖が付いて居りますので字が汚い。字が綺麗とか巧いといふことが此頃非常に就職の條件になるので、さういふ點だけで職を得ることが出来たといふ例があるのであります。でありますから何かそこに自分の特徴といふものを見出して其の特徴を示すといふ風に努められるといふことが必要であらうと考へます。どういふ特徴を會社銀行あたりの實業界で求めて居るかといふ事に就きましては後に申しませんが、成べく採用試験などを受けられる場合に於てもさういふ心掛で試験を受けられるといふことが必要であらうと考へます。

自己の特徴を發揮せよ

それから勿論採用試験に出ます所の問題は會社によつては随分むづかしい問題を出す所もあります、大體に於てはやはり寧ろ常識の試験といふことに重きを置いて居る會社銀行が多いのであります、殊に會社銀行などに於きましては何處まで此人が經濟常識を有つて居るかといふことを多くは試験するのであります。所が却てさういふ當然誰でも知らなくちやならないやうな經濟常識に於て採用試験に失敗する例が非常に多いのであります。澤山例があります、多くはせめて新聞でも常に注意して見て居れば當然出來ない

筈はないやうな問題が出來なかつたといふ例も多いので、大體に於て新聞の經濟面を毎日相當注意して讀んでさへ居れば失敗することのないやうな問題が多いのであります。中にはむづかしい問題を出す所もありますけれども、それは何等か向うでも考があつて出して居るのであります、多くは經濟常識に就て試験する場合がありますのでありますから、始終新聞の經濟面を注意して讀んで居られるといふことが必要だらうと考へます。これは私は單に採用試験を受けるばかりではない、やはり經濟界に直接關係して世の中に立つて行く限りに於ては新聞の經濟記事位は始終見て經濟常識を絶えず養つて置くといふことは、當然必要であると考へるのであります。よく諸君の中では雑誌なども『改造』あたりに出るやうなむづかしい事を讀んで居るけれども、却つて卑近な新聞記事などに出る事を讀んでゐないといふことから、折角好い成績で出ながら採用試験に外れたといふ例が今迄あるのであります。成べく新聞の經濟記事を能く讀んで置くことが必要であると考へます。

それから最後に、一體それでは實業界方面ではどういふ人物を要求して居るのか、どんな特徴があつたらば實業界に歡迎されて就職戦線を突破することが出来るかと申しますと、これも會社銀行によつて多少違ひますが、大體斯ういふ風な特徴があれば實業界では喜んで歡迎すると私は考へるのであります。第一が快活であつて朗かな氣分を有つてゐるといふやうな性格を有つた人間が歡迎されます。これが特徴の一つです。第二は極くものを綿密に考へて計畫的な頭を有つて居ると云つたやうな、さういふ特徴を有つて居る人がやはり歡迎されます。第三には極めて趣味が豊かであつて人に好感を持たれると云つたやうな、さういふ性格も歡迎されます。第四にはやはり之に多少似寄つた點であります、社交的な性格を有つて居るといふ

實業界方面ではどういふ人物を要求してゐる

ことも歓迎されます。次には如何にも責任感が強い、義務の觀念が發達して居ると云つたやうな感じを持たれる人も歓迎されます。それから又何でも總てものにこだはらない、極く率直な性格を有つた人、何等腹の中に蟠りのない偽りのない、俗に竹を割つたといふやうな極く率直な性格を有つて居るといふことも一つの特徴だらうと考へます。それから又先程申した例に當るのでありますが、非常に細心であつて注意深い、一言一句も忽せにしないと云つたやうな、さういふ周到な注意力を有つて居ると云つたやうな、さういふ性格もやはり特徴の一つになると考へます。其他尙あるだらうと思ひますが、一寸思付いた點を申しますと以上申上げたやうな、さういふ性格を有つた人間で、どれか一つに當つて居る人間であるといふ感じを向うに與へるといふことが必要であるのでありまして、大體以上のやうな性格の何れか一つの特徴でも有つて居れば採用しようといふ方面に於ては、此の人間は何處かに間に合ふ、自分の會社で使つても何等かきつと其の特徴を發揮することがあるだらうと考へる、隨て採用試験にパス出来る、さう見て差支なからうと私は考へます。だから成べくやはり以上申したやうな點に於て自分の性格がどの方面に最も近いか、どの方面に中つて居るかといふことは諸君の方でも自分の事ですから分りますからして、其の特徴を寧ろ採用試験に於て發揮するやうに努めるといふことが採用試験をパスするについて必要と考へます。先程申したやうに、向うの間に對して正確の答をするよりか自分の有つて居る特徴を答に依つて向うに示すといふことに努めた方が私は却て採用試験にパスする條件でなからうかと考へて居るのであります。先程申しましたやうに、さう人間といふものは總ての點に於て優れて居るわけではないのでありまして、何處かに缺點があれば長所も隠れて居るのでありますから、其の缺點を隠す必要はない、缺點は缺點で隠さないと同時に自分の長所を明かに現はす

といふことに努めるといふことが必要であると考へます。でありますから決して人物試験などに於て固くならないやうにしなければならぬ。多くの人は固くなる、固くなるが爲に以上申すやうな何處かに適合するやうな特徴を有つて居りながら遂に其の特徴を示すことが出来ないで歸つて來るといふ方が寧ろ多いではなからうか。多くは唯だ學校の試験と同じやうな正當な答案を出すことのみ苦心して試験に失敗するといふやうな例が非常に多いではないかと私は常に感じて居るのであります。

それからもう一つ、これも先程申した中へ入りますが、これは寧ろ就職してから後に於て努めなければならぬ點であるかと考へますので申上げますが、以上申すやうに何か特徴のある人を成べく採用したいといふのは、これは採用する側としては當然であります。と申してもさう特徴のあるといふ人は中々ない。又簡単な人物試験などに依つて其人の特徴を發見するといふことも容易でない。でありますから採用する方に見ますと、さう自分の氣に入つた特徴のある人のみを採用することは困難であるといふことになつて來るのであります。大體概括して申しますと、採用する方に見ますれば、與へられた仕事を自分の天職であるといふ風に考へてそれを何處迄も眞面目に一生懸命にやつて呉れる人といふことは先づ概括的に採用する方で最も希望する點なのであります。特に其人の長所特徴が無くとも與へられた仕事を眞面目にやつて呉れるといふ人が欲しいといふことが、これがどんな會社、どんな銀行、有ゆる實業界を通じて一般的に要求して居る點だらうと考へます。勿論これも特徴の一つになるのでありまして、先程申したやうなつまらぬ仕事を言付かつて其の仕事が自分の天から授かつた天職であるといふ考で一生懸命其の仕事に従事するといふことも、やはりこれは一つの特徴であるには違ひないのであります。これはどんな方面でも要求する

つまらぬ仕事でも眞面目にやることをモット
とせよ

點でありまして、此點だけは特に諸君に於てもよく心掛けられて居ることが必要であると考へられるのであります。學校を出て職に就かれても其の氣分さへ持つて進んで行かれたならば兎に角世の中といふものを立派に渡つて行くことが出来る。これは何でもない事でありませうけれども、中々容易に行ひ難い點でありまして、殊に専門學校大學の教育を受けて社會へ出まして小僧上りの人間と一緒に机を並べて小學校の卒業生でも出来るやうなつまらぬ仕事を授けられて其の仕事を一年も半年も孜々としてやつて行くといふことは容易でないであります。勢ひそこに不平も出る、不満も出る、といふことになるのでありまして、それを一生懸命になつて自分の天職であるといふ風に考へてやるといふことは言ふべくして行ひ難いのでありまして、それをやるといふことも其人の特徴といふことにもなるのでありまして、これが殊に實業界に於ては總てを通じて要求して居る點であるのであります。これさへやり通せば社會は立派に渡つて行ける。

大體私は社會を渡る上に於て一番モットーとして有つて居るべき事は、總て其日の自分に與へられたる仕事といふものは其日の自分の天職であるといふやうに考へて最善の努力をして行くといふことが世の中を渡つて行く上に於て第一のモットーとして行かなければならぬ事と考へて居るのであります。それが出来る人ならばどういふ方面に向つて行きましても必ず地位が求められる。又さういふ人ならば決して社會は捨て置かない。社會は必ずさういふ人を利用して行く、隨て其人はグン、グン、上へ昇つて行く人であるといふ風に自分は考へて居ります。でありますから其點だけは一つ就職に當つても特に心掛けて居られることが必要ではなからうかといふやうな事を私は痛感致して居るのであります。

大體以上で私が今迄狭い範圍でありながら就職問題に運動も致しお世話も致しまして感じて居ります點

「其日に自分に與へられた仕事は其日の自分の天職である」

就職戦線へは明朗にして確信を以て當れ

を略々申上げたつもりであります。要するに段々卒業が近くなつて來ますといふと、凡そ諸君なども氣が氣でないだらうと考へられるので、自然不斷朗かな方も憂鬱にならざるを得ないのであるが、併し餘り此の就職といふ事に神經を悩まされたが爲に却て自分の有つて居る特徴も先程申しましたやうに先方に示すことも出来ないで失敗に終るといふやうな例がありますから、さう餘り此の問題について神經質にならないやうに。何とか自分の過去に修めて來た所の學力知識を以て努力して行つたならば自分の前途は開き得るといふ一つの確信を以て就職戦線に向つて行かれたならばおのづからそこに途が開かれるだらうと考へます。決して神經質にならないやうに。それになりますと先程申したやうな採用試験にも失敗するといふことになるので、大體世の中といふものは自分で自分の力を信じて努力さへして行けば必ず前途を開き得るのであります。これは世の中に出て職を得られてから後に於ても同じでありますが、殊に諸君などは今から社會に出ようといふのでありまして、昔の私共が大學を出た時分には全然就職難の心配はなかつたのでありますから朗かな氣持で大學を出たものであります。又法科大學などを出る者は今にも大臣になるやうな確信を以て出たものでありますから、過去に於て各大學を出た者がやはり社會に於て相當の地位を占めて居られるといふのはさういふ意氣込を以て進んで來られたからであらうと思ひます。諸君に於てかれましたも充分に自信を持たれ又充分の努力を以て、必ず自分の前途を開くことが出来るといふ確信を有つて朗かな氣分で就職戦線を突破せられんことを希望致しまして私の話を終ることに致します。

(昭和九年十一月二十四日 大隈講堂に於て)

百貨店及一般商店員たらんとする人へ

三越常務取締役 北田内藏 司

學生時代に語學を勉強しておき度い——百貨店も小賣商である——百貨店希望者に轉向を奨める——穂積博士が卒業生への餞とされる鳩翁道話の一節——百貨店小賣店での勤務は中々うるさい——小賣業についての理解が乏しい——面倒な問題が多々ある——物を賣るのは物を製造するよりも難しい——どんな人が向くか——眞面目で常識に富む——サーピスにウィットが必要——健康で人好きのする人が適する——餘りに粉飾を施すな——眼鏡も好ましくない——金齒も好ましくない——小賣業の精神——再び鳩翁道話の一節——サーピスの精神は國家社會を裨益するにある

私共日々百貨店の如き休の少ない仕事に従事して居る者は豫め用意をして皆様に御話申し上げたいと存じ、多少は取調も致す積りでありましたが、つい忙しいのに追はれて碌な取調べも出来ませぬ。殊に私自分の體験から申上げるのですが、どうも自分は學生時代を割合に無爲に過して居つた、其の罰を今受けて居るのだと思ひます。先づ最初にそれを皆様に告白しなければならぬやうに存じます。といふのは私なども第二國語として、獨逸語とか、佛蘭西語などを勉強すれば出来たでせうのに、これを好い加減にやつて居たので、今日獨逸語でも讀むことになる、片つ端から辭書を引かなければならない状態であります。唯僅

百貨店及一般商店員たらんとする人へ

學生時代に
語學を勉強
しておき度
い

かに英語の書物がかす、位に讀める程度で、而もこれは日本の文字を讀むのと違つてどうも臆劫である、随つて何かの取調も面倒になります。もう少し學生時代に此方面を勉強して置けば宜かつたと感ずるのであります。今日皆様に御目にかゝり自分の學生時代を回顧して此告白を申上げて置きます。これは私が多少皆さん方よりも年を取つて居つて、而も若い時代にもう少し勉強して置けば宜かつたといふ懺悔を申上げ、皆さん方が氣の毒だと御察察を與へられんことを希望すると同時に、何かの御参考にでもなればと思つて、先づ此懺悔を致して置く次第でございます。

私は百貨店の仕事に従事をして居る者でありまして、所謂小賣商のことは本當に其の實際を知つて居らぬのであります。併しながら百貨店も小賣業の一つである。何か此の頃小賣商と百貨店といふものは、對立的のものであるやうに云はれて居りますけれども、事實に於て小賣業の中の百貨店と、その他法人組織に依る或は個人經營に依る小賣業と、小賣業たることに於ては皆一つのものであると思ふのであります。随て私が自分の従事して居ります所の百貨店の御話を申し上げますが、それは即ち一般小賣業のことに付ても同様であるといふ積りで御聞き願ひ度いと存じます。

毎年卒業間際になりますと、各高等専門學校及び大學の卒業生で、私共友人とか親類先の者とかいふさう云ふ關係の方が私の所に参りまして、屢々尋ねられることとあります。「一つ私は百貨店のやうな所に行つて仕事をして見たい、百貨店の仕事なら出来ると思ふ、どうでございませうか」と私の意見を求められるのであります。其の時に私は斯う言つて御返答を致して居ります。「百貨店にお出でにならうといふことも宜いかも知れぬけれども、まあ百貨店は止したらどうです。百貨店の仕事といふものはそんなに宜いものではあ

百貨店も小賣商である

百貨店希望者に轉向を奨める

りませぬ。どうも仕事の性質が五月蠅くて、私自身はどういふ廻り合せか斯ういふ仕事に従事して居るから仕方がないが、貴方が此の百貨店の仕事に行くといふことは賛成しない。それよりもつと男らしい仕事をやつたらどうか、製造工場のやうな所へ参つて、さうして製品の改善を圖るとか、工場の經營をインプルーヴして行くとかいふことは、これは洵に男らしい仕事ではないか。又銀行或は信託業、さういふ所に入つて資金運用の研究、又延いて日本の經濟といふやうな方面に貢獻することも宜いのではないか。又商業にしても、小賣よりはもつと國際的に大きな商賣の出来る所の會社が澤山ある。さういふやうな所に行つて大いに國産品の輸出とか、貿易振興の爲に努力するとか、さういつたやうな理想で働いて行く方が男らしくて、本當に將來仕事の仕甲斐があるだらう」斯う申して良く考へることを御奨め致すのが常であります。

此の間或る會で穂積男爵に御目に掛りました。其節男爵は帝大を卒業して實社會に出て行く人達に對して屢々斯ういふことを申します、と言つて御話されましたが、それは定めし皆様の中にも直接御話を聽かれたり、或は御讀みになつて、御承知になつて居られる方があらうと思ひますが、徳川の末期頃に出來ました「鳩翁道話」といふ、卑近な道話の本がありますが、能く世道人心に付ての教訓を書いたものであります。其の中にある一つの物語を先生はこれから實社會に出て行く人に對して教へ、又讀むことを奨められて居るさうであります。それはどんなことが書いてあるかと申すと、私も正確には申上げ兼ねるのですが、大體の要領は、非常に偏屈なお爺さんと、口喧しいお婆さんの夫婦が居て、そこへ養子を迎へるのですが、爺さんが偏屈で、婆さんが口喧しいと來て居るので、度々養子を迎へたが、どの養子も皆勤まらない。所が茲に一人其の養子の志願者があつて、聞けばどうもあそこの家はあの偏屈爺と、口喧し屋の婆さんが居て、養子は

穂積博士が
卒業生への
饒とされる
鳩翁道話の
一節

皆いびり出されてしまふといふが、俺が一つあそこの養子になつてやらう、それ程喧しいといふ所に俺が辛抱したといふことになれば、定めし近郷、近村の人々も、その辛抱強さに對して敬意を拂ふやうになるだらう、俺が行つてやらうといふので、そこへ口を掛けました。丁度前の養子を追ひ出した後であつたのでせう早速話が決つて養子として乗り込んで行つた。所が成程前の何人もの養子が出て行つたのも無理はない、これは迎も敵はぬ、爺は因業で偏屈で、そこへ以て来て婆さんが口喧しくて、これは迎も居堪られない、自分は大變な決心をして來たのではあるが、もう迎も勤まりさうもない、今日は一つ仲人の所に行かうか、明日は里へ引上げようかと苦慮して居つた所へ、お爺さんの頼んだ建具屋がやつて來た。新しい障子を持つて來て、それを敷居と鴨居の間に嵌める様子を見て居つた。さうすると建具屋が初めは障子の上の方を切つてそれに鉋をかける、又下の方を削つて鉋をかける、それで障子を立て、見て具合が悪いと、又上を削り、下を削つて、到頭建付良く障子を嵌めてしまつた。其の養子さんが煙草を吸ひながら癡つとそれを見て居て、はあ、成程これだといふことに氣付いた。俺は此の家に外から入つて來た者だから、丁度障子の立場にある、偏屈な爺ではあるが、あの爺さんは鴨居だ、口喧しい婆さんではあるが、あれは此處の家の敷居だ。障子の上下を切つたり削つたりして嵌まるやうにしなければ、障子が鴨居と敷居の間には嵌らぬ。若し持つて來た儘で障子を嵌めようとするれば、敷居をほじくつたり、鴨居の溝をもつと深くしたりしなければならぬ、これはどうも無理だ、やはり障子の上下を旨く何とかしなければならぬ。斯ういふことを悟りまして、其の養子さんはそれから辛抱の臍を固めて、後は圓滿に相續するやうになつたといふ話であります。これを穂積先生は、學窓を出て何處かへ就職される人々に話される。即ち君達が行つた先で、面白くない奴が上に居たり、

下の奴が妙に小生意氣なことを言つていびつたりすることがあらう、併し君等は障子なんだから、鴨居や敷居をさう無暗に叩き毀す計畫をしてはいかぬ、障子である自分を削つて、上下に具合好く嵌めて行くやうにしなければならぬ、と教へられると言つて居られました、私は洵に面白い御話と承つた次第であります。

百貨店とか小賣店に行かれようとする人達に對して私が御止しなさい、もつと面白い仕事を御選びなさいといふ所以は、丁度此の障子の立場に對して、敷居や鴨居の他に、もつと面倒なものがあるといふことを私が考へて居るからであります。といふのは普通の會社、銀行へ御出でになる方々は、先づ大體敷居と鴨居の覺悟をして行かれ、ば宜いのであります、此の百貨店又は一般の小賣業に従事することになると、障子を鴨居と敷居に具合好く嵌めて行くといふばかりでなく、もつと其前後左右に置かれる色々の調度、小道具と調子を合せて行かなければならぬからであります。其處に衝立が置いてあつたり、或は衣箱があり、或は棚が脇にあるとか、さういふものに對して障子の釣合がどうであるかを考へなければならぬ。さういふことが敷居、鴨居以上にあるが故に、普通の會社、銀行へ御勤めになるよりは、百貨店に御勤めになる方が五月蠅い、上下だけでなく前後にもさういふものがあるのだといふ點に於て、百貨店なんかを御選びになることを御奨めしない譯であります。其の調度とか小道具といふのは一體何のことを言ふか。それは申す迄もなく、百貨店若くは小賣店は寄せ來たる所の御客様を相手にしなければならぬ立場にあると云ふことでもあります。其の御客様には色々の種類の方が現はれて來る。而して中々勝手我儘を言はれることがあります。我儘に對して調子を旨く合せて行くことは、これは普通一般の會社奉公をなさるよりは、更に餘計な小姑が着いて居ると御考へになつて宜いと思ふのであります。であるからそんな所に行かずに、もつと面倒の妙い

百貨店小賣
店での勤務
は中々うる
さい

所に御出でになることを御奨め致して居るのであります。

百貨店若くは小賣店の仕事に従事しようといふ御考へで御出でになれる方の中には、能く小賣業といふものゝ立場、小賣業の如何なるものであるかといふことに付て、御研究になつて居らずに小賣業の仕事はさう大したものではない、まあ一寸見た所相當に店の具合なども綺麗になつて居るし、勤めて居る人にして小ざつぱりした風をして居る、年頃の女店員なども相當居るし、大變華かである。あれ位の仕事なら大抵誰でも出来るだらう、一つ自分もやつて見ようか。斯ういふ風に簡単に御考へになつて居る方が相當にありません。永年學校で御勉強なさつて、實社會のことをさう御存じにならない方々が、さう御考へになることは無理もないと思ひます。分別盛りの能く世間の事情の分つた人達でも、小賣業といふものはそんなに難しいものではないと舐めて掛つて、小賣店を御始めになる人が少くないやうであります。此の大東京市になりましてから、約十六萬の小賣店が、皆百貨店の重壓に苦しんで居るといふやうな新聞記事なども見ますが、實際から申しますと、現在百貨店は皆様も御承知の如く、東京市中にさう澤山はありませぬ。さうして其の百貨店の全部が悉く利益を擧げて、好成績に益々發展して居るといふやうな状態ではないのであります。商賣の性質上表面華かに力み返つて大丈夫であるといふやうな顔をして居るけれども、中々其の内實は随分苦心されて居る所もあるやうであります。それであるから強ち百貨店が皆榮えて、多數の小賣店が其の重壓に苦しむといふやうなことは決してないと思ひます。各自の店をどういふ風に經營して行かうか。どう云ふ特長を出して行かうか。どう云ふ點に努力を用ひて行かうかといふやうなことの考察、研究を十分せずには始められたり又は營業して居る人が、此の十六萬人の中に尠くないやうであります。無論代々特殊の商品を以て營業

小賣業につ
いての理解
が乏しい

を繼續されて居るものも、其の中には澤山ありませうが、東京市の膨脹に伴ひまして、段々に増加して行きます所此の多數の小賣店の中には、極めて簡単に小賣屋の仕事考へて、従事されて居る人があるやうに思ふのであります。例へば退役官吏の方が恩給を貰つて居る。細々家族と暮して行くには差支ないがそれだけでは少し物足らぬ、遊び半分に一つ何か店でも始めて見ようか、斯ういふやうな人があるかと思へば、主人は相當な會社に永年勤めて居つたが不幸にして亡くなつた。そこで未亡人が、子供を養ひながら遊んで居られぬからして、片手間に化粧品屋でも始めて見ようかといふやうな程度の方も、可成り此の小賣業者の中にあるのであります。斯ういふやうな方が一年か一年半商賣をやつて参りまして、どうも何だか餘り儲かつて居らぬやうだ、さうして居る中に結局品物を供給する間屋への拂ひが出来ないことになつてしまつて、後の商品が續かない、そんなに物が賣れなくて、開店當時の商品が棚の上に置いてあり、サツパリ動かずに鼠の足跡が付いて居るといふやうなことで、一寸も振はない、どうした譯だ、いやそれは市の中心に百貨店のやうな大きなものが蔓つて居るから、御客は皆其方へ行つてしまふ、だからあなた方の所は利益が薄く、折角始めた商賣が旨く行かぬのだ、と斯ういふ風に簡単に其原因を片付けるやうな傾向があります。相當分別のある人でさへも小賣業といふものに付ての理解が割合にないと言つても差支へないと思ふ。一體自分が今始めようとして居る商賣は果して成立つてあらうか、其商賣を始める爲にはどれ程の資本を投下しなければならぬであらうか、資本を投じたならば、それから生ずる利益は一體幾ら位は出さねばならぬか、果して此の町の繁榮さに於てそれだけの品物が賣れるであらうか、附近の購買力はどうか、同業者はどんな風に近所にあるか、さういつたやうな問題に付ての考察を怠つて、好い加減に商賣を始めて苦しんで居

面倒な問題
が多々ある

る方が實際に多いやうであります。

百貨店は、皆様も御覽の如く相當に其の組織が大きくなつて居つて、販賣の戦線と申しますか、商品の上から申して非常に澤山の種類の物を扱ひ、廣範圍にこれを販賣するといふことになつて居りますから、其の内部に於ける組織、商品の動き、資金の廻轉といふことは申す迄もなく、其の外人事の統制といふやうなことに付きましても、可成り面倒な問題があるのであります。隨てさういふことに付ては、百貨店若くは小賣店に付て相當の考へを有つた方が其の商賣の衝に當つて、これを經營して行くのでなければならぬと私共は考へて居るのであります。皆さんが御覽の如く、唯此の販賣戦線に於て物を賣つて居るといふだけのことでありますれば、或程度迄は機械でも出来るし、又女子や子供の手に間に合ふのであります。アメリカあたりでは、百貨店とか小賣屋の賣手は、その八十パーセント位まで女である、唯二十パーセントが男でなければならぬ特殊の仕事、若くは首脳部にあつて經營に従事して居るといふやうなことであります。日本でも給料の問題を考へます時に、普通販賣戦線を守るだけの人は、成べく經濟的な人を使ひたいといふ希望から、どうしても女子の店員が増して來るといふやうな傾向になつて居ります。現在東京の百貨店でも、多い所は七割までとは行かぬやうであるが、六割何分位の所までは女の店員を使用して居る様であります。即ち此の普通の賣場の状態から言へば、ジャック・オブ・オール・トレードとでも申しませうか、どの商賣にでも向くやうな人があれば、其の人で間に合せて行けるといふ譯であります。それでは百貨店の仕事には人材は要らぬのかと申すと、中々さうではないのであります。相當に専門の教育を受けた人を要するフキールドがかなりあると私共は考へて居るのであります。

物を賣るの
は物を製造
するよりも
難しい

物を賣るといふことは、樂な仕事ではない。英吉利にセルブリツヂといふ百貨店がありますが、其處の經營者のゴールドン・セルブリツヂといふ方などは、約二十五年程前にアメリカからイギリスに渡つて、ロンドンのオックスフォード・ストリートと申す、東京の銀座街のやうな所に店を開き、今日は大きな一プロツクの店を作り上げた人でありますが、此の人などは言つて居ります。物を賣ることは、物を製造することよりは難しい。物を製造するだけのことならばそれ程面倒ではない、機械の工程を決めて、材料を當てがいそれを動かさへすれば、どん／＼品物が出るのであるが其品物を多くの人に販賣して行くことは中々難しいことである、骨の折れることであると言つて居ります。世界的大勢から申しまして、歐羅巴大戦までは生産時代であり、其の後は分配の時代に入つたのである。殊に今日世界の非常時に於ては、此の分配の問題が特に各方面に於て苦慮され、研究されて居るのであります。

それでは一體どういふやうな人が「百貨店及一般商店員」として向くであらうかといふことになるが、正直であるとか、眞面目であることは、これは無論必要なことであります。不正直な人を紹介して、此の人は不正直なるが故に是非君の店に入れて呉れと言つて來る人は何處にもないことである。但し眞面目といふことに付ては先程も申上げたやうに、調度や小道具との釣合を取つて行くといふ立場にあるので、即ち多くの御客を相手にして行くといふ立場にありますので、几帳面な唯眞面目だけでは、少々物足りないのであります。相當に眞面目であつても常識的でなければならぬと思ひます。

面白い話があります、或る小學校の先生の所へ、入學志望者がやつて來て、それを一々先生が引見して、お父さんの商賣とか、年齢とか、家族の状態とかを訊かれた。そこで或る子供さんと呼んで、君の所のお父

百貨店及一般商店員たらんとする人へ

どんな人が
向くか
眞面目で常
識に富む

さんの商賣は何かと言つて尋ねた所が、其の子供は「年寄です」と答へた。「いやお父さんの商賣を尋ねて居るのです、商賣は何ですか。」「年寄です。」「年を取つて居ることは分つて居る、お父さんの仕事を尋ねて居るのだから、其の仕事を言へば宜いのです。」「年寄です。」「何回尋ねても同じことなんで、到頭其の日は先生はどういふ譯か見當が着かずに終つた。それで後で同僚に、「どうも分らぬ子供が居たものだ、お父さんの職業を尋ねると、年寄だ、年寄だと言ふ。其の子供は長男だから、さうお父さんが年寄だとも思はれない、どういふ譯だらう」と云うた所が「それは君が年寄といふのを知らないからだ、年寄といふ商賣があるのだ。」「そんな商賣は何處にあるのだ。」「相撲には年寄といふ役がある。」「斯ういふことであります。これは其の先生が、年寄といふ特殊な商賣があるのを知らなかつた。それが爲に子供の答が分らなかつた。これは常識としては少々無理な注文であるかも知れないけれども、これ位の常識は備へて居りませぬと、此の小賣といふことに従事される方としては、これは物足らぬやうに思ふのであります。

さうして又相當のウイットと申しますか、頓智もなければ和やかな人と人のタツチが出来ぬ。これが小賣商賣の上で最も大切なことであらうと思ひます。それは即ち吾々の商賣の立場からよく言ふ所の、サービスに關係するからであります。唯サービス／＼と言つても、カフエーに行つてサービスが宜いとか悪いとか、あそこはサービスが悪い、怪しからぬといふやうなことで、サービスといふ言葉はよく使はれて居りますが、小賣業に従事する者は能く此のサービスを諒解して行かなければならぬことであります。どんなことがサービスか、吾々の立場から言へば、詰り客に對して出来るだけの手助けをする、出来るだけの勤めをして上げる、斯ういふ考へで行けば宜いのだ、と私共は平たく店員杯に申して居ります。所が中々さういふ考へを有

サービスに
ウイットが
必要

つて行きましたも、小賣屋の仕事といふものは、其處に衝立であるとか、衣桁であるとか、火鉢であるとかいふやうなものが、素直に嵌らうとする障子に色々ぶつかつて来るやうなことがあります。即ち店が大きいければ大きいだけ、御客様は期待されることが多くて、色々と要求をされる。隨て可成り我慢のならぬ、腹の蟲を抑へ兼ねるやうな無理難題も、時々言はれることを覺悟して置かなければならぬのであります。一體これは日本ばかりでなく、何處でもさうであります。商ひをする立場と、物を買ひに来る立場とは、賣るから買ひに来る、欲しいといふから賣つて差上げるといふのだから、謂はゞ殆ど平等であるべきであります。すけれども、實際はさうはいかぬのであつて、御客が物を買ひに来る場合には、暴威と申すと少し言ひ過ぎるかも知れないが、中々我儘なことを言ふ、さうして無理を強ひるといふのが普通である。隨て供給する側の側も、それと對等に行けば直ぐ喧嘩になつてしまふ、其の喧嘩になるやうな所を忍び、さうして供給する者の任務を盡して行くといふことが、小賣業者には必要なものであります。例へば見方に依つて随分嫌だと思ふやうな場合があります。吾々のやうな商賣を致して居ると、色々な商品を扱つて居る關係上、履物のやうなもの、靴も賣つて居る。そこへ御客様が来て、新しい靴を買つて履く、足に合ふか合はぬかを試すやうな場合に、其の手助けも敢て辭せない覺悟で居なければならぬ、そこでちやんと靴を揃へて履いて貰つて、其の紐を結んで、御具合は如何でございますかといふやうなことは、吾々の商賣の上から當然やらなければならぬ。見方に依ると、人の汚い靴を取つてやつて、さうして新しい靴を履かせて、その紐まで結ぶ、六尺の男子の面目何處にありやといふ風に考へると、逆も居ても立つても居られぬ、物を買つて呉れるから御客だが、買つてさへ貰はなければ對等だ、面倒臭い賣らないから外に出て呉れと言ひたい所ではありますが、商賣

はさうは行きませぬ。古い帽子を被つて来て、新しい帽子を買ふ。お客が俺の被つて来た帽子を包んで呉れと言はれる。もう随分古くなつたものであつて、それに其の人の頭の禿げ具合が何だか病氣らしく、帽子に黴菌でも着いて居るのではないかと思はれる其の帽子を持つるさへも氣持が悪いといふやうな時でも、其の帽子を汚なさうに指で摘んで取つたりなんかすると、これは御客の心證を非常に害することになる。随て汚いけれども我慢をして、少しも汚くないやうな顔をして包んで差上げる、これもやはり忍耐しなければ出来ぬことでもあります。斯ういふやうなことは唯形の上のことでもありますけれども、中には大學、専門學校を卒業した方でも、店に立つて居られると、客は皆同じやうに店の人で、誰が偉いのか、誰が高等の教育を受けて居られるのか分らないものですから、少しもお構ひなく、「おいこら」といふやうなことで、相當な立場にある人でも呼ばれる。呼ばれたならば御答へして、「何か御用でございますか」と、此方が下手に出て行かなければならぬ。もつと強いになると、君でも分るか、と云うて侮辱的な態度で話される場合もある。苟くも高等専門の教育を受けられた方が、何か擔任されて居る其の賣場で、若くは仕事について居る時に、見ず知らずの人間が来て、君にも分るかとは侮辱も甚しいことだ、斯ういふ所に我慢が出来るものではないと憤慨されるやうでは、此の仕事は出来ないのであります。先程から私が諄く申上げて居るやうですが、斯ういふやうなことにも堪へなければならぬといふことが、此の小賣業に従事する者の煩ひである。百貨店に入店することはお止しなさいと私が言ふ所以が此處にあるのであります。

健康で人好
きのする人
が適当

次に申上げたいことは、健康でなければならぬといふことであります。勤務時間が比較的長く而もオープン・エアーに出ないのでありますから、餘程健康な身體の持ち主でも常に健康に注意して行かなければならぬのであります。それでは健康な人であり、さうして綺麗な人でないといけないか知らん。店内が華やかだから、そこに釣合ふやうな華やかさを持つた、所謂シヤンな男でなければならぬか。女の人でもシヤンであり、男の人でもシヤンでなければいかぬか、私共は別に理想としてもさうなければならぬとは考へて居りませぬ。一面から申しますると、餘り綺麗な人や別嬪さんは、そこに又伴ふ弊害がありますから、特に綺麗な人、特に好男子を希望は致さぬのであります。要は馴染み易い人でありたい。英語で申しますれば、エミリアブルとでも申しまするか、人好きのする、馴付き易い人であつて欲しい。立派な人であつても、とつ付きにくい、何か見識を有つて居られて傍へも寄れぬといふのでは、吾々の商賣には不向きであります。馴染み易い、人の接し易い人、近寄り易い人といふことに、私共は標的を置いて宜いと信じて居ります。

それから、小賣屋の仕事に従事する者は、成べく自然に近い形であつて欲しい。女が恐しく粉飾を加へて居るのは、無論好ましいことではありません。成べく自然の美、其の儘であつて宜いと思ふのである。男もさうであります。無論粉飾を施す必要はない。唯々私が憎まれ口を言ひたいのは、昔から小賣屋に従事する人には眼鏡が好ましくないのであります。私共子供の時代には、どうもあの人は偉さうに眼鏡なんぞ掛けて居ると言つたことを記憶して居るのであります。此の眼鏡の事は日本人として、御同様近頃軽々に看過出来ないやうに思ふのであります。此の間も新聞に日本では眼鏡を掛ける若い方が非常に多くなつたといふことを、發表して居りました。それによると大正七年の文部省の調べでありますが、小學校の生徒の百人の中、男の子が十七人、女の子が二十人、眼鏡を掛けて居る。中學校では三十六人。高等女學校では三十八人。専門學校になりますと、男四十五人で女が四十九人。帝大では、これは正確なことは言つて居りませぬが、

餘りに粉飾
を施すな
眼鏡も好ま
しくない

百貨店及一般商店員たらんとする人へ

百人中の約六十人が眼鏡を掛けて居ると云ふことであります。これは日本の文化が急激に進んで来た爲に、色々な影響、刺戟が吾々の體質に及んで、日本人全體の眼に斯ういふ結果を來したのだらうと思ひます。昔はこんなに眼鏡を掛けた人はなかつたやうであります。無論年とつての老眼は、これはどうもお醫者さんに聞きましても、四十二歳かを境にして目玉の度が狂つて來るんださうであります、私などは先づ御勘辨を願へると存じて居りますが、大體昔よりも今日の方が眼鏡を掛ける方が多くなつて來たといふことは、國民健康の將來のことを考へて、單なる小賣店とか百貨店とかの店員の問題だけでなく、大いに考慮しなければならぬことゝ存するのであります。併し從來お掛けになつて相當の度に進んで居る方は、俄に取外すことは、出來ないことでありますから、決してそれをお勧めする次第ではありませぬが、御同様に注意して、若い間に又度の弱い間に自然に立歸る方法はないものであらうか。例へば此の頃御勉強なさる書物の字は非常に小さい。昔の四書五經などは菜種油の灯の下で讀んでもちやんと讀める位の大きさのものであつた。さういふ點から今は眼を酷使するといふ嫌ひがある。私の素人考へでありますけれども、或る程度のもものは、休みの時に青々とした原っぱのやうな所に出るか、廣々とした海岸へ出るかして遠くを眺めるとか、空を望むとかさういふやうなことは何等か効果はないものであらうかと考へる次第であります。

金齒も好ましくない

それともう一つ憎まれ口を言つて置きたいのは齒であります。お差障りがあつたらどうぞ御勘辨を願ひたいのであります。此頃金齒を入れて居る方が中々多いのであります。文明が進むに従ひ砂糖の消費量が殖える。さうすると齒醫者が繁昌する、これは亞米利加あたりが一番ひどいせう。デンティストが一番進んで居るのは亞米利加ださうであります。近頃、お若い方でも中々金齒を入れてゐらつしやる。それも一本ならず二本、三本と、表の齒を惜し氣もなく金齒にして居られるのであります。役者が力味んで物を云ふ時に口の中でチカツと光りがするから、何かと思ふと金齒が入れてあるといふやうなことは、藝術の爲に考へて欲しいと思ひます。前齒を三本も四本も入れて、人間離れのしたやうなことをするのは、餘り好ましいことでない様と思ひます。之も、もう少し自然に近寄らせる様、金以外のものを用ふることが必要ではないか、餘計なことまで心配するやうでありますけれども、私はさう考へて居ります。齒醫者の話を聞くと、日本で齒へ詰める爲に使ふ金の量が年額約千二百萬圓ださうであります。千二百萬圓が齒のキャップとかブリツヂとか充填に用ひられる譯であります。この千二百萬圓といふのはどういふ數かといふと、産金奨勵がない前の普通の年の日本の金の總産額だといふことであります。或は數字的に少し誤りがあるかも知れませぬが、少く共日本の平年に於ける——産金奨勵前の一年の産額は、日本人の齒の手當の爲に放り込まれてしまふといふことであります。今日の時勢では、此の齒の中へ入れらるべきゴールドを適當に保存することが國家の爲にも必要であると考へます。それは兎に角私が此處で申上げたいのは、斯ういふ特殊の加工をせずに、自然に近いやうな齒を持つて居て欲しい。若し齒の悪い方があるならば、それは無論治さなければなりません。ぬが、斯ういふ特に目立つ、人を刺戟するやうなことでなく、成べく父母から受けた、自然に近いやうなもので居て欲しいといふことであります。

尙ほ茲に私は一般小賣業、即ち一般百貨店を含む小賣業に従事する者として、精神的の方面から斯うありたいと希望することを一言申上げたいと思ふのであります。無論商賣をする立場からは、何でも出來るだけ物を賣つて、出來るだけ利益を得ることが其の目的であります。唯々品物を賣ればそれで宜い、どんな

小賣業の精神

手段方法でも構はぬといふ考へは、私共としては採らぬのであります。少く共品物を賣ることには於て國家社會を裨益するといふ建前で行かなければならぬと考へて居ります。無責任な宜い加減な、出鱈目な、所謂インチキな廣告を出して、行つて見ると其の廣告と實際と違つて居るやうな、さういふ商賣をすることは私共は好まないところであります。少く共若い諸君が此の方面に仕事をお求めになつて進まれるのならば、必ず此の點に御留意になつて行つて欲しいと思ふのであります。

先刻お話を致しました鳩翁道話といふのを又一つ繰出してお笑ひ草に申上げて見たいと思ひます。これは話が極めて尾籠でありますので、甚だ無駄とは存じますけれども、併し話としては面白いのであります。京の田舎のことで嵐山に程近い所でもあります。そこで春先きになると京の街から嵐山の花を見にぞろぞろ人がやつて来る。無論其の當時は彼處等も人家がさう櫛比して居らぬ、田甫が多かつたんでせう。百姓家がチラ／＼ある。其處へ辨當を持つて花見遊山に京の町の者が出て行く。ところが御承知の通り途中相當距離がありますから、どうも用を足さなければならぬ。男なら便宜取計らうでありませうが、女の方はどうも野外に於てさう便宜取計らうといふ譯に行かない、そこで或る頓智ある者が貸便所といふものを造つた。さうして一度の使用料三文と致しました。さうしたところが、途中で困つてどうしようかと思案をして来るやうな娘さんやお母さんが澤山あつたのでせう。中々繁昌した。これは八兵衛とか書いてありました。それを近所の百姓家の親爺が見て居つて、八兵衛の奴は旨いことをやりやがつたと思つて居りました。さうする中に次の年の春が近付いた。そこで八兵衛の隣の新たなプロモーターが女房に言ふには、一つ今年は八兵衛の向うを張つて貸雪隠の高等のやつを拵へようと思ふ。八兵衛の所は三文だつたから、俺の所はあんな好い

加減の掘立小屋でなく、總て入念に造作をする茶方好みで、北山丸太の代りに何とかを使ふとか、便所の縁は蠟塗りにするとかいふやうに、色々なむづかしいことがあるのであります。随つて資本も相當いるから、三文ではいかん、俺の所は八文でやらう。と云ふと女房は、隣の八兵衛さんは成功したけれども、其の隣へ持つて行つて八文では、ちよつと成功覺束ない。廢したら宜からうと言つたのでありますけれども、親爺さんは承知しない。俺には成算があるからやると言つて。工事をどん／＼進行させて出来上つた。さうして愈々花見時になる、京都からも續々人が来る様になりましたから、一回の使用料八文と書いて營業を開始したところがどうも成績が擧らぬ。隣の八兵衛のは三文であるから、ひつきりなしに繁昌して居るのに、此方の高等な方は一向に入らぬ。そこで女房が親爺に言ふには、それ見たことかわしが言はんこつちやない。八文なんて高いものぢや入る譯がない。駄目ぢやないかと言つて滯すといふと、親爺も一思案致しまして、いやわしは考へた、明日は一つ俺が京の得意廻りに行つて来る。だからお前は朝早く起きて辨當を拵へなさい。そこで女房も親爺がさう言ふんだから次の朝早く起きまして辨當の用意をする。さうすると親爺は首にそれを縛りつけて、さつさと出て行つた。出て行く時に、若しお客が餘り立て混んで来て溜つたならば、隣の九兵衛とかを頼んで汲取つて貰ひなさい。其の間を中入りにして置いて又營業を繼續しなさいと言つて行きました。出て行つてから、今日はどうかと思つて居ると、お客の出具合も好くて中々の人出。さうする中、初めに一人のお客が八文入れて這入つた。それからはひつきりなしにお客様が来る。成程親爺が言つたつたやうに、途中で非常に堆積して來ましたから、隣の九兵衛かを呼んで汲出しをやつて、其の間中入りの札を出して置いて、それから又更に札を建替へると、又どん／＼入る。盛に入る。さうして到頭隣の九兵衛

が五荷も汲出したといふ程成績を擧げて、八文づつが一日に八貫匁の収入になつた。そこで、女房が感心して、親爺は一體京の街でどういふ風に得意廻りをやつたらう。貸便所の八文のが新に出来たと云つて一軒一軒廻つたらうか、何しろ今日の成績は意外なものだ、親爺のプロバガンダの方法宜しきを得たと感心をして居るところへ親爺が歸つて来た。どうだつた。いやどうだつたどころではない。今日は朝からひつきりなしにお客様が来て、八貫匁も収入があつた。それにしてもあなたは京の街へ行つて得意先を廻つてえらいことだつたらうと話を致しますと、親爺が言ふには、いや、それは洵に結構だつた。併し俺は今朝出たんだが、何も京の街へ行つた譯ぢやない。家を出てから八兵衛の貸雪隠へ三文入れて、其の中へ入つてぢつと一日中に居つた。辨當も彼處の中で食つた。さうしてお客様が来るとエ、ヘン、と咳をして追拂ふ。それで今日は大分咽喉を傷めちやつた。一日かぶんで居つた爲に大分腰骨が痛くなつちやつた。斯ういふことが書いてあるのであります。如何に金が儲けたくとも、雪隠の中で辨當を食つて、一日中咳拂ひをして座つて居る根性は、見下げ果てたることではないかといふことを、此の道話に教へて居ると思ひます。

これは實に汚い話ではありませんけれども、商賣人に對する、良い訓へであると思つて、此處で皆さんに尾籠な話ではありますが、受賣りをする次第であります。商賣をするからと言つて、根性までも今申上げた親爺さんの如くなることは、これは吾々の最も慎まなければならないところでもあります。少くとも、其のサービスの精神は、國家社會を益し、所謂、フェア・プレーで毅然たる所がなければなりません。さうして仕事だけは、耐へ難きことまでも耐へるといふことに、腹を決めて行くことが必要であらうと思ひます。よく言ふ言葉でありますけれども、士魂商才、とは此の邊の事を云ふものと信じます。福澤諭吉先生の詩の中

サービスの
精神は國家
社會を裨益
するにある

に「其の心を伯夷にして、其の行ひを柳下惠とすべし」と言ふのがあります。即ち周の粟を喰はずと言つて薇を食つた、其の伯夷の精神、意氣を有つて、其の行爲は柳下惠がやるやうな卑しいことでも耐へよといふことである。これは士魂商才なるものを能く言ひ現して居るものだと思ふのであります。小賣店も、これは百貨店を含むのでありますが、随分と此の頃競争が激甚になつて参りました、自分の店の成績を擧げる爲には殆ど手段を擇ばないのではないかと思はれる程度に驀進して居るものが少くないやうであります。將來諸君の中に小賣業の方面に御進出のお方があるならば、願くば常に此の信念を突き通して行くことを御忘れにならぬ様希望致します。小賣業の存在は社會的の必要であり、其の貴さは經營者並に其の店員の信念にあることを御諒解願つて置きたいと存するのであります。

(昭和九年十一月二十四日 大隈會館に於て)

瓦斯・電氣・水道従事員たらんとする人へ

東京瓦斯株式會社取締役 神谷啓三

電氣事業といふもの——電氣事業の沿革——電氣事業の現状——公營にすべきか私營にすべきか——電氣事業への投資額——水力發電量——日本の發電量の現状——電氣は貯藏が出来ない——グリッドシステム——電氣事業の經營獨占性と保護監督——誤れる政策のため業界混亂す——漸くにして電力聯盟成り統制行はる——業績次第に立直る——電力需要の増加する冬の渇水期には火力を以て補ふ——渇水期は地方により異なる——瓦斯の沿革と發達の狀況——瓦斯會社の營業成績——瓦斯事業の現勢——瓦斯事業には統制監督が嚴重——親切丁寧快活に——特別な技能を鍊磨せよ

私の受持は「瓦斯・電氣・水道従業員たらんとする人へ」とありますが、實は私の經歷から申しますと、電氣の方と、瓦斯の方をやつて來てゐるんで、殊に瓦斯の方は未だ日も浅いので、主として電氣事業についてお話ししたいと思います。随つて、水道といふ方面については、殆ど知識がありませんので、主として、電氣と瓦斯といふことに極限をしたいと思います。

そこで、電氣事業と申しますと、通俗には、非常に廣く解釋されて居るやうであります。例へば、ラヂオの放送事業であるとか、それからモーターを造るとかいふやうなことも、電氣事業といふ風に呼ばれて居る

瓦斯・電氣・水道従業員たらんとする人へ

やうであります。私共の電気事業と申しますのは、所謂、「電気事業法」に定められたものを謂つて居るのであります。其規程に依りますと三つあるのでございます。

(一) が、一般の需要に應じ電氣を供給する事業——これが普通の所謂電燈事業で、動力を供給したり、電燈を点けたり、電熱を賣つたりする事業で、所謂、これは電氣供給事業と謂つて居るのであります。

(二) が、一般運送の用に供給するもので軌道・鐵道運送の動力に電氣を使用する事業——これが、まあ電鐵事業といふことになつて居ります。

(三) が、第一號又は前號の事業に電氣を供給する事業——これは、所謂電氣卸賣事業と謂つて居りますが、普通の電燈會社や、電車會社に電氣を賣つて居る事業であります。

此三つのものを電気事業法の上では、電気事業と謂つて居るのであります。其の内でも、電車の方は非常に数が少うございますし、大部分の投資は、電氣供給事業と電氣の卸賣事業に集中されて居りますから、此處では主として、電氣供給事業と卸賣事業を中心としてお話ししたいと思います。

そこで、電氣といふものは、何時から實用に供されたかといふと、電氣といふことについては随分古く、ホームーの詩の内にも電光の話があるやうでありますし、プラトンが琥珀に電氣が起きて、それが吸引力を云々して居ることもあるさうですが、そんなことは別にしまして、最近では、今から約百三十年位前にデービーといふ人が電燈を初めて燈けたらしいのであります。それからエヂソンが一八七七年——明治十年頃に、白金電球を作つて、それから次第に電燈事業が起き、日本では明治十八年に、藤岡博士が始めて僅か四十個

ばかりの電燈を銀行集會所の階上につけたのが嚆矢らしいのであります。それで仕事として成立つたのが、明治二十年に東京電燈が開業したのが初めてでありまして、最初は僅に七十五燈ばかりを一部に點燈したのであります。それから水力電氣は、明治二十四年に京都市が御承知の通り疏水工事をやる場合に、八十キロばかりの水力電氣を起しました。これが初めて、其後日露戦争後、殊に歐洲大戰時代には非常に發達しまして、今日の盛んな状態になつたのであります。

先づ、電氣事業といふものは、どれほど日本にあるかといふことから申し上げますが、それは遞信省で毎年出して居ります「電氣事業要覽」といふものがありますが、それに依りますと、昭和七年度末に電氣事業、即ち其電氣供給事業者といふのが六百八あるのであります。それから、電車と電燈を兼營して居るのが五十五、電車が百五十三、其の内縣のやつて居りますのが五つ、市營が十四、それから町村の組合でやつて居るのが十一、町營が二十二、村營が六十二、合せて公營が百十四あるのであります。それに對して、會社組織でやつて居るのが七百〇二あるわけであります。

が、この公營にするか、私營にするかといふことは、電氣事業について非常に議論をされて居るところでございます。外に於ても主として夫の電氣事業政策については、それが中心の問題になつて居るやうであります。大體アメリカでは、民營を主として居りますし、ドイツでは公營、或は公營でなくつても、市なり、縣なりが株を有つた會社を作つてやつて居るのであります。それからイギリスは、電燈事業・供給事業としては私營であります。主なる送電線を全部國營にしまして、それで以て國家が私營の發電所から電力を買つて、それを私營の供給事業に賣るといふことをやつて居るのであります。日本では、これが最近迄色

色議論がありましたけれども、結局、今年初めに青森縣が縣内の電氣事業を買収して、縣營にするといふことを出願して以來、電氣委員會で色々議論がありました。結局公營といふものは宜くない、主として私の仕事でやらせる必要があるといふことに決まつたやうであります。その理由は大したことはありませんが、電氣事業の如きを、例へば、縣の行政區域で以て區切つたりすることは宜くないが、縣營とか、市營とかといふことになれば、勢ひさういふことに成り勝ちなものであるから、成可く私營で以て行はせて、それを監督することが宜からうといふことに決まつたらしいのであります。随つて、此數年來、各所で市が買収するとか、縣が買収するとか、といふことで問題がありました。これから先は、それは認めないといふことに方針が決まつたやうであります。

然らば、日本の電氣事業が幾ら金を掛けて居るかと申しますと、固定資産が、昭和七年末の統計で見ますと、四十一億七千二百四十七萬五千圓といふ投資をして居るのであります。其のち、八年・九年の非常に盛んな電氣事業の發達の年を経て居りますから、恐らく只今では、五十億に近い投資をして居るだらうと思ひます。外の事業とどんな比較であるかと申しますと、例へば、日本では紡績事業とか、化學工業とかいふものが非常な發達をして居るやうであります。投資額から行くと殆んど比較にならないのであります。今年の一月に商工省の發表しました「會社統計表」に依りますと、これは會社だけのものではありますから、随つて遞信省の所謂電氣事業者全體とは違ひますが、合名、合資、株式會社等を總計致しまして會社經營の事業資本金は、農業が一億七千五百萬圓（一三七〇社）、水産業は一億四千九百萬圓（三〇九社）、鑛山業が九億五千萬圓（三八九社）、紡績業が十二億圓（三六二八社）、化學工業が十億圓（二一六三社）、瓦斯事業が二億七千

電氣事業への投資額

萬圓（八八社）、水道事業が一千五百萬圓（一七社）、電氣が二十五億圓（四八三社）といふことになつて居ります。ですから、斷然と離れて大きな投資をして居るわけでありまして、此電氣事業がどういふことになるかといふことは、我國にとつて非常に重大なるものであります。實はこれ迄の經營の實際を觀ますと、相當失敗の跡があるやうに思へるのであります。

そこで、日本では一體どの位電氣が起り得るか、主として水力であります。日本では御承知の通り、資源が非常に貧弱で、石炭の如きも、何んでも年に三千萬噸づつ出して居るならば、五十年で無くなるといふやうな數字が出て居るやうであります。随つて、此水力が——電氣に成る無價の水が豊富に出るやうになれば、非常に仕合であるわけですが、幸に日本では、國の大きさに比較して非常に水力が豊富なのであります。どんな數字かと言ひますと、これも今年六月發表のエレクトリカル・エンヂニアリングといふ雜誌に出て居ります數字を觀ますと、米國が四千萬キロワットの水力を發生し得る量がある、それから加奈陀が二千五百萬キロワット、日本が千百萬キロワット、瑞典が千百萬キロワット、佛蘭西が六百七十萬キロワット、獨逸が六百六萬キロワット、瑞西が六百萬キロワット、露西亞が四百五十萬キロワット、といふわけで、日本は世界の三番目の水力國であるわけであります。

そこで、今日は、どの位其の内で開發されて居るかと申しますと、千百萬キロワットの内の約四百二十萬キロワットだけしか開發されてゐないのであります。あと五百萬キロワットといふものは、これから開發することになるわけでありまして、それで御承知の通り電氣は、此水力の外に石炭を焚いて水を蒸氣にしたもので以て發電機を廻はす、所謂火力といふものもあるわけでありまして、日本では只今四百二十萬キロワット

瓦斯・電氣・水道従業員たらんとする人へ

水力發電量

日本の發電量の現状

トと申しましたが、其の内には最近に著手して居るものはひつて居りまして、實際運轉して居るのは三百十萬キロワット、そこで火力が百七十萬キロワットありますから、其の他を合せて四百九十三萬キロワット大體五百萬キロワットで以て日本の電氣事業が運行されて居るといふ現状になつて居ります。

そこで、電氣事業は非常な、只今申しました様に五十億圓からの投資が行はれまして國民經濟上重要な位置を占めて居るものであります。この特色と申しますか、電氣の性質の事について少し申し上げますが、電氣は非常に厄介な事は貯藏が出来ないので、これがまあ一番の缺點だらうと思ふのであります。瓦斯の如きは、御承知の通り、あの大きなタンクに、造つた物を貯めて置くといふことが出来ますが、電氣の方には蓄電池といふものもあるにはありますが、大量長時間の貯藏には未だ成功して居らないのであります。何んでも話を聴きますと、エヂソンが紐育の市街でGO・STOPの處でストップされた何百臺といふ自動車がつト臭い燃焼し切らないガソリンを放出して居るのを見て、非常に不經濟だといふので、直ちに研究所へ歸つて来て三十人ばかりの所員に各別に指導して至急研究する様に命じ、爾來數年それを研究したところが、遂にそれが只の一個も所期の成績を擧げ得なかつたといふ事實があります。又、名古屋の豊田佐吉氏が東京の帝大の工科に百萬圓寄附して、蓄電池を完成して呉れといふことを申出て、以來既に五ヶ年になりますが、今日まだ十分なものは出来ないであります。随つて、電氣といふものが色々な不經濟なことになりました。例へば、電氣は御承知の通り、電燈は主として夜だけ、それから動力は朝から晩まで使ふわけでありませんが、此動力に使ふ電氣が非常に澤山あります。それが夜中になりますと、殊に數年前から深夜業を廢止するといふことになりまして以來、夜中の電氣といふものは、殆ど大部分捨てることになつたのであります。これが蓄電が出来れば非常に結構なことであります。只今申上げる通り蓄電が困難で、ただ水力發電所に貯水池といふものを作りまして、水の要らない時には貯めて置くといふ方法を探つて居るのであります。

グリッド・システム

青森縣の縣營の事で申しましたが、一體行政區域か何んかで牆を設けて電氣事業を營むよりも、寧ろ或適當の地域を全體として統制せられたる事業區域にするといふことが非常に經濟のやうでございます。未だ日本では其處迄發達して居りませんが、イギリスとか、フランス邊りでは、グリッド・システムと申しまして全國をフランスは十ばかり、イギリスは八つに分けて、——グリッド、と申しますと、何んでも餅網のやうな網でございます、即ち大送電網區域を設定して、一地方一地方の固めを付けて、其の相互の間を連絡統制して供給するといふやり方でありまして、隨つて非常に經濟で、一地方で餘つた電力を、他の地方に送るといふやうに經濟的に運營が出来ますから、今の地域に限つて、東京なら東京だけで仕事をするといふことは不經濟で、只今の實際では、大阪・名古屋・東京の間は、大きな送電線で結ばれて居りまして、現に此間の大阪の風水害の時は、全部大阪の電氣は停つたのであります。其の時に大同電力の送電線が生きてゐたために名古屋の電氣が大阪に行き、中には一部分東京の電氣までが向うへ行つたといふことで、さういふ事が電氣事業の經營に非常に必要なことだらうと思ひます。

それから大きな資本を下ろして居るのであります。大きな資本を下ろすといふ場合には、經營を獨占させて保護監督をするといふ經濟的の必要が生じて来るわけでありまして、だから無闇に競争をさせて、同一地域に、同一目的の爲めに工作物を建設させるといふことは、不經濟極まるものでありますから、其獨占制と

瓦斯・電氣・水道従業員たらんとする人へ

電氣事業の經營獨占性と保護監督

いふものが電氣事業に必要なつて居る。是れが公共事業の特性の一つであります。それから資本の集中性が強い事も特色の一つでありまして、さつき約四十一億圓の昭和七年現在で投資があつたと申しましたが、其内でも、所謂、五大電力會社といふことを謂つて居りますが、東京電燈、宇治川電氣、東邦電力、それから日本電力、大同電力が即ちそれでありますが、これの投資して居る固定資産が、只今申しました、電氣事業全體の三分ノ一以上を占めて居るのであります。詰り、此五つで以て十二億五千萬圓投資して居る。随つて此會社の盛衰といふことは、日本の電氣事業の全體の盛衰に關するほどの大きな資本を擁して居りまして、同時に公稱資本も九億六千七百五十六萬二千圓といふ大きなものですから、株主が非常に澤山あります。此の企業の集中性と株式の分散性の關係を公共事業殊に電氣事業に就て御研究になつたら面白いだらうと存じます。又これに銀行家からも金を澤山貸して居るので、之等會社の盛衰が非常に大きな影響を日本の經濟界に及ぼすわけでありますが、是れについては、實は、非常に政策を誤つた結果、此五大電力會社が苦しんだわけであり、又同時に全體の電氣事業に對して經濟界から不信用を買つたといふ非常な失敗を來たしたのであります。

誤れる政策
のため業界
混亂す

それは、恰度大正七・八・九年といひますと、歐洲大戰で以てヨーロッパの商品が、東洋方面、南洋方面に來なくなつた爲めに、日本から非常な輸出をしたといふことを御承知だと思ひますが、其の爲めに、俄に日本の事業が勃興しまして、大正七年、八年といふやうな時には、其當時の電氣事業者では、到底供給し切れない程の需要が起つたのであります。今から考へて見ますと、非常な滑稽なことで、電氣事業法には電氣事業者は正當の事由あるに非れば電氣の供給を拒むことを得ずと規定し罰則さへも定めてあるのであります。

需要の激甚の爲め供給之れに伴はず或地方の如きは電燈一箇を引くの十圓のプレミアムが付いた、詰り、電燈を付けさせない爲めに十圓出してそれを讓つて貰ふといふやうなことがあつた。それから動力、一馬力に二百圓から三百圓といふ、これもプレミアムが付いたといふ時代がありました。此時代に只今申しました通り、其當時の事業者では到底仕事が生切れなくなつた。それに應ずるために、新しい資本で以て發電所を開発しなければならぬといふ状態になつたものでありますから、其當時野田卯太郎さんが遞信大臣であつたが、大きな水利權を中心いたしました日本水力、日本電力、木曾電氣といふものが新しく許可された。而もこれが甚だ滑稽なのは、例へば、宇治川電氣と日本電力は姉妹會社で、主として宇治川電氣が日本電力の株を有つて居る、木曾電氣は日本水力と合併しまして大同電力となつたのであります。此大同電力は、五大電力の内の東邦電力とは姉妹會社であつたわけでありますが、それで日本電力は宇治川電氣、大同電力は東邦電力の爲めに生まれた會社であります。雙方獨立して仕事を始めて行つた結果、妹であつたものは寧ろ敵に廻りまして、非常な争ひを起して、其親會社の爲めに開發する水力を以て、寧ろ親會社をいぢめるやうな結論に到達したのであります。と申しますのは、其水力電氣會社が電氣を造りまして、其所謂御賣會社なるものは供給區域といふものは有つてゐないのであります。供給區域といふものは所謂電燈會社の營業の特許條件でありまして、特に共同供給を認めてある例外を私共は特殊供給と呼んで居りますが、其他は絶對的の獨占的の營業區域を云ふのであります。それで親會社が子會社から電力を買ふといふ契約を有つて居りますが、謂はゞ、買手の方は、自主的に自由・自在に契約容量を定め値も値引が出来るといふやうな状態にあるものですから、其子會社即ち御賣會社がこれではいけないといふので、新しく需要の多い大阪とか

東京とか、名古屋とか、といふ方面へ、自分の供給の出来ることを得るやうな只今申上げた特殊供給の権利を出願したのであります。これが正當な考へを以て處理されると宜かつたのですが、これも今評判の悪い政黨の攻撃の一つになつて居りますが、政黨内閣の結果、或は政友會の時は、民政黨に近い會社の區域に向つて供給區域を許可するとかいふことになりまして、例へば、東京市の如きは、東京電燈の外に、日本電力、大同電力、それから宇治川電氣と三つが動力供給權を有つて居るのであります。それで、何時でも競争し得る状態にありまして、數年前には、日本電力が東京電燈に競争をしかけて、約四千萬圓からの送電線、發電所をつくつて攻撃を始めたのであります。それから、大同電力も最近新聞で御存じであらうと思ひますが、東電との電力供給契約についての争ひが生じ、これも東電に競争し得べき準備は將に着手されようとしたのであります。それから又、大阪方面に於きましては、これは主として大阪市とそれから宇治川電氣が供給區域を有つて居りますが、其處へ以て來て大同電力、日本電力が同じ供給權を有つて居りまして、現に日本電力の如きは、實際に供給して混亂したわけでありまして、それから、京都方面に於ても、同じく日本電力が供給區域を有つて居り、大同電力も供給區域を有つて居りまして、本來の一般供給權を有つて居る、京都電燈、京都市電邊りが、非常に苦杯を嘗めたことがあるのであります。それから名古屋のやうな次位の工業地でも、その本來の供給者東邦電力の外に、日本電力の供給區域があります。それから、矢作水力の供給區域にもなつて居ります。最近昭和四・五年の頃には、東京電燈までも供給區域を許可されたといふ始末で一時は非常に混亂を來たしたことがありました。斯うして競争するといふことは、要するに二重三重の建設をするといふことになりまして、電氣事業といふものは非常に苦しめられた。蝸ぢやありませんが、お互に

自分で自分の手を噛み、足を噛むといふやうな状態になつた。

現に東京市の如きは、ずつと昔の日本電燈と東京電燈と喧嘩したことは別問題にしまして、大正十五年頃から東京電力といふ會社と競争しまして、血塗ろの戦争をして、需要者に對して從來相當な値段で賣つて居つた電力も、非常な値引をしなければ買つて呉れない、それから其攻撃者に需要が獲られるといふことで以て東京電燈は非常に苦しんだのであります。それも結局仲裁者があつて後に合併はしましたが、二度も三度も此の不經濟、不合理極まる競争を繰返してをるのであります。一昨年は日本電力と競争し、それから今年は大同電力と競争しようとした始末で、此爲めに、所謂五大電力會社といふものが皆んな痛手を負つたわけです。

兎に角、非常な大きな投資で、獨占を許さなくちやならぬといふやうな性質のものでありますにも拘らず常に獨占を破るやうな結果を來たしたといふことを申上げたのですが、序でに、此五大電力會社が、非常に苦しんだ話を申し上げますと、御承知の通り、大正十三・四年頃から昭和にかけて、電力の需要が激増しました爲めに、日本の金融界では、電力會社の需要資金を背負ひ切れないやうになつた爲めに、五大電力會社は何れも、アメリカ、イギリスで社債を募集した。これが全部で一億二・三千萬弗になつて居りますが、此爲めに、御承知の通り、爲替が低落した爲めに——四十九弗八分ノ七といふのがパーですが——其當時に拂つた利息から申しますと倍以上、詰り、二十弗になりました場合には、二倍半の利息を拂はなければならぬといふやうなことで、而も、相當の高利で、七分、六分五厘、六分といふやうな高利で、借りて居りました爲めに、非常に高い利息を拂ふことになりまして、其結果、どれもこれも、配當を無くしたり、配當を減らし

たり、非常に苦しんだのであります。そこで、只今申しました、電氣事業の監督から申しますと、獨占を、
 ——これは遞信省が、破つたのでありますけれども、獨占を認めなくてはならぬ。随つて、統制しなくちや
 いけないといふ議論が、大分頭を擡げて参りまして、同時に金融資本家が、是亦電氣事業者に對して非常に
 多額の金を貸して居るのであります。全五大電力會社の九億の資本金に對して、約九億に近い貸金をして居
 る爲めに、金融業者が困り、これでは堪まらないといふことになつて、何とか統制をする必要があるとい
 ふ議論が出て、監督官廳と金融資本家との議論が一致しまして、昭和六年、其當時の遞信大臣の小泉次郎
 氏が主張して、三井銀行の池田成彬、三菱信託の各務鎌吉、日本興業銀行の結城豊太郎、それから住友銀行
 の八代則彦といふ金融業者を集め、其の上に今の五大電力會社の首腦者を入れまして、何とか一つ統制し
 て競争を避けて、相互の利益を尊重しようぢやないかといふことを言ひ出したのであります。そこで、仲々
 各事業會社の利害關係が錯綜して居るものでありますから、旨く話が出来ませんでした。最後に翌年の四
 月になつて、五大電力會社が電力聯盟といふものを作りまして、お互に相手の需要家を尊重する、契約を尊
 重する、其契約の切れた場合には、其供給を容認するとか、何んとかといふやうな、色々の事を定めたので
 あります。けれども、それでも利害關係の一致せぬ結果、協議が纏らなかつた場合には、池田、各務、結城、八代と
 いふやうな金融資本家を顧問といふことにしまして、顧問の裁定を受けて、其裁定には異議を稱へないとい
 ふことを約束したのであります。甚だ意氣地のない事で、事業者が要する金融資本家に、すつかり權力を
 握られてしまつた形であります。しかし此爲めに電力會社の基礎といふものが良くなりました。事が起る
 度毎に、電力聯盟で協議し研究して、尙電力聯盟の電氣事業者間で意見が纏まらない場合には、遂に顧問の

業類次第に
立直る

裁定を受けるといふことで、今日の平和の状態を持來たして居ります。

そこへ以て來まして、さつき申しましたやうに、外債關係で苦しんだ結果、みんな配當を減したり、配當
 を無くしたり、詰り、具體的に申しますと、東京電燈、宇治川電氣、大同電力は配當を無くしてしまつた。
 其の外の日本電力とか、東邦電力とかは、外債を償還することに努力をした爲めに、今日では外債は初め有
 つてゐた三分ノ一程度になりまして非常に樂になつた。其上御承知の通り、軍需工業の發展、所謂インフレ
 景氣と申しますか、其爲めに電力が昨年から非常な需要が起きまして、各會社共一陽來復と申しますか、急
 に成績が良くなりました。これまで、非常に不信用を來たして居つた電氣業者が立て直り、株主が無配・減
 配で、殊に株價の低落の爲め、例へば、東京電燈の如きは、五十圓拂込のものが十三圓位にまで下がつたこ
 とがありまして、非常に苦しんで來たのであります。漸く東京電燈は今期から配當が出来、それから又株
 の値も騰りましたので、株主も大分樂をするわけであります。殊に最近の電力の需要増進といふものが、ま
 だ當分止まないといふ見込みでありますから、どの電力會社も内容が良くなりました。其爲めに、一般經濟
 界にも好い影響を與へることになるだらうと思ひます。

そこで、電氣といふものゝ性質上、冬と夏とは、同じ發電所でも非常に電氣の出方が違ふのでありま
 す。詰り電源の話ですが、私共は能く「氷炭相容れず」と申しますが、電氣の方ではそれが同じ様に使はれて
 居るわけでありまして。詰り、水で以て發電が出来、それから石炭を焚いて電氣を造るといふわけで、氷炭相
 容れて居るわけがあります。さつきも申しましたやうに、日本が水力國である結果、水力が主として使はれ
 る、火力が約三分ノ一位しか使はれてゐないといふことですが、其水力といふものが、夏と冬とは

電力需要の
増加する冬
の濁水期に
は火力を以
て補ふ

非常に出方が違ふのであります。冬電氣の出方が少いといふのは、例へば、水力が澤山あるといふことは、要するに、高い山が在つて、川が其處から出て低い處へ行く、詰り落差が多いといふことが、電氣の爲めに必要でありますから、其爲めに山が氷で以て閉される時には流水が少くなる、随つて電氣が少くなるといふやうな結果に成るわけであります。日本では大體夏の間が、主として、四月から九月頃までが豊水期と申しまして、十分電氣がある時であります。それで以てどの位電氣が出るかといふと、豊水期は一ヶ月平均百五十九萬七千キロワットで、十月から翌年三月迄のウインター・シーズン六ヶ月を平均しますと、百四十五萬キロワット、約一割電氣が減るのであります。これは六ヶ月間の平均でありますけれども、若しも、冬期の一番水の少い時と比較しますと、豊水期の六ヶ月平均が、只今申しました通り、百五十九萬キロワット、約百六十萬キロワット、それから渴水期の二ヶ月間は百二十萬キロワット位しか出ない。詰り、約二割少くなるわけであります。即ち冬は水力が二割減るところへ以て来て、需要は二割以上増える所謂重負荷期に相當してをるのであります。と申しますのは、冬になると、御承知の通り、夜が長くなつて、夕方四時半頃から電燈をつけなければいけない。其處へ以て来て仕事は四時に終るわけには行かないから、動力と電燈とが重なり合つて同時に使はれるわけであります。以上の如く冬期は供給が減少する反對に需要が増加し差引四割位の補充を要することになる。其補充は火力でやられて居るのであります。これを若しも、水力が一年中同じ様に出る發電所をつくるといふことになると、一部分の水を豊水期には捨てなくてはならぬ、それでは非常に不經濟ですから、水の少い時は——出なくつても宜い、多い時は全部水が利用出来る様に設計してありますから、其爲めに冬の渴水期には、どうしても補充が要るのであります。其處でちよつと數字で申します

と、只今申しましたやうに、平水の時に一杯で、渴水になつても——減つても宜いといふ設計で行くと、先つき日本の水力の包蔵力といふものは千百萬キロワットと申しましたが、若し渴水時の量で一年中同じ様に出さうといふことになれば、四百二十萬キロワットといふものは減るわけであります。随つて電力は非常に不經濟ですから、冬は火力で以て調節するといふことを以て、大きい發電力の發電所を建設することになつて居るのであります。

それから、もう一つは、日本の様に細長い國は、處に依つて其所謂渴水といふ時期が違ふのであります。例へば、東北の方面は、此中部山岳地帯即ちアルプスの方面から觀ますと、雪も少い加減か夏も渴水が激しいことになつて居ります。それから北陸方面も、同じく夏の渴水が激しいものですから、これを有無相通じて行くといふことが必要な爲めに、今遞信省では、將來に向つて全國にどういふやうに大きな送電線を作つて、これを連絡すべきか——有無相通すべきかといふことを研究して居りますが、此點でも電氣事業といふものが、小さい縣營とか、市營とかいふことを超越して、全體を觀て計劃を樹てなくてはならぬといふことの理由となるのであります。

電氣の事は、甚だ不完全極まることではありますが、時間がありませんから、電氣はこれ位なことにいたしましたして、瓦斯の方へ移ることにいたしますが、瓦斯はこれも矢つ張り日本でもさうであります。ヨロツパでも電氣よりずつと古い沿革を有つて居るのであります。電氣の方は、さつき申しました様に、電燈のついたのが、約百三十年前でありましたが、瓦斯の方は、二百五十年ばかり前にクレイトンといふ人が、石炭を蒸焼きにして瓦斯が出るといふことを發見して、ムルドツクといふ人が是れを燈火に利用したのであります。

す。その燈がつく事になりました、其後ヴェルスバハがマントルを發明してから非常に發達しまして、日本には明治五年、横濱に瓦斯で以て燈をつけるといふ事業が起つたのであります。其當時は夜といふものは全然眞つ暗だったのであります、此爲めに非常に明るくなつて、横濱の人は驚いたといふやうなことで、色滑稽な話があるわけですが、それから東京では、その後明治七年に、此瓦斯の燈がついたのであります。それで、電燈はさつき申しました通りに、明治二十年頃から電燈事業といふものは起つたのであります。それから日露戦争の済む迄といふものは、電燈は需要がそんなに起らなくて大分瓦斯燈が多かつたわけであり、同時に瓦斯は今日の大盛の状態になつたのであります。殊に、最近には家庭用の熱といふやうな事でない、工業用に使はれて、此方面の發達が非常に廣く、電氣も同じであります、殊に軍需工業方面、それから製鐵、製鋼方面に非常に瓦斯の必要が起りまして、瓦斯會社の成績も各地共最近著しく良くなつたのであります。

瓦斯會社の
營業成績

所が、此瓦斯會社といふものは、今では内容が良くなつたのであります、これも電氣と同じで、一時は非常な苦しみを受けたのであります。それは電氣事業と反對に、歐洲戦争の當時、大正七・八年頃といふ時代に苦しみを受けたのであります。それは産業が盛んになつた爲めに石炭が暴騰したのであります。それで石炭が暴騰したといふことは、瓦斯の原價を高くするといふこと、瓦斯の原價を高くするといふことは、瓦斯代金を上げなくてはならぬことになる。が、當時の農商務省ですが、これが瓦斯料金の引上げを斷じて聽

かなかつた爲めに、非常な苦しみをしたわけであり、當時、鐵類の暴騰があつた爲めに、各地の瓦斯會社は瓦斯を供給したならば損だといふわけで、そいつをすつかり廢業して、鐵管を掘出して、それを賣つて旨い汁を吸つたといふやうな時代もあつたわけであり、其當時苦しんだ爲めに瓦斯會社といふものは、非常に正確な計算をやつて來まして、再び苦しみを受けないやうにといふので、有つて居る固定資産も、ほとんど償却しまして、電氣事業の方は殆んど償却を怠つて居りましたが、瓦斯事業は償却を十分以上やつて來た爲めに、今日は非常に良くなりまして、各地共、一割、一割二分、東京は八分ですが——といふやうな高配當をして、而も二十年か、二十五年で以て償却し得る様な、十分な計算を樹て、居るといふやうな状態になつて居ります。

瓦斯事業の
現勢

そこで、例に依りまして、瓦斯事業にどの位の投資がされて居るか、それから幾つ會社があるかといふことを申し上げます、これは昭和八年末の統計であります、瓦斯會社が全國で開業して居るのが百二ありまして、開業しないで許可を受けて居るものが十四、合せて百十六であります。電氣事業が七百幾つあることから觀て、非常な小さなものであります。それで投資金額も、固定資産は五億八千四百萬圓、電氣事業が今日約五十億になつて居ることから觀て、謂はゞ十分ノ一程度のものであるわけであり、

瓦斯事業に
は統制監督
が嚴重

が、しかし、どの瓦斯會社も眞面目な計算をして來た爲めに、瓦斯事業自身は各地共安定をして居るのであります、瓦斯事業は電氣の様に競争を許さなかつたのであります。これが瓦斯事業の安定した重大な理由であります、東京附近にありましては、現に前の濱口内閣時代には、郊外瓦斯とか、大都瓦斯とか、といふやうな舊市街以外の地に競争會社の出願が三つもあつたわけであり、統制上電氣の前轍を踏まな

い様といふ意味で、これを許可しなかつたが爲めに、非常に都合好く來て居るわけでもあります。但し、商工省はさういふやうに事業者を保護して呉れろと同時に、最も厳格な監督をして居ります。電氣事業の方は、たとへば、配當を増しても、増資して株主が利益を得ても、或は拂込みで利益を得ても、別に何等干渉いたしません。商工省は、例へば、八分のもので一割配當するといふことは、二分だけ株主が儲けるといふことになるから、どうしても瓦斯の値引を其程度しろ、増資をすれば、例へば、十二圓五十錢拂込が二十五圓になると、詰り約十二圓五十錢株主が利益を得る。それに當るものは瓦斯の値段から値引をせよ、といふやうに立入つた監督をいたしまして、どつちかと申しますと、資本主義を修正して資本家ばかりに利益を得させないといふやうな方針であるかのやうに観えるのであります。随つて、瓦斯事業は、保護も受ける代りに、さういふやうに監督も受けるといふことになつて居りますが、何れにしても、非常な安定した状態に現在になつて居ります。

電氣と瓦斯の最近と申しますか、日本の状態はこの位で終りまして、そこで何んと申しますか、甚だ生意氣な様であります。諸君が學校を出られまして、各種の事業に御就職に成るだらうと思ひますが、其場合に、どういふやうな考へを有つたら宜いかといふことをちよつと申上げたいと思ひます。

吾々の此所謂公益事業は、御承知の通り、民衆相手で、上は大臣から下は熊公、八公まで、各種の階級の人に供給するわけでありまして、要するに、親切、丁寧で以て、快活に行くといふことが極く必要なわけでありまして。それはどの事業でもさうであります。殊に此方面は、接觸する階級が各種であるが爲めに、其點を最も必要とするわけであります。それからもう其の外の事は、大體總論的に誰方も御承知だらうと思

親切丁寧快活に

特別な技能を練習せよ

ひますが、私共の體驗から行けば、各自が特に特異な技能なり、才能なりを有つといふことが、これが非常に必要だらうと思ひます。

例へば、其仲間の内で一番法律に明るいとか、或は爲替の事に堪能であるとか、或は經濟方面の研究が積んで居るとかといふやうに、普通の人以上に、知識を有つ、才能を有つといふことが、最も認められる原因だらうと思ひますが、私共がまあ矢つ張り諸君と同じやうに學校を出ましてから、約二十年になります。同じ様な過程を経て來て居りますが、其の内で結局さういふ特異な才能を有つといふことが、多少今日位置を得たとすればそれが原因して居るだらうと思ふ。諸君も其意味で、何んなりとも、或は官廳方面に友達があつて、諒解が得られるといふことも宜からうと思ひます。それから特に天眞爛漫で、顧客に受けが良いといふことも宜からう、法律に明るいといふことも宜からう。兎に角何等か普通人以上の才能を有つといふことに御努力あらんことを希望する次第であります。

(昭和九年十二月一日 中央大學講堂に於て)

土木・建築従事員たらんとする人へ

大倉土木株式會社常務取締役 武 富 英 一

土木と建築——土木と建築との相違——建築請負の法律的意義——「仕事ヲ完成スル」——
「目的物ニ瑕疵アルトキ」——熱あり意思の鞏固を望む——人格を高めよ——技術を磨け——
——経験を積み——常識を養へ——仕事に興味を持つ——研究心を起せ——膽力を養へ——
最も大切なものは人の和で直ぐ異を立てる者は禁物——學問も必要だが頑強な身體が先決
問題——學校で習つた事を基礎にして自分で工夫處理せよ——安月給でも一生懸命働くこ
とが出世の基——要領よく立廻ると結局損をする——利益よりも信用

私に與へられました題は「土木・建築従事員たらんとする人へ」といふのでありますが、私自身がアーキ
テクトで、技術を學んだものでありまして、且又請負會社に居りますので、自然お話し申上ることは、請負會
社に關係し、技術に携らうとする方々の方に片寄らんとも限りませんが、成るべくさうならぬやうに御話
をして見度いと存じます。

土木と建築

土木と建築、これは自ら相違がありまして、御承知の通り、土木に屬して居りますものは、鐵道、水道、
橋梁、道路、隧道、築港といふやうなもので、建築の方に屬して居りますものは、これも能く御承知の通り、

土木・建築従事員たらんとする人へ

土木と建築との相違

住宅、學校、官衙、病院、博物館、圖書館、銀行、會社、倉庫、工場或は記念建造物等々であります。

そこで、時々土木に屬するか、建築に屬するかといふ争ひが起ることがあります。例へば、橋梁の如きは、主體は土木でやるのに、上の裝飾の部分だけは、建築の方でやる事もありますために問題になる。鐵筋や鐵骨の構造に就いては、土木も、建築も殆ど違ひはない。たゞ、土木の方は、取扱ふ荷重が重い事が多いのであります。たゞそれ位の違ひでありまして、殆どコンストラクションとしては同じであります。然しながら、どうも氣分の上から申しますといふと、土木の方は、なほ昔の所謂投機的なものが多少残つて居るやうに思はれます。それは何故かと申しますと、隧道を掘るにしても、初めボーリングをやつて、色々地層を調べるのであります。當ることゝ、當らぬことがあります。例へば、石が多いと思つて懸かつたのに存外石が無ければ利益が上がる。或は石が無いと思つて懸かつたのに石が出て來れば損をする、といふやうな、所謂スベキュレーションに屬する點が未だ残つて居る。ところが、建築の方では、現今では最初から細かな計算をしまして、見積りますと、殆ど間違の無い豫想が立ちますので、まづスベキュレーションは、天災、戰亂、暴動等の不可抗力のやうな場合を想像しなければ起らないといふやうな状態になつて居ります。此不可抗力につきましては、御承知の通り、最近の關西大風水害で皆弱つて居ります。あゝいふ豫想もつかぬ又人力で以て防ぐことの出來ぬやうな災害を蒙つた場合に、現在の法律では事業の性質上、其損害は原則として悉く請負人が負擔しなければならぬやうになつて居るのは、少し無理ではないかといふやうなことが話題に上つて居るのであります。

建築請負の

さて、法律で請負とは、一體どういふものかと言ひますと、民法に書いてありますところでは、第六百三

法律的意義

十二條に 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フル

「仕事ヲ完成スル」

コトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス
とありまして、此中の完成といふことが、大變重要なことになつて居ります。完成しなければ義務を果したといふことにならない。これにも時々問題が起りますが、例へば設計に缺陷があつたが爲めに、何度やつても潰れる、拵へる途中に於て潰れる。さうすると、結局これは完成出來ないぢやないか、然るに、完成といふことが、請負の本質の重要な事項であるならば、一體これはどういふことになるだらうか。初めから完成が出來んやうなものなら、請負はぬがいゝぢやないかといふことになる。頗る御尤もな話であります。初めに設計の批評を差許されるならば、吾々の持つてゐる知識で判断して、これは出來るとか、出來ないとかいふことになるのであります。批評を許されなければ途中で壞れるか、當然壞れさうなヒドイものは分りますが、壞れるか、壞れぬか疑問の存するやうなものは、吾々も強度計算でもやつて再検討して見なければ、ちよつと見當が付かないといふことになるので、さういふ時には大變問題が起るわけであります。

又、第六百三十四條に

「目的物ニ瑕疵アルトキ」

仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ補修ヲ請求スルコトヲ得

とあり、又、其次の條に、瑕疵があつたらば請負契約を破棄してもいゝとか、或は損害賠償の請求が出來るとかいふやうなことがあります。ですから此瑕疵を作ることには大禁物であります。それで尠く共私共のやう

な請負業に屬して居ります方面に、土木、建築に志す方がありましたならば、それは、事務屋であらうとも、技術屋であらうとも、此二つの事柄を忘れてはいかんであります。自分の引受けた仕事を完成するといふこと、それに關して瑕疵の起らぬやうな良い仕事をするといふことだけは、これはどうしても忘れてはならぬことでもあります。

物を完成するといふことの爲めに必要なことは、熱があり意志の強いといふことでもあります。途中で物を抛け出すやうではいかん、飽く迄も粘つて最後まで仕遂げるといふ氣力を有つてゐなければいけない。これは非常に必要なことでもあります。仕事の途中で、厭氣が差すやうな方は請負人向きではない、否、請負人向きといはなくとも、土木・建築に向く人ではないと思ふ。飽く迄も物を完成する、最後まで物を見届けるといふ氣がなくてはいけないと思ふ。

私は人間が充分に出来て居れば、誰でも如何なる仕事にも向くものであらうと思つて居りますが、私共の會社で手近の者に次のやうな事柄を説くのであります。極めて平凡のことではありますが、夫を御話して見ませう。第一は人格を高めなければならぬといふこと。何人でも人間は下等に成れといふ人はないのでありますけれども、殊に請負業に於きましては、請負師と呼んで、一種特別な氣分を有つて居りました時代と、今日請負會社、一つの法人組織といふやうなものを形造るやうになりました時代との間には尠からず相違があります。吾々の業界も努めて向上して今日に及んで來たのであります。請負師と自ら卑下することは、また人の侮りを受けることになるのであります。矢張りこれは正當なる營業である以上は、これに従事する者も亦人格の向上を圖らなければならぬといふことは、今日の時代として當然の事だらうと思ふのであります。

熱あり意思の鞏固を望む

人格を高めよ

技術を磨け

第二に技術を磨けといふこと。これは自分が技術屋であるものですから、特に私の手近かに居ります者には、さういふのであります。自分の技術の進歩といふことを心懸けなければいかん。これには學問があれば尙良し、學問が無くとも知識の吸収に努めるといふことが大切な事なのです。私は學生に向つてよく言ふことですが、學校といふものは、恰度生徒を先づ乘客に譬へれば、汽車へ乗せて或處迄運ぶといふ約束をするやうなものである。東京から出て小學校は横濱で下す、中學校は國府津で下す、専門學校は名古屋で下す、大學は大阪迄連れて行くといふ風に、何處迄連れて行くといふ約束をするやうなもので、其間左を觀れば品川灣があるとか、右を觀れば富士があるといふやうなことを説明しながら、兎に角、或約束の停車場へ行くとか、其處で小學校は終りになつた、中學校は終りになつた、専門學校は終りになつたといつて下す、下された途端に其處で足固めをして下關を志して歩き出す者があるならば、これは何れの日にか下關に著く。ところが、大學を出ていゝ加減なところで慢心してしまつて、大阪に降りた途端にブラットフォームへ胡坐をかいてしまふ奴がある。これは遂に下關迄行くことの出来ぬ奴である。それであるから、まづ何處へ下されようと、兎に角自分の目的を立て、其處迄行くといふ覺悟で足固めをして歩き出すのでなければいかん。斯ういふことを私は言ふのであります。處が、私共の事業に於ては、なアに請負なんかやるに學問も何も要るものか、などと能く言ひたがるものであります。昔の請負師は能くさういふことを言つた。ところが、今では却々さういふことではいかん、どうも學問・知識を段々吸収しないといふと請負もむづかしくなる。例へば、最近やつて居ります、地下鐵のやうなものでも、なアに、あれは土の下に穴を掘りさへすればいいといふやうな、滅茶苦茶な穴の掘り方では出来ない、矢張り地質に應じて周圍の土壓を考へたり、又、上に自動

車や電車等が通つて居れば、其荷重を考へたり橋梁のやうな工作をしながら仕事をするのであります。これは必ずしも大學を出ないから出来ないといふのではない、志さへあつて、勉強する人は誰にでも出来るのであります。どうしても、私は、技術屋といふものは技術の練磨を始終考へて居なければならぬ、自分の技術の進歩を圖らなければならぬ、斯う言つて居るのであります。

第三に、経験を積まなければならぬといふこと。経験といふことは、繰返すといふことゝは違ふのであります。能く繰返すことを経験だと思つて居る人がある。私は始終誠めるのに、繰返すのは経験ではない、一回よりも二回に進歩がなければならぬ、進歩がなければ経験ではない。同じ様な事をやつても、二度目の方が出来が良いといふのでなければ経験でない。物を観るのでも、二度目に早く物が観通せるやうでなければ経験ではない、最初に観た時と、十遍目に観るときと物が同じ様に観えるならば、其人の眼は節穴に等しい、生きて居る眼ではない。「私は此仕事を十年やつて居ります」などと経験を鼻にかけるやうな者でも、同じ仕事を十年繰返して進歩がなかつたならば、其人は経験を積んだとは謂へない。恰も砂を盛り上げては崩し、盛り上げては崩して居るやうなもので、次々と盛り上げた上へ積むのでなければならぬ。斯ういふのであります。但しいくら経験を積んでもこれを持むと危険を生ずることに注意しなければなりません。

第四に常識を養へといふことでもあります。常識を廣く持たなければならぬ。これは、先程申上げましたやうに土木や建築で取扱ふ仕事は種類が多くあります、凡ゆる方面の仕事をしなければなりませんので、「私は病院の事は非常に精通して居るが、どうも學校の事は一つも知りません」といふのでは、矢張り其仕事を取扱ふのに都合が悪い、何んでも常識的に知つて居る人の方が宜い。けれども、良く考へて見ますと、私

共の持つて居る所謂専門の知識といふのは、これは専門だか何だか分りませんが、まあ常識の少し素人放れしである位なところでありませう。大抵今専門だなどと言つて居ることは、もう少し時代が進歩して来れば、皆常識になつて来るだらうと思はれるもので、特に専門といつて宜いかどうか解りません。まあ卑近な例を引いて見ましても、昔の原始時代、疵をすれば大抵舐めて治して居つたとかいふやうな時に、今吾々が知つて居るところの硼酸軟膏をつけるとか、クロロフォルムをつけるとか、さア、オキシフルで洗へとかいつたら「偉い醫者だ」と言はれたであらうが、今ではそれを知らん方が可笑しい、そんな事は常識として知つてゐなければならぬ。今専門だなど大きな事を言つて居るが、もう少し經てば常識程度になつてしまふ。専門學校などといふものは、常識學校程度になるだらうと思ふのであります。兎に角、吾々のやる仕事は常識的な事が多い、さうして、亦、常識で判断した方が間違ひがないことが澤山有るのであります。「智者は智に溺れる」「猿も木から落ちる」「河童の川流れ」といふ諺があります。どうも、學問知識だけを持つといふものは色々の條件を入れて取扱つて、其結果が一種の公式といふ形になつて居るのでありますから、條件を一々吟味して見ないといふと、其公式が本當に當て嵌まるかどうか分らぬ。それを馬鹿の一つ覚えといふやつで、公式のXやYに、單に數字をドシドシ當て嵌めて、さうして出来たものが、もう動かすべからざるものゝやうに思ふ。其XやYには因數としてどれ位の重要性を考へなければならぬかといふことを充分考慮しながらやるところに、始めて公式を使ふ値打がある。何んでもかでも、滅茶苦茶にやつては、決して正鵠なる結果が得られるものでない。それは経験から推して、常識で考へて見て、先づ落ち付く處は此邊ぢやない